

HP Project and Portfolio Management Center

ソフトウェアバージョン:コンテンツパック2.0

Operational Reportingユーザーガイド

ドキュメントリリース日:2014年9月(英語版)
ソフトウェアリリース日:2014年9月



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 1997 - 2014 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe®は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社) の登録商標です。

Microsoft®およびWindows®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。

<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP Passport のログインページの **[New users - please register]** リンクをクリックします。

適切な製品 サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、最新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

次の表に、最後にリリースされたエディション以来、このドキュメントに加えられた変更点を示します。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。<http://www.hp.com/go/hpsoftwaresupport>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧いただけます。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやITILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLは<http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>です。

目次

第1章: はじめに	9
PPM Operational Reportingへようこそ!	9
このドキュメントの対象読者	10
関連ドキュメント	10
PPM Centerドキュメントへのアクセス	11
HP Live Networkに関するOperational Reportingのコンテンツ	11
HP Live Networkへのログオン	12
電子メール通知の申し込み	12
第2章: Operational ReportingでのExcelレポートの使用	15
ソフトウェア要件	15
PPM CenterでExcelレポートを使用するための設定	16
Excelレポートの実行	17
デマンド対キャパシティレポート	17
プロジェクトステータスリストレポート	17
財務サマリレポート	18
タイムシートコンプライアンスレポート	18
ETLジョブ履歴レポート	19
第3章: 運用レポートでのBusinessObjectsの使用	20
BusinessObjects InfoViewへのログオン	21
複数言語のOperational Reportingのロケールの設定	22
HP Project Managementのレポート	22
本章の概要	23
プロジェクトステータスリストレポート	23
レポートデータのグループ化	23
プロジェクトステータスリストレポートの実行	24
プロジェクトステータスリストレポートの結果	28

プロジェクトステータス詳細レポート	30
[Project Issues] タブ	35
[Project Risks] タブ	37
プロジェクトステータスリストレポート およびプロジェクトステータス詳細レポートのコスト 情報の解釈	39
[Project Scope Changes] タブ	39
HP Project Managementのアドホックレポート	41
HP Project Managementのアドホックレポートのコンテキスト	42
HP Project Managementデータに関するレポートのベストプラクティス	43
工数とコスト測定値からのプロジェクトマネージャ名の分離	43
実績工数が記録されていないサマリタスク: 地域情報の欠落	44
実績工数が記録されていないサマリタスク: レポート結果の追加行	44
所定のプロジェクトに対して同じ名前を持つ複数のタスクの工数のレポート	44
プロジェクトの見積もり残存工数に関するレポート	45
運用レポートでのコスト値の解釈	45
HP Project Managementのアドホックレポートの作成	45
HP Project Managementデータに関するアドホックレポート: 例	46
All Effort by Project	54
Project Effort by Task	55
Project Effort by Resource	57
所定のプロジェクトの実績工数とスケジュールされた工数の地域配布	58
次週に開始および終了するプロジェクトタスク	59
現在の作業計画とベースライン作業計画の属性の比較	61
Project Status by Project Manager	62
Total Scheduled Effort Vs Actual Effort	64
HP Resource Managementのレポート	67
本章の概要	68
Demand Vs Capacity Report (デマンドVsキャパシティレポート)	68
レポートデータのグループ化	69
Demand Vs Capacity Reportのデータに影響する地域カレンダー	71
名前付きリソースのキャパシティ	72
名前なしリソースのキャパシティ	73
デマンド	73
Demand Vs Capacity Reportの実行	74
Demand Vs Capacity Reportの結果	77

HP Resource Managementのアドホックレポート	79
HP Resource Managementのアドホックレポートのコンテキスト	79
HP Resource Managementデータに関するレポートのベストプラクティス	81
複数のビジネス目標を含むプログラムにおけるビジネス目標ごとのプログラムメジャーのグループ化	81
リソースプールに複数のマネージャが含まれる場合のリソースプールメジャーのクエリ	82
データ計算に対するカレンダー設定変更の影響	82
複数のマネージャを含むプロジェクトのクエリ	82
デマンド、キャパシティ、および工数データのFTE単位での表示	83
リソースマネージャ階層に最上位レベルマネージャが含まれない場合のリソースに関するレポート	83
大規模データベースに対するクエリ	83
リソースの過剰割り当ての計算	84
ポジションのロールとそのポジションにアサインされたリソースのロールの比較	84
HP Resource Managementのアドホックレポートの作成	84
HP Resource Managementデータに関するアドホックレポートの作成: 例	85
リソースプールのすべてのリソース	93
プロジェクトのベースラインデマンドとアクティブなスタッフィングプロファイルデマンドの比較	96
デマンド、キャパシティ、および実績工数のレポート (プライマリ組織単位ごとにグループ化)	97
合計デマンドとキャパシティの比較 (追加のリソースプールデータ付き)	99
地域ごとのリソースプール	100
リソースカテゴリごとのすべてのリソース	102
スタッフィングプロファイルごとのリソースおよびロールに関するすべてのアサイン (すべての工数を表示)	102
リソースのスタッフィングプロファイルの詳細	104
HP Time Managementのレポート	105
Time Sheet Compliance Report (タイムシートコンプライアンスレポート)	105
タイムシートコンプライアンスレポートクエリの情報	106
Time Sheet Compliance Reportの結果	110
[Direct Manager] タブ	111
[Org Unit] タブ	112
[Resource Pool] タブ	114
HP Time Managementのアドホックレポート	115

HP Time Managementのアドホックレポートのコンテキスト	116
HP Time Managementデータに関するレポートのベストプラクティス	117
複数の作業項目タイプに関するレポート	117
メジャーを要約した結果の不正確なデータ表示の回避	117
コンプライアンスメジャーに関するレポート	117
ロールおよび地域	118
値およびパーセントの集計	118
フィルタを使用したレポート出力の制限	118
ポジションのロールとそのポジションにアサインされたリソースのロールの比較	118
大規模データベースに対するクエリ	119
HP Time Managementのアドホックレポートの作成	119
HP Time Managementデータに関するアドホックレポートの例	120
未済タイムシート	120
HP Time Managementデータに関する追加のアドホックレポート	126
遅延タイムシート送信のトレンド	126
タイムシート処理のトレンド	127
プロジェクトに記録された請求可能時間のトラッキング	128
リソースの進行中作業	129
HP Time Managementレポートのクエリを作成する際に考慮する必要がある問題	131
HP Financial Managementのレポート	131
本章の概要	131
Financial Summary Report (財務サマリレポート)	132
Financial Summary Reportの実行	132
HP Financial Managementのアドホックレポート	136
HP Financial Managementのアドホックレポートのコンテキスト	137
HP Financial Managementデータに関するレポートのベストプラクティス	138
プログラムが複数のビジネス目標を含む場合のビジネス目標ごとのプログラムメ ジャーのグループ化	139
大規模データベースに対するクエリ	139
Financial Summary Reportでの年次粒度の選択	139
プログラムの財務サマリの無効化	140
ポジションのロールとそのポジションにアサインされたリソースのロールの比較	140
HP Financial Managementのアドホックレポートの作成	141
プログラムごとの資産、提案、およびプロジェクトの例	141
予算超過のプロジェクト、提案、資産、およびプログラム(日付別)	144

プログラムのライフサイクルエンティティとサブプログラム	146
組織単位の承認された予算情報(地域別)	149
プログラム、組織単位、およびライフサイクルエンティティの財務データ(ユーザーデータ フィールドのデータを含む)	149
レポートポートレット	150
Operational Reportingポートレットの概要	151
運用レポートリストポートレット	151
運用レポートポートレット	152
運用レポートポートレットのセキュリティ	152
PPM Dashboardページへの運用レポートポートレットの追加	153
アドホック運用レポートへのカスタマイズされたPPM Centerデータフィールドの追加	156
運用レポートへのユーザーデータフィールドの追加	156
ユーザーデータフィールドを表すためのユーザーデータオブジェクトの編集	157
ユーザーデータフィールドを含めるためのアドホックレポートの編集	159
運用レポートの保存および共有	160
Excelスプレッドシートとしてレポートを保存する際の制限事項	161
回避策	161
ドキュメントのフィードバックを送信	162

第1章: はじめに

- [「PPM Operational Reportingへようこそ!」\(9ページ\)](#)
- [「このドキュメントの対象読者」\(10ページ\)](#)
- [「関連ドキュメント」\(10ページ\)](#)
- [「HP Live Networkに関するOperational Reportingのコンテンツ」\(11ページ\)](#)

PPM Operational Reportingへようこそ!

Project and Portfolio Management Center (PPM Center) のOperational Reporting機能によって、PPM Centerのデータに関してリッチな対話型レポートを作成できます。この機能を使用することで、週次レポートの配布、カスタマへのパーソナライズされたサービスの提供、または企業ポータルへのビジネスクリティカル情報の統合が可能になります。

このドキュメントでは、BusinessObjectsのWebデスクトップツールであるInfoViewを使用して、HP Project Management、HP Resource Management、HP Time Management、HP Financial Managementのデータに関して運用レポートを生成する方法について説明します。章では、がその実行方法に関する解決策および手順を提供している事前設定済みの運用レポートと、PPM Centerのデータを対象に作成できるいくつかのアドホックレポートについて説明し、アドホックレポート用のWeb Intelligenceドキュメントおよび構築クエリを作成する方法の詳細な例を提供します。

PPM Centerバージョン9.30では、Operational ReportingでHPが提供する上記の各レポートをExcel形式で使用できます。このドキュメントでは、BusinessObjectを使用せずにPPM Center内でExcelレポートを使用する方法について詳しく説明します。

注: このOperational Reportingプラットフォームでは、今後もPPM Centerのレポートが新しく開発される予定です。

このドキュメントの対象読者

このドキュメントは、PPM Centerのユーザ(特に、直属マネージャ、リソースマネージャ、プロジェクトマネージャとして作業するユーザ)を対象としています。読者は、すべてのPPM Center製品の機能およびSAP BusinessObjectsについて十分な知識を持っていることが前提となります。

関連ドキュメント

この項では、Operational Reportingユーザにとって有益な情報を含むHPおよびSAP BusinessObjectsのドキュメントを一覧します。HPでは、HP Operational ReportingソフトウェアCDにおいて、SAP BusinessObjectsの関連ガイドをPDF形式で提供しています。一覧されているHPドキュメントの入手方法の詳細については、「[PPM Centerドキュメントへのアクセス](#)」(11ページ)を参照してください。

次のHPドキュメントには、Operational Reportingユーザにとって有益な情報が含まれません。

- リリースノート
- Operational Reporting Administrator's Guide
- Data Model Guide (PPM CenterとOperational Reportingの両方のデータモデルの内部構造の詳細について説明)
- Reports Guide and Reference
- HP Project Managementユーザーガイド
- HP Financial Managementユーザーガイド
- HP Resource Managementユーザーガイド

- HP Time Managementユーザーガイド
- HPエンティティガイド (PPM Centerのすべてのポートレット、リクエストタイプ、およびワークフローの説明を含む)

SAP BusinessObjects Enterpriseの詳細については、SAPドキュメントを参照してください。

PPM Centerドキュメントへのアクセス

すべてのHP PPMドキュメントを入手するには、HPソフトウェア製品 マニュアルWebサイト (h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals) にアクセスします。このWebサイトにアクセスするには、最初にHP Passportアカウントを設定する必要があります。

HP Live Networkに関するOperational Reportingのコンテンツ

HP Live Network (HPLN) は、製品エキスパート、パートナー、カスタマーが共同して、知識、ベストプラクティス、HPソフトウェア製品 (PPM CenterおよびOperational Reportingを含む) のアドオンコンテンツを共有するための、オンライン仮想コミュニティです。HPLN上のOperational Reportingのコミュニティページにログインすると、Operational Reportingの最新ニュース、更新プログラム、ドキュメントにアクセスできます。Operational Reportingのコミュニティページから参照するか、電子メールによる通知の受信を申し込むことができます。

PPM Centerのすべてのカスタマは、HPLNへ無料でアクセスできます。PPM CenterおよびOperational Reportingのコミュニティページにアクセスするには、HPパスポートアカウントを持っている必要があります。

注: [Announcements] フォーラムには、プロジェクト所有者と管理者のみが投稿できます。プロジェクト所有者または管理者でない場合、フィードバックはプロジェクト所有者または一般的なディスカッションフォーラムにお寄せください。

HP Live Networkへのログオン

HPLN上のOperational Reportingコンテンツにアクセスするには、次の手順を実行します。

1. HP Live Network上のOperational Reportingのコミュニティページ (h22038.www2.hp.com) に移動します。
2. [HP Passport sign-in] ページにログオンします。
3. Operational Reportingに関する最新のアナウンスを表示するには、[Operational Reporting Content Announcements] リンクを選択します。
4. HPマニュアルサイトからOperational Reportingドキュメントにアクセスするには、[Help and Support] で、[Download Documentation] をクリックします。

次の各ドキュメントへのリンクがリストされています。

電子メール通知の申し込み

HPLN上のアナウンスとディスカッションの電子メール通知の受信を申し込むには、次の手順を実行します。

1. [Operational Reporting Content delivery] ページの [Latest Announcements and Discussions] 見出しで、[Manage Notifications] をクリックします。

i Customers: For access, you must have an HP Passport account, and you must have entered in your products SAIDS, here: <http://support.openview.hp.com/entitlement/contracts>
 HP Employees: For access, you must validate yourselves as an Employee, here: [http://support.openview.hp.com / Log in / edit profile / validate as employee](http://support.openview.hp.com/Log%20in/edit%20profile/validate%20as%20employee)
 Please refer to [the BSAEN and LNC HPP Migration Guide](#) for further information, and the [Help and Support](#) pages.

[Request project membership/role](#)

Operational Reports Content for Project and Portfolio Management

Welcome to the Operational Reporting Content delivery page. Operational Reporting for Project and Portfolio Management provide users with realistic examples of business reporting across the Project and Portfolio Management functional areas.

<p>Overview</p> <p>HP has developed Operational Reporting for Project and Portfolio Management based on SAP BusinessObjects. Note that an SAP BusinessObjects Enterprise XI 3.1 installation ships with the PPM Center media. For questions regarding this content, please see the Project and Portfolio Management discussion forums or open a support case, if needed.</p> <p>Use the download link to get the PPM Center software installation bundle and documentation. HP recommends that you download the Operational Reporting Administrator's Guide and Operational Reporting Release Notes before you download the software.</p> <p> Operational Report Download</p>	<p>Project Info</p> <p>Your Role(s): Content Viewer Project Owner(s): raimohanr_hp_com, sarowar_sikder_hp_com</p> <p>LNC Enabled? No</p> <p>Quick Links</p> <p> Download Reporting Content</p> <p>Help & Support</p> <p>Help and how-to documentation for Operational Reporting Content for Project and Portfolio Management</p> <ul style="list-style-type: none"> Support Home Page Review an Open Ticket* Search Support Knowledge Base* Submit a Support Case*
--	--

Latest Announcements and Discussions [[Manage notifications](#)] [[View all](#)]

[Operational reporting Content Announcements](#) [RSS](#)

- [Welcome!](#) [Mon, 20 Jun 2011 15:33:06 GMT]

Related Discussions

- [PPM Announcements and Discussions](#)

2. [Manage notifications] ページで、[Subscribed] チェックボックスを選択し、[Save Changes] をクリックします。

[Discussions](#) > [Manage notifications](#)

i Customers: For access, you must have an HP Passport account, and you must have entered in your products SAIDS, here: <http://support.openview.hp.com/entitlement/contracts>
 HP Employees: For access, you must validate yourselves as an Employee, here: [http://support.openview.hp.com / Log in / edit profile / validate as employee](http://support.openview.hp.com/Log%20in/edit%20profile/validate%20as%20employee)
 Please refer to [the BSAEN and LNC HPP Migration Guide](#) for further information, and the [Help and Support](#) pages.

<input checked="" type="checkbox"/> Subscribed	Title	Messages	Latest post	Notification
<input checked="" type="checkbox"/>	Operational reporting Content Announcements	1	2011-06-21 15:00:05 GMT	Message-by-message

Announcements for content updates for Operational Reporting content for PPM. These same announcements may also be sent to the main PPM Announcements forum along with others as desired by management. Announcements may be subscribed to via email or browsed via the web. Please note that announcement forums are one way - customers should use the relevant General Discussion forum as appropriate for any questions regarding these announcements.

Discussions per page:

Operational Reportingのコミュニティページには、サポートチケットの送信、HP Support Onlineへのアクセス、およびサポートナレッジベースの検索を行うことができるページへのリンクが用意されています。HP Project and Portfolio Management Centerのコミュニティページへのリンクも用意されています。

第2章: Operational ReportingでのExcelレポートの使用

この章では、BusinessObjectsを使用せずに、PPM CenterでHPがOperational Reportingで提供するExcel形式のレポートを使用する方法について説明します。

HPが提供するExcelレポートは次のとおりです。

- デマンド対キャパシティレポート
- プロジェクトステータスリストレポート
- 財務サマリレポート
- タイムシートコンプライアンスレポート
- ETLジョブ履歴レポート

ソフトウェア要件

HPが提供するExcelレポートを使用するには、次の要件を満たす必要があります。

- PPM Centerバージョン9.30

PPM Centerバージョン9.30のインストール方法については、『Installation and Administration Guide』を参照してください。

PPM Centerバージョン9.30のアップグレード方法については、『Upgrade Guide』を参照してください。

- Operational Reporting Content Pack 2.0

Operational Reporting Content Pack 2.0のインストールまたはアップグレードの詳細については、『Operational Reporting Administrator's Guide』の「Content Pack 2.0」を参照してください。

- Microsoft Excel® 2007～2013

PPM CenterでExcelレポートを使用するための設定

PPM CenterのOperational ReportingでExcelレポートを使用する場合は、`server.conf`ファイルに次のサーバ設定パラメータを追加する必要があります。`server.conf`ファイルの編集の詳細については、『Installation and Administration Guide』を参照してください。

パラメータ名	説明
REPORTING_JDBC_URL	Operational Reportingのデータベーススキーマを含むデータベースのロケータ。
REPORTING_DB_USERNAME	Operational Reportingのデータベーススキーマ使用時のユーザ名。
REPORTING_DB_PASSWORD	Operational Reportingのデータベーススキーマ使用時のパスワード。

注: Operational Reportingのデータベース使用時のパスワードは、PPMのデータベース使用時のパスワードと同じ方法で暗号化できます。パスワードの暗号化の詳細については、『Installation and Administration Guide』を参照してください。

Excelレポートの実行

Operational ReportingのExcelレポートは、PPM Centerの標準 インタフェースで他のPPM Centerのレポートを実行する場合と同じように実行できます。

レポートの実行方法の詳細については、『Reports Guide and Reference』を参照してください。

デマンド対キャパシティレポート

このレポートには、指定したリソースプールのリソースデマンドに加え、各リソースプールの割り当てと利用可能な容量がリストされます。

レポートパラメータ		デフォルトに戻す	
*Begin Period:	<input type="text"/>	*End Period:	<input type="text"/>
*Primary Grouping:	ロール	*Time Granularity:	月
*Time Unit:	FTE	Resource Pool:	<input type="text"/>
Region:	<input type="text"/>	Role:	<input type="text"/>
Resource Category:	<input type="text"/>		

これらのパラメータの説明については、「[Demand Vs Capacity Reportの実行](#)」(74ページ)の表を参照してください。

プロジェクトステータスリストレポート

このレポートには、プロジェクトのリストが詳細なステータス情報とともに表示されます。

レポートパラメータ		デフォルトに戻す
*Primary Grouping:	プログラム	Project Name:
Overall Health:		Project Manager:
Region Name:		Request Type:
Project Type:		Business Unit:
Project Class:		Project Status:
Program Name:		

このレポートのパラメータの説明については、「プロジェクトステータスリストレポートの実行」(24ページ)の表を参照してください。

財務サマリレポート

このレポートでは、指定した期間の現在の財務情報、予測財務情報、および承認済み財務情報を比較できます。

レポートパラメータ		デフォルトに戻す
*Begin Period:		*End Period:
*Multiply Factor:	1	*Report Currency:
Business Objective Name:		Business Unit:
Financial Summary Name:		Financial Summary Type:
Region Name:		

このレポートのパラメータの説明については、「Financial Summary Reportの実行」(132ページ)の表を参照してください。

タイムシートコンプライアンスレポート

このレポートには、タイムシートの送信、リソースプールの承認コンプライアンス、および指定した期間の組織単位が表示されます。

レポートパラメータ		デフォルトに戻す
*Period Range Beginning Date	<input type="text"/>	
*Period Range Ending Date	<input type="text"/>	
Time Sheet Line Status(es)	<input type="text"/>	
Time Sheet Status(es)	<input type="text"/>	
*Tolerance for Approval (days)	<input type="text"/>	
*Tolerance for Submission (days)	<input type="text"/>	
*Top Org Unit	<input type="text"/>	
Request Type Name(s)	<input type="text"/>	
Project Name(s)	<input type="text"/>	
Location Code(s)	<input type="text"/>	
Resource Category	<input type="text"/>	
Department(s)	<input type="text"/>	
Company(s)	<input type="text"/>	
Charge Code Name(s)	<input type="text"/>	

このレポートのパラメータの説明については、「[表 5-1. タイムシートコンプライアンスレポートクエリのプロンプト](#)」(107ページ)を参照してください。

ETLジョブ履歴レポート

このレポートには、ETLの詳細な履歴情報が表示されます。

レポートパラメータ		デフォルトに戻す
Enter value(s) for Batch Id:	<input type="text"/>	Enter value(s) for Etl Name: <input type="text"/>
Enter Job Start Date:	<input type="text"/>	Enter Job End Date: <input type="text"/>
Enter value(s) for Status:	<input type="text"/>	

このレポートのパラメータは次のとおりです。

フィールド名	説明
Enter value(s) for Batch Id:	ETLジョブ履歴の絞り込みに使用するバッチID
Enter value(s) for Etl Name:	指定したETLジョブ名でのETLジョブの履歴検索
Enter Job Start Date	指定した日付後に開始するETLジョブの履歴検索
Enter Job End Date	指定した日付前に終了するETLジョブの履歴検索
Enter value(s) for Status	指定したステータスのETLジョブの履歴検索

第3章: 運用レポートでの BusinessObjectsの使用

この章では、BusinessObjectsのWebデスクトップツールであるInfoViewを使用してOperational ReportingでHPが提供する各種レポートを実行する方法、およびアドホック運用レポートを作成する方法について説明します。

HPが提供するレポートは次のとおりです。

- HP Project Managementデータ用のプロジェクトステータスリストレポート
プロジェクトステータスリストレポートには、次のリンクされたレポートが含まれます。
 - プロジェクトステータス詳細レポート
 - プロジェクト問題レポート
 - プロジェクトリスクレポート
 - プロジェクトのスコープ変更レポート
- HP Resource Managementデータ用のデマンド対キャパシティレポート
- HP Time Managementデータ用のタイムシートコンプライアンスレポート
- HP Financial Managementデータ用の財務サマリレポート

BusinessObjectsとInfoViewに関する知識が限られている場合でも、HPが提供するこれらのレポートを使用して、わかりやすい明快なデータを生成するレポートクエリを迅速に実行できます。これらの事前設定済みの各レポートは、BusinessObjectsのWebデスクトップであるInfoViewを使用して表示および操作できるWeb Intelligenceドキュメントです。

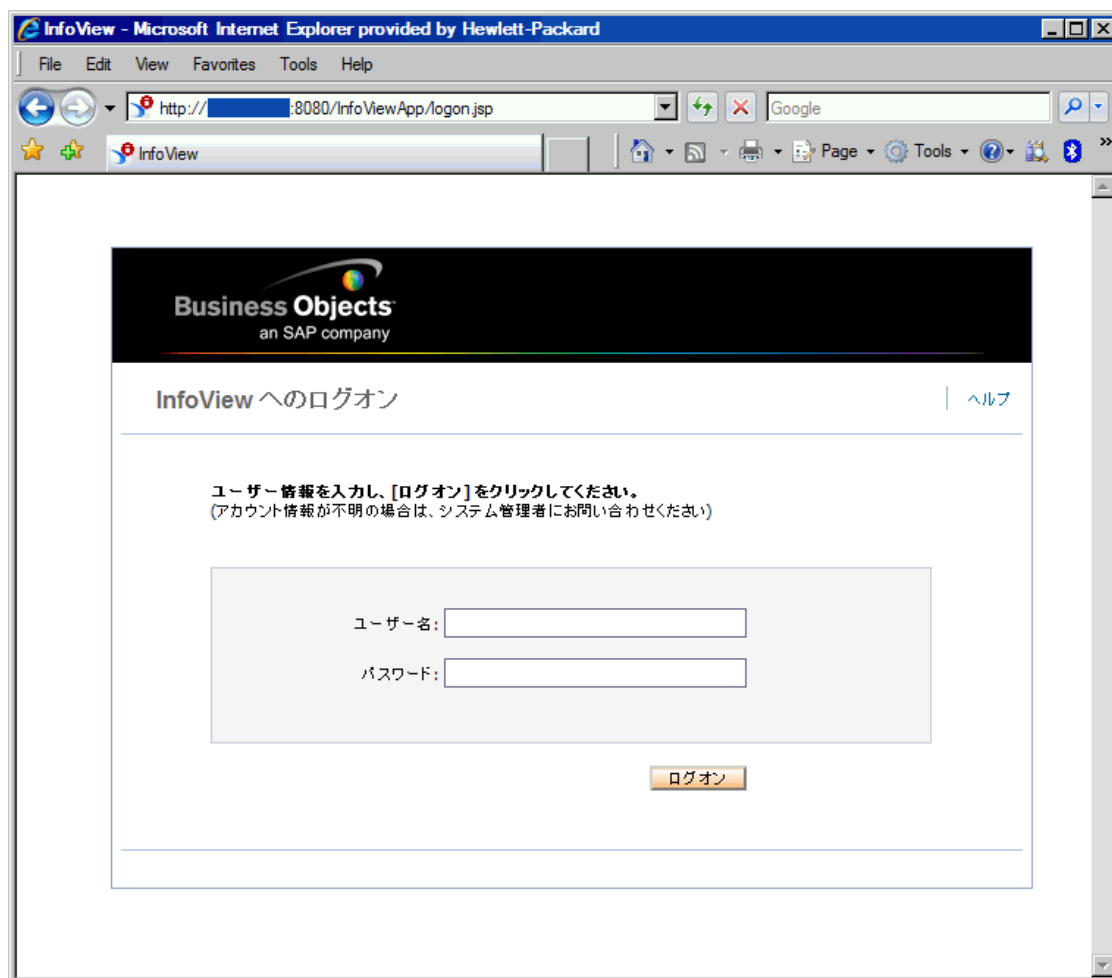
HPが提供する各レポートには、設定済みとして使用するか、データを異なる方法でフィルタするように変更できるプロンプトの関連セットが含まれます。これらのレポートは、典型的な使用事例向けに設計されています。詳細については、後の章を参照してください。

BusinessObjects InfoViewへのログオン

BusinessObjects InfoViewにログオンするには、次の手順を実行します。

1. レポート管理者が提供するInfoViewのURLに移動します。URLは次のとおりです。

http://<BusinessObjects_Server_Name_or_IP>:8080/InfoViewApp/logon.jsp



2. [ユーザー名] ボックスに、レポート管理者から提供されたユーザ名を入力します。

3. [パスワード] ボックスに、レポート管理者から提供されたパスワードを入力します。
4. [ログオン] をクリックします。

複数言語のOperational Reportingのロケールの設定

組織で複数言語のOperational Reportingが有効になっていて、InfoViewの英語以外のインスタンスを表示している場合、運用レポートの数値と日付が使用しているロケールに対して正しく表示されるように、InfoViewを設定する必要があります。

数値と日付が使用しているロケールに対して正しく表示されることを確認するには、次の手順を実行します。

1. Webブラウザのウィンドウを開いて、InfoViewにログオンします。
2. [基本設定] をクリックします。
3. [基本設定] ページの[全般] セクションで、下にスクロールし、[優先表示ロケール] リストからロケールを選択します。
4. [OK] をクリックします。

InfoViewで運用レポートの表示を開始すると、日付と数値が正しく表示されます。

HP Project Managementのレポート

- [「本章の概要」\(23ページ\)](#)
- [「プロジェクトステータスリストレポート」\(23ページ\)](#)
- [「HP Project Managementのアドホックレポート」\(41ページ\)](#)

本章の概要

この章では、HP Project ManagementのOperational Reportingについて説明します。また、HPが提供する事前設定済みのプロジェクトステータスレポートと、HP Project Managementデータを対象に作成できる多くのアドホックレポートの一部に関する情報を提供します。

注: 組織で複数言語のOperational Reportingを有効にしている場合、使用しているロケールに対して運用レポートデータを正しく表示するようにInfoViewを設定していることを確認してください。手順については、「[運用レポートでのBusinessObjectsの使用](#)」(20ページ)を参照してください。

プロジェクトステータスリストレポート

HPがOperational Reportingに提供するプロジェクトステータスリストレポートは、PPM Centerプロジェクトのすべてを確認して管理する目的で設計されています。このレポートには、さまざまなプロジェクトヘッダ属性 (プロジェクトヘルス、地域、プロジェクトタイプ、達成率など)、およびプロジェクトに割り当てられた作業計画でキャプチャーされるプロジェクトレベルの工数とコストのファクト情報を含めることができます。特定のプロジェクトのその他の情報を表示するには、特定のレポート結果をドリルダウンして、基となる詳細情報 (プロジェクトヘルス、主要なマイルストーン、問題、リスク、スコープ変更など) を表示できます。

レポートデータのグループ化

レポートに表示されるプロジェクト情報は、地域、プロジェクトクラス、プロジェクトタイプ、ビジネスユニット、またはプログラムに基づいてグループ化できます。

表3-1. プロジェクトステータスリストレポートでのグループに基づくデータ表示

選択グループ	表示データ
地域	プロジェクトに関連付けられている地域

表 3-1. プロジェクトステータスリストレポートでのグループに基づくデータ表示 (続き)

選択グループ	表示データ
プロジェクトクラス	プロジェクトが属するクラス。たとえば、コア (“既存資産の維持”) プロジェクトクラスに属するプロジェクトは、既存のビジネスアプリケーションとサービスを維持する役を果たします。
プロジェクトタイプ	プロジェクトの管理に使用するビジネスルールを決定するエンティティ。プロジェクトタイプには、プロジェクト管理用の異なる要素に対する、次のようなポリシーが含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> • 収集する実績のタイプ • プロジェクトに対してビルトインプロジェクトコストまたは HP Time Managementを使用するかどうか • プロジェクト内の作業計画の有無
ビジネスユニット	プロジェクトを担当するビジネスユニット
プログラム	プロジェクトに関連付けられているプログラム

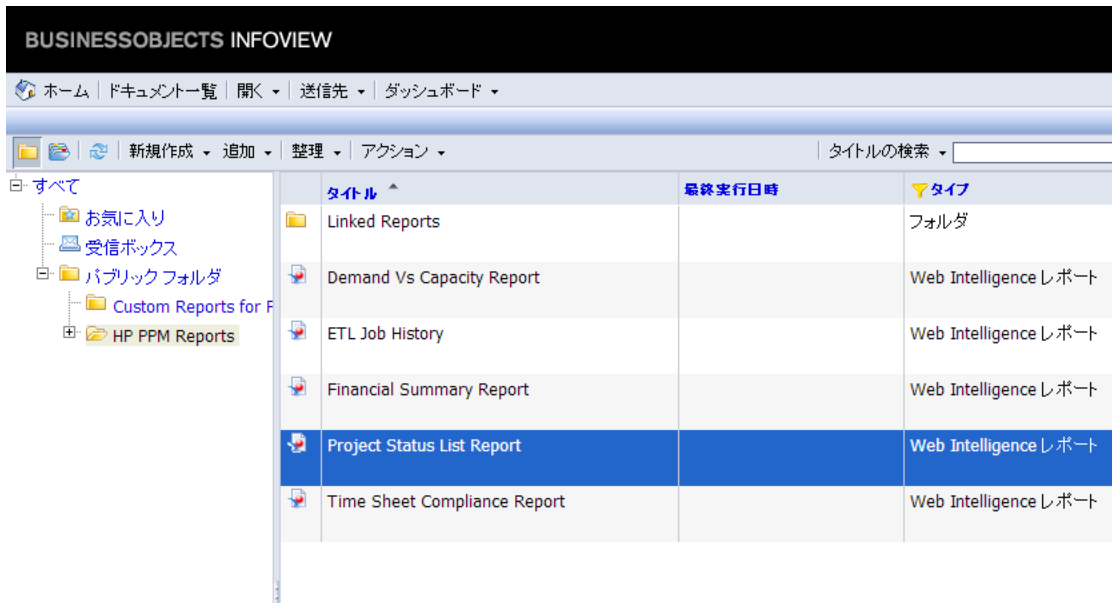
プロジェクトステータスリストレポートの実行

プロジェクトステータスリストレポートを実行するには、次の手順を実行します。

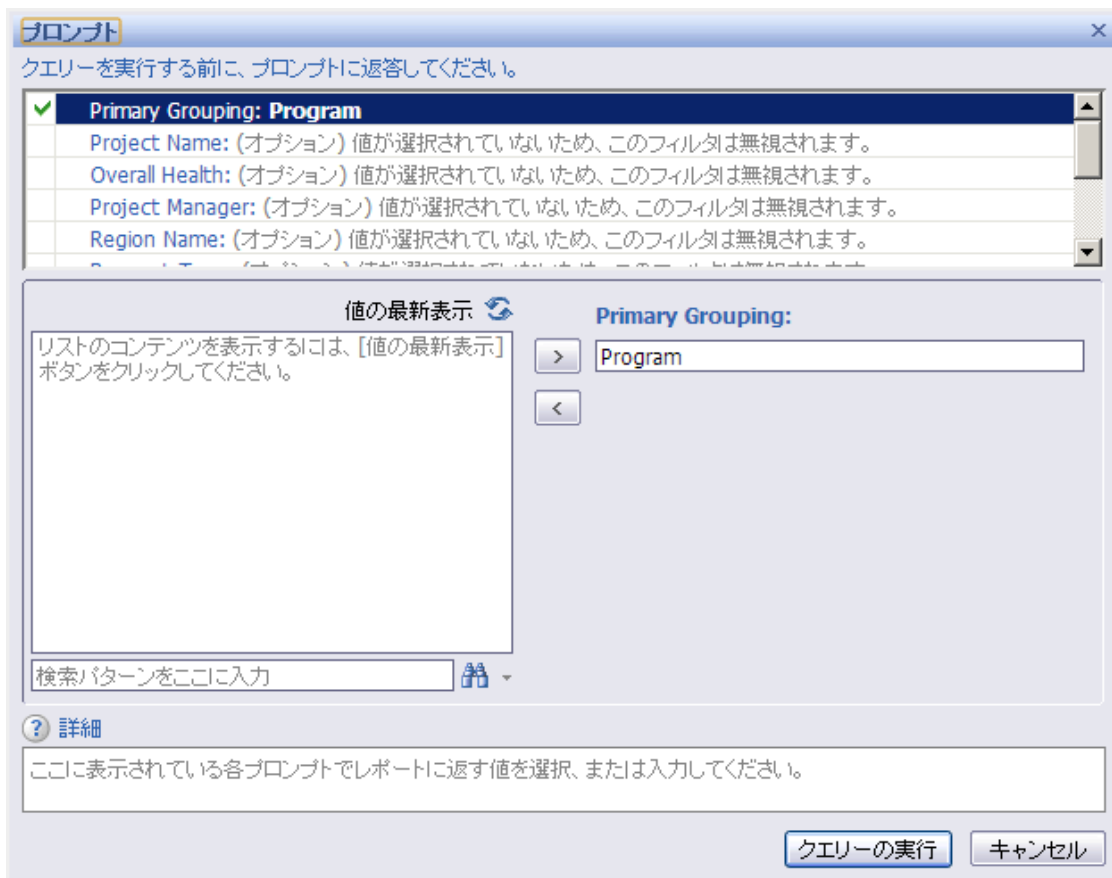
1. InfoViewにログオンしてドキュメント一覧を開きます。

注: ドキュメントリストに表示されるフォルダおよびオブジェクトは、ユーザがログオンしたアカウント、BusinessObjects Enterprise管理者によってユーザに付与されている権限、およびユーザとその管理者が有効にしている設定に応じて変化します。

2. ツリーパネルで、[パブリックフォルダ] フォルダを展開し、[HP PPM Reports] を選択します。



3. [タイトル] セクションで、[Project Status List Report] をダブルクリックします。



[プロンプト] ダイアログに、レポートクエリで使用可能なフィルタが一覧されます。値が必要なすべてのフィルタにデフォルト値が割り当てられていますが、これらの値は変更できます。また、一覧されているオプションフィルタの一部または全部に値を指定できます。

注: プロンプトの左側にある緑のチェックマーク(✓)は、そのプロンプトに1つまたは複数の値が指定されていることを示します。プロンプトの左側にある赤い矢印(➔)は、そのフィルタが必須であり、レポートクエリを実行する前に値を指定する必要があることを示します。

- クエリをそのまま実行するか、データをさらに絞り込むには、レポートを実行する前に、次の表に一覧および説明されているプロンプトに情報を提供します。

注: プロンプトに値を指定しない場合、レポートデータのフィルタにプロンプトは使用されません。

プロンプト	説明
* 必須	
*Primary Grouping	レポート結果のプロジェクト情報のプライマリグループ 次の項目を選択できます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 地域 ■ プロジェクトクラス ■ プロジェクトタイプ ■ ビジネスユニット ■ プログラム
Project Name	PPM Centerプロジェクトの名前

プロンプト	説明
* 必須	
Overall Health	プロジェクトのスケジューリング、コストヘルス、アーンドバリューヘルス、問題ヘルスに対するヘルスインジケータの加重平均
Region Name	プロジェクトが関連付けられている地域の名前
Request Type	プロジェクトに関連付けられているプロジェクト制御リクエストタイプ。これは、プロジェクトの問題、リスク、またはスコープ変更の可能性があります。
Project Type	プロジェクトの管理に使用するビジネスルールを決定するエンティティ。プロジェクトタイプには、プロジェクト管理用の異なる要素に対する、次のようなポリシーが含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 収集する実績のタイプ ■ プロジェクトに対してビルトインプロジェクトコストまたはHP Time Managementを使用するかどうか ■ プロジェクト内の作業計画の有無
Business Unit	プロジェクトを担当するビジネスユニット
Project Class	プロジェクトが属するクラスを示します。たとえば、コア(既存資産の維持)プロジェクトクラスに属するプロジェクトは、既存のビジネスアプリケーションとサービスを維持する役を果たします。
Project Status	アサインされたプロセス内のプロジェクトのステータス
Program Name	プロジェクトが関連付けられているプログラムの名前
Project Manager	プロジェクトにアサインされているマネージャの名前


5. データフィルタを指定したら、クエリを実行します。

Web Intelligenceによってデフォルト値のデータが取得され、レポートに結果が返されません。

プロジェクトステータスリストレポートの結果

「[図 3-1. プロジェクトステータスリストレポートの結果](#)」(28ページ)に、プロジェクトステータスリストレポートの結果を示します。

図 3-1. プロジェクトステータスリストレポートの結果

Project Status List Report 													
Program	Project No.	Project Name	Project Manager	Status	Health				Actual Start Date	Actual Finish Date	Planned Start Period	Planned Finish Period	D
					Overall	Schedule	Issue	Cost					
Black Diamond Initiative	30140	APO - Pilot	Joseph Banks	Construct	■	■	□	■	10/02/2008		October 2008	January 2009	APO - Pilot
	30120	CRM One World	Admin User, Joseph Banks	Detailed Project Definition	□		□	□			July 2009	March 2010	CRM One V
	31260	Marketing WebPortal V2	Joseph Banks	Construct	■	□	□	■	12/01/2008		December 2008	September 2009	Marketing V
	30100	Web for One World	Joseph Banks	Detailed Project Definition	□	□	□	■	01/01/2008		January 2009	September 2009	Web for On
One World	30140	APO - Pilot	Joseph Banks	Construct	■	■	□	■	10/02/2008		October 2008	January 2009	APO - Pilot
	30160	Billing Systems Integration	Joseph Banks	Detailed Project Definition	■	■	□	■	01/02/2009		January 2009	September 2009	Billing Syst
	30120	CRM One World	Admin User, Joseph Banks	Detailed Project Definition	□		□	□			July 2009	March 2010	CRM One V
	30100	Web for One World	Joseph Banks	Detailed Project Definition	□	□	□	■	01/01/2008		January 2009	September 2009	Web for On
	30220	Distribution Access	Nicole Smith	Assign Project Manager	□		□	□			January 2009	June 2009	Distribution

「[表 3-2. プロジェクトステータスリストレポートに表示される列](#)」(28ページ)に、プロジェクトステータスリストレポートに表示される列の説明を示します。

表 3-2. プロジェクトステータスリストレポートに表示される列

列	説明
<グループ>	レポートデータのプライマリグループ。すべてのレポートデータは、地域、プロジェクトクラス、プロジェクトタイプ、ビジネスユニット、またはプログラムでグループ化できます。
Project No.	プロジェクトを一意に特定するPPM Centerによってアサインされた番号
Project Name	プロジェクト名
Project Manager	プロジェクトを管理するためにアサインされたリソース
Status	アサインされたプロセス内のプロジェクトのステータス

表 3-2. プロジェクトステータスリストレポートに表示される列 (続き)

列	説明
Health <ul style="list-style-type: none"> • Overall • Schedule • Issue • Cost 	プロジェクトの要素 (スケジュールやコストなど) が重大な状態 (赤)、リスク状態 (黄)、または計画どおりの状態 (緑) かどうかを示すカラーコード。
Actual Start Date	プロジェクト作業が実際に開始した暦日
Actual Finish Date	プロジェクト作業が実際に終了した暦日
Planned Start Period	プロジェクト作業を開始するようにスケジュールされたカレンダー期間
Planned Finish Period	プロジェクト作業を終了するようにスケジュールされたカレンダー期間
Description	プロジェクトの説明
Request Type	プロジェクトの開始に使用するリクエストのタイプ
Business Unit	プロジェクトを担当するビジネスユニット
Business Objective Name	プロジェクトに関連付けられているビジネス目標
Project Class	プロジェクトが属するクラス。たとえば、コア (既存資産の維持) プロジェクトクラスに属するプロジェクトは、既存のビジネスアプリケーションとサービスを維持する役を果たします。
Project Type	プロジェクトタイプ
Region	プロジェクトに関連付けられている地域

表 3-2. プロジェクトステータスリストレポートに表示される列 (続き)

列	説明
SPI	スケジュール業績指数。計画価値 (PV) に対するアーンドバリュー (EV) の比率であり、スケジュール効率を示します。SPI は、作業計画または計画されたスケジュールの達成度を、コストに換算したものです。
CPI	コストパフォーマンス指数。実績コストに対するアーンドバリュー (EV) の比率であり、コスト効率を示します。また、CPI は、プロジェクトの計画実績コストを計算し、コスト超過額を予測する際にも使用されます。
Capital <ul style="list-style-type: none"> • Labor • Non-Labor • Total 	プロジェクトの資本コスト
Operating <ul style="list-style-type: none"> • Labor • Non-Labor • Total 	プロジェクトの運用コスト
% Complete	プロジェクト作業の今日までの達成率

プロジェクトステータス詳細レポート

プロジェクトステータスリストレポートにリストされているプロジェクトに関する情報の基となる詳細データを表示するには、次の手順を実行します。

- プロジェクトステータスリストレポートの **[Project No.]** 列で、詳細データを表示するプロジェクトのリンクをクリックします。

Project Status List Report

Program	Project No.	Project Name	Project Manager	Status	Health	
					Overall	Schedule
Black Diamond Initiative	30140	APO - Pilot	Joseph Banks	Construct		
	30120	CRM One World	Admin User, Joseph Banks	Detailed Project Definition		
	31260	Marketing WebPortal V2	Joseph Banks	Construct		
	30100	Web for One World	Joseph Banks	Detailed Project Definition		

プロジェクトステータスリストレポートが新しいブラウザウィンドウで表示されます。

The screenshot shows a web browser window titled "Web Intelligence - Project Status Detail Report - Microsoft Internet Explorer provided by Hewlett-Packard". The page displays the "Project Status Details" for project 30140, including project information, health indicators, and cost information.

Project Details:

Project No:	30140	Region:	US
Project Name:	APO - Pilot	Business Unit:	Government BU
Project Type:	Standard Project (PFM) - Medium Size	Business Objective:	10% Increase in Revenue
Planned Period:	October 2008 - January 2009	Status:	Construct
Actual Dates:	10/02/2008 -	Description:	APO - Pilot
Creation Date:	03-12-2007		
Created By:	Joseph Banks	% Complete:	94
Project Class:	Innovation	SPI:	0.94
Asset Class:	Informational LV1	CPI:	1.05
Project Manager(s):	Joseph Banks	Associated Program(s): Black Diamond Initiative One World	

Health Indicators:

Overall Health		Schedule Health	
		Cost Health	
		Issue Health	

Issues, Risks, and Scope Changes:

Priority	Issues	Risks	Scope Changes
Critical	1		
High	1		1
Low	1	4	1
Normal	2	1	1

Cost Information:

Capital			Operating		
Labor	Non Labor	Total	Labor	Non Labor	Total
42,560	0	42,560	16,960	0	16,960

Navigation tabs at the bottom: Project Status Detail, Project Issues, Project Risks, Project Scope Changes.

「表 3-3. プロジェクトステータスリストレポートに表示されるフィールド」(32ページ)に、プロジェクトステータスリストレポートに表示されるフィールドを示します。

表 3-3. プロジェクトステータスリストレポートに表示されるフィールド

フィールド	説明
Project Details (プロジェクトの詳細)	
Project No.	プロジェクトを一意に特定するPPM Centerによってアサインされた番号
Project Name	プロジェクト名
Project Type	プロジェクトタイプ
Planned Period	プロジェクト作業をアクティブにするようにスケジュールされた会計カレンダー期間
Actual Dates	プロジェクト作業が実際に開始した暦日 (mm/dd/yyyy) で、プロジェクトが完了した場合は、プロジェクトの完了日付
Creation Date	プロジェクトが作成された暦日 (mm/dd/yyyy)
Created by	プロジェクトを作成したリソースの名前
Project Class	プロジェクトが属するクラス。たとえば、コア(既存資産の維持)プロジェクトクラスに属するプロジェクトは、既存のビジネスアプリケーションとサービスを維持する役を果たします。
Asset Class	プロジェクトが属する資産クラス
Project Manager(s)	プロジェクトを管理するためにアサインされたリソース
Associated Programs	プロジェクトに関連付けられているプログラム
Region	プロジェクトに関連付けられている地域
Business Unit	プロジェクトが属するビジネスユニット

表 3-3. プロジェクトステータスリストレポートに表示されるフィールド (続き)

フィールド	説明
Business Objective	プロジェクトに関連付けられているビジネス目標
Status	アサインされたプロセス内のプロジェクトのステータス
Description	プロジェクトの説明
% Complete	プロジェクト作業の今日までの達成率
SPI	スケジュール業績指数。計画価値 (PV) に対するアーンドバリュー (EV) の比率であり、スケジュール効率を示します。SPIは、作業計画または計画されたスケジュールの達成度を、コストに換算したものです。
CPI	コストパフォーマンス指数。実績コストに対するアーンドバリュー (EV) の比率であり、コスト効率を示します。また、CPIは、プロジェクトの計画実績コストを計算し、コスト超過額を予測する際にも使用されます。
Health Indicators (ヘルスインジケータ)	
Health <ul style="list-style-type: none"> Overall Health Schedule Health Issue Health Cost Health 	プロジェクトの要素 (スケジュールやコストなど) が重大な状態 (赤)、リスク状態 (黄)、または計画どおりの状態 (緑) かどうかを示すカラーコード
Priority	プロジェクトに割り当てられる優先度 (存在する場合)
Issues	プロジェクトに対して送信した問題リクエストの数。何らかの問題がプロジェクトに関連付けられている場合、これらのリクエストの詳細が [プロジェクトの問題] タブに表示されます。[プロジェクトの問題] タブについては、 「[Project Issues] タブ」(35 ページ) を参照してください。

表 3-3. プロジェクトステータスリストレポートに表示されるフィールド (続き)

フィールド	説明
Risks	プロジェクトに対して送信したリスクリクエストの数。何らかのリスクが選択したプロジェクトに関連付けられている場合、これらの詳細が [プロジェクトリスク] タブに表示されます。 [プロジェクトの問題] タブについては、「 [Project Risks] タブ (37ページ)を参照してください。
Scope Changes	プロジェクトに対して送信したスコープ変更リクエストの数。何らかのスコープ変更がプロジェクトに関連付けられている場合、これらの詳細が [プロジェクトのスコープ変更] タブに表示されます。[プロジェクトのスコープ変更] タブについては、「 [Project Scope Changes] タブ (39ページ)を参照してください。
Cost Information (コスト情報)	
Capital <ul style="list-style-type: none"> • Labor • Non-Labor • Total 	プロジェクトの資本コスト
Operating <ul style="list-style-type: none"> • Labor • Non-Labor • Total 	プロジェクトの運用コスト
Workplan Milestones (作業計画のマイルストーン)	
Milestone	プロジェクトに割り当てられた作業計画内の標準マイルストーンの名前
Major Milestone	プロジェクトに割り当てられた作業計画内の主要マイルストーンとして特定されたマイルストーンの名前

表 3-3. プロジェクトステータスリストレポートに表示されるフィールド (続き)

フィールド	説明
% Complete	プロジェクト作業のマイルストーンに到達するまでの達成率
Estimated Date	プロジェクトがマイルストーンを完了すると予定されている日付

何らかの問題、リスク、またはスコープ変更が選択したプロジェクトに関連付けられている場合、これらリクエストの詳細が **[Project Issues]**、**[Project Risks]**、**[Project Scope Changes]** タブに表示されます。これらのタブについては、以下を参照してください。

[Project Issues] タブ

プロジェクトの問題リクエストがプロジェクトステータスリストレポートで選択したプロジェクトに対して送信された場合、問題の数がプロジェクト詳細レポートの下部にある **[Issues]** 列にリストされます。

すべてのプロジェクトの問題を表示するには、**[Project Issues]** タブをクリックします。

The screenshot displays the 'Project Issues' tab for Project No. 30140 (Project Name: APO - Pilot). The table below shows the details of the issues:

Request No.	Description	Status	Priority
30312	Siebel QA server needs disk space	Open	Critical
30317	Patch release expected two weeks before GA	Pending Closure	High
30320	Need to clear non-budgeted travel expenses	Open	Low
30310	Several additional languages in user community found during Asia-Pac expansion	Open	Normal
30318	Additional network connections needed in data center	Open	Normal

At the bottom of the window, there are four tabs: Project Status Detail, Project Issues (selected), Project Risks, and Project Scope Changes.

[Project Issues] タブにリストされている問題の詳細情報を表示するには、**[Request No.]** 列の該当するリンクをクリックします。**[Issue Details]** ウィンドウが新しいブラウザウィンドウで開きます。

Request No.	30318	Request Type Name	Project Issue
Escalation Level	Project	Description	Additional network connections needed in data center
Priority	Normal	Workflow Name	Issue Management Process
Status	Open	Active Workflow Step Name	Manage Issue
Created By	Admin User	Assigned To	Finn Gill
Application		Contact Name	
Department			

「表 3-4. [Issue Details] タブに表示されるフィールド」(36ページ)に、選択した問題の [Issue Details] タブに表示されるフィールドをリストします。

表 3-4. [Issue Details] タブに表示されるフィールド

フィールド	説明
Request No.	PPM Center内のプロジェクトの問題リクエスト番号
Escalation Level	問題のエスカレーションレベル。取り得る値は [Project] または [Program] です。
Priority	プロジェクトの問題リクエストにアサインされている優先度の値
Status	プロジェクトの問題リクエストのステータス
Created By	リクエストを送信したリソースの名前
Application	リクエストに関連付けられているアプリケーション
Department	プロジェクトの問題リクエストに関連付けられている部署
Request Type Name	リクエストタイプの名前
Description	プロジェクトの問題の説明

表 3-4. [Issue Details] タブに表示されるフィールド (続き)

フィールド	説明
Workflow Name	プロジェクトの問題 リクエストにアサインされているワークフローの名前
Active Workflow Step Name	リクエストが到達した現在のワークフローステップ
Assigned To	リクエストにアサインされているリソースの名前
Contact Name	リクエストにアサインされている連絡先の名前 (存在する場合)

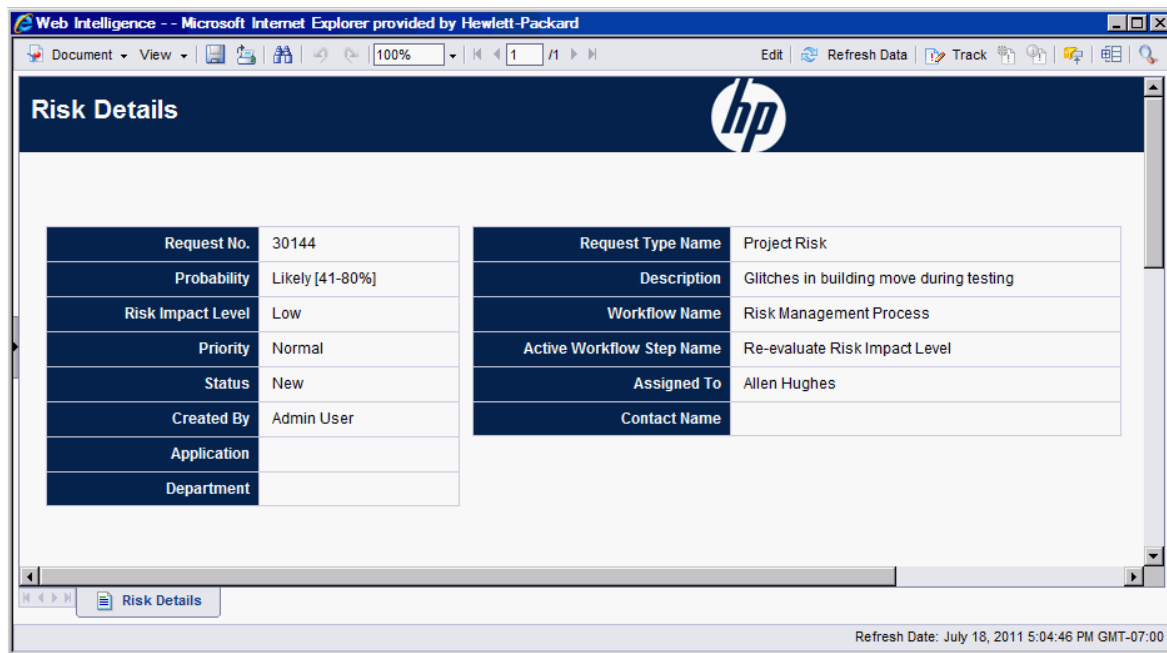
[Project Risks] タブ

プロジェクトリスクリクエストがプロジェクトステータスリストレポートで選択したプロジェクトに対して送信された場合、リスクの数がリクエスト詳細レポートの下部にある **[Risks]** 列にリストされます。

すべてのプロジェクトリスクを表示するには、**[Project Risks]** タブをクリックします。

Request No.	Description	Status	Priority
30141	Hardware Procurements is delayed by Vendor	New	Low
30142	Key business stakeholder has left organization.	New	Low
30146	Patch release incompatibility with desktop publishing SW	New	Low
30161	Hiring freeze - need additional resources to finish on schedule	New	Low
30144	Glitches in building move during testing	New	Normal

[Project Risks] タブにリストされている問題の詳細情報を表示するには、[Request No.] 列の該当するリンクをクリックします。[Risk Details] ウィンドウが新しいブラウザウィンドウで開きます。



「表 3-5. [Risk Details] タブに表示されるフィールド」(38ページ)に、選択したリスクの [Risk Details] タブに表示されるフィールドをリストします。

表 3-5. [Risk Details] タブに表示されるフィールド

フィールド	説明
Request No.	PPM Center内のプロジェクトリスクリクエスト番号
Probability	リスク発生の予想される確率
Risk Impact Level	リスクにアサインされているインパクトレベル
Priority	プロジェクトリスクリクエストにアサインされている優先度の値
Status	現在のプロジェクトリスクリクエストのステータス
Created By	リクエストを送信したリソースの名前

表 3-5. [Risk Details] タブに表示されるフィールド (続き)

フィールド	説明
Application	リクエストに関連付けられているアプリケーション
Department	リクエストに関連付けられている部署
Request Type Name	リクエストタイプの名前
Description	プロジェクトリスクの説明
Workflow Name	リクエストにアサインされているワークフローの名前
Active Workflow Step Name	リクエストが到達した現在のワークフローステップ
Assigned To	リクエストにアサインされているリソースの名前
Contact Name	リクエストにアサインされている連絡先の名前 (存在する場合)


プロジェクトステータスリストレポートおよびプロジェクトステータス詳細レポートのコスト情報の解釈

PPM Centerでは、資産計上可能なコストのトラッキングは、`COST_CAPITALIZATION_ENABLED`サーバ設定パラメータを介してオンになっています。コスト情報を表示するPPM Dashboardの各ページは、この設定に従って動作します。ただし、Operational Reportingは、`COST_CAPITALIZATION_ENABLED`パラメータを確認しません。PPM Centerインスタンスが資本コストをトラックするように設定されていない場合、レポートには空の[資本コスト]フィールドが表示され、実績コストが運用コストとして表示されます。


[Project Scope Changes] タブ

プロジェクトのスコープ変更リクエストがプロジェクトステータスリストレポートで選択したプロジェクトに対して送信された場合、スコープ変更の数がプロジェクトステータス詳細レポートの下部にある[Scope Changes]列にリストされます。

[Scope Changes] 列にリストされているスコープ変更リクエストの詳細を表示するには、該当するリクエスト番号をクリックします。[Scope Changes] タブに、スコープ変更リクエストのリクエスト詳細レポートが表示されます。

Project Scope Changes 			
Project No:	30140	Project Name:	APO - Pilot
Request No.	Description	Status	Priority
30440	Oracle 11i upgrade impacts	In Review	High
30438	Please add this report	New	Low
30439	PeopleSoft upgrade requires additional interfaces	New	Normal

[Scope Changes] タブにリストされているスコープ変更の詳細情報を表示するには、[Request No.] 列の該当するリンクをクリックします。[Scope Change Details] ウィンドウが新しいブラウザウィンドウで開きます。

Scope Change Details 			
Request No.	30440	Request Type Name	Project Scope Change Request
Impact Severity	Medium	Description	Oracle 11i upgrade impacts
CR Level	Level 2	Workflow Name	Scope Change Request Process
Priority	High	Active Workflow Step Name	Review Level 2 Change Request
Status	In Review	Assigned To	
Created By	Admin User	Contact Name	
Application			
Department			

「表 3-6. [Scope Change Details] タブに表示されるフィールド」(40ページ)に、選択したスコープ変更リクエストの [Scope Change Details] タブに表示されるフィールドをリストします。

表 3-6. [Scope Change Details] タブに表示されるフィールド

フィールド	説明
Request No.	PPM Center内のスコープ変更リクエスト番号

表 3-6. [Scope Change Details] タブに表示されるフィールド (続き)

フィールド	説明
Impact Severity	プロジェクトのスコープ変更リクエストにアサインされているインパクトの重要度
CR Level	プロジェクトのスコープ変更リクエストにアサインされている変更リクエストレベル
Priority	プロジェクトのスコープ変更リクエストにアサインされている優先度の値
Status	現在のプロジェクトのスコープ変更リクエストのステータス
Created By	リクエストを送信したリソースの名前
Application	リクエストに関連付けられているアプリケーション
Department	リクエストに関連付けられている部署
Request Type Name	リクエストタイプの名前
Description	スコープ変更リスクの説明
Workflow Name	リクエストにアサインされているワークフローの名前
Active Workflow Step Name	リクエストが到達した現在のワークフローステップ
Assigned To	リクエストにアサインされているリソースの名前
Contact Name	リクエストにアサインされている連絡先の名前 (存在する場合)

HP Project Managementのアドホックレポート

この項では、HP Project Managementを対象に作成できるアドホック運用レポートについて説明し、それらのレポートのいくつかを作成する方法の例を示します。また、この項には、レポートで使用できるコンテキストに関する情報、アドホックレポートの作成における

推奨事項、および運用レポートクエリでのPPM Centerユニバースオブジェクトの使用方法に関するガイドも含まれます。

HP Project Managementのアドホックレポートのコンテキスト

HP Project Managementのアドホックレポートを作成する場合、InfoViewによってレポートクエリのコンテキストを選択するよう求められることがあります。コンテキストは、複数のディメンションおよびファクトに関連する一意のクエリパスを作成するための、明確に定義された結合のセットで構成されます。

ディメンションの共通セットにレポートユニバースの複数のファクトおよびメジャーが関連している場合、複数のファクトと関連ディメンション間の結合は、ループに陥ります。ファクトおよび関連ディメンションごとに個別のコンテキストを指定することで、ループを排除し、共通ディメンションのセット全体で複数のファクトをクエリできます。

Operational Reportingでは、HP Project Managementデータを対象に作成されるアドホックレポートに次のコンテキストが提供されます。

表 3-7. [スコープ変更の詳細] タブに表示されるフィールド

コンテキスト	使用例
Actual effort for a task by resource	タスクに対してリソースが送信した実績工数をレポートに表示する場合、このコンテキストを使用します。このコンテキストでは、地域はリソースの地域を示します。
Cost at task level	所定の作業計画に対するプロジェクトタスクのコストをレポートに表示する場合、またはプロジェクトのタスクまたは属性のすべてに関するレポートを作成する場合、このコンテキストを使用します。このコンテキストを使用して、現在のコストとベースラインコストを比較することもできます。
Effort aggregated by summary task	サマリタスクで集計された工数情報をレポートに表示する場合、このコンテキストを使用します。

表 3-7. [スコープ変更の詳細] タブに表示されるフィールド (続き)

コンテキスト	使用例
Project Managers	レポート内のプロジェクトマネージャでプロジェクトを検索するか、作業計画内のプロジェクトとタスク属性に関するレポートを作成する場合、このコンテキストを使用します。
Scheduled effort for a task by assigned resource	タスクにアサインされたリソースのスケジュールされた工数をレポートに表示する場合に使用します。このコンテキストでは、地域はプロジェクトの地域を示します。
Unassigned effort for tasks	タスクにアサインされていない工数をレポートに表示する場合、または特定の割り当て済み作業計画内のプロジェクトのタスクまたは関連付けられた属性をレポートでリストする場合、このコンテキストを使用します。

HP Project Managementデータに関するレポートのベストプラクティス

この項では、HP Project Managementデータを対象に作成するアドホック運用レポートから最適な結果を得るための推奨事項について説明します。

工数とコスト測定値からのプロジェクトマネージャ名の分離

Project Managerオブジェクトとともに工数またはコスト測定値を含むクエリを作成しないでください。プロジェクトに複数のマネージャがいる場合、このようなクエリを作成すると、正しくない工数とコストの合計が生成される可能性があります。

レポートの目的が各プロジェクトマネージャに関連付けられている工数とコストを表示するだけの場合、クエリ内ではAll Project Managersオブジェクトを使用し、プロジェクトマネージャ名で検索するためのフィルタの作成にはProject Managerオブジェクトを使用してください。それでも工数とコスト測定値とともにProject Managerオブジェクトを使用する場合は、別個のクエリを作成します。つまり、他の関連するディメンションを持つ測定値を

使用するクエリと、プロジェクトとプロジェクトマネージャー情報に対するもう1つのクエリです。

実績工数が記録されていないサマリタスク: 地域情報の欠落

レポートクエリにタスクディメンション、工数測定値、地域ディメンションが含まれている場合、結果のレポートには、実績工数が記録されていないサマリタスクの地域情報は表示されません。地域ディメンションおよび工数とコスト測定値間の関係は、タスクレベルより高いレベル(プロジェクトレベルなど)で使用するように想定されています。

実績工数が記録されていないサマリタスク: レポート結果の追加行

タスク属性、プロジェクト属性、リソース名、すべての工数測定値(実績工数、アサインされているスケジュール工数、アサインされていないスケジュール工数、見積もり残存工数)を含むレポートクエリを作成した場合、レポート結果には、実績工数が記録されていないサマリタスクに対してリソース名が「アサインされていない」の追加行が含まれます。

レポート結果にこの追加行を含めない場合、追加行を排除するフィルタ条件をクエリに追加するか、生成されたクエリを変更して、タスクディメンションと工数ファクト間の外部結合を内部結合にします(デフォルトでは、PM派生ユニバースによって行われる)。

所定のプロジェクトに対して同じ名前を持つ複数のタスクの工数のレポート

BusinessObjectsは、クエリ内のすべてのディメンションでファクトをグループ化し、集計された測定値を正しく表示します。つまり、工数測定値に対して提供されたすべてのディメンションが同じ場合、これらのディメンションは1つにグループ化されます。

プロジェクトタスクの工数測定値に関するレポートを作成する場合、所定のプロジェクトのいくつかのタスクに同じ名前がある場合、レポートされる合計工数は間違っ集計される可能性があります。この問題を回避するには、クエリに親タスク名などの属性を含めて、同じ名前のタスクを区別するようにします。

プロジェクトの見積もり残存工数に関するレポート

プロジェクトの信頼できる見積もり残存工数を表示するレポートを作成するには、プロジェクトの作成時にプロジェクト設定内で [Track Estimated Remaining Effort] フラグを設定します。

レポートクエリの [Results] セクションに Estimated Remaining Effort オブジェクトを含める場合、Track ERE オブジェクトを次のように使用します。

```
=If([Track ERE] = 1) Then [Estimated Remaining Effort] Else ""
```

運用レポートでのコスト値の解釈

PPM Centerでは、管理者は、COST_CAPITALIZATION_ENABLEDサーバ設定パラメータをtrueに設定することで、資産計上可能なコストのトラッキングを有効にできます。コスト情報を表示するPPM Centerの各ページでは、この設定を確認します。ただし、Operational Reportingでは、この設定を確認しません。

PPM Centerインスタンスが資本コストをトラックするように設定されていない場合、実績コストは運用レポートの運用コストの下に表示されます。PPM Centerでは、ユーザがプロジェクトの資産計上されたコストを送信した後でも、管理者はCOST_CAPITALIZATION_ENABLEDパラメータ設定を変更できます。ただし、Operational ReportingではCOST_CAPITALIZATION_ENABLEDパラメータ設定を確認しないため、ユーザがそのプロジェクトの資産計上されたコストを入力済みの場合、COST_CAPITALIZATION_ENABLEDがPPM Centerインスタンス上でどのように設定されているかに関わらず、運用レポートには資本コストが表示されます。

HP Project Managementのアドホックレポートの作成

PPM Centerに付属するPM派生ユニバースには、HP Project Managementデータを対象にユーザが独自の運用レポートを作成できるクラスとオブジェクトが含まれます。以下に示すのは、HP Project Managementデータを対象に作成できるアドホックレポートのごく一部です。

- 「スケジュールより遅れているプロジェクトタスク」(47ページ)
- 「All Effort by Project」(54ページ)
- 「Project Effort by Task」(55ページ)
- 「Project Effort by Resource」(57ページ)
- 「所定のプロジェクトの実績工数とスケジュールされた工数の地域配布」(58ページ)
- 「次週に開始および終了するプロジェクトタスク」(59ページ)
- 「現在の作業計画とベースライン作業計画の属性の比較」(61ページ)
- 「Total Scheduled Effort Vs Actual Effort」(64ページ)

この項では、これらのレポートのうちの1つを作成する手順と、HP Project Managementを対象に作成できる他のアドホックレポートについて説明します。

HP Project Managementデータに関するアドホックレポート: 例

どのプロジェクトの実行がスケジュールより遅れているかを示すレポートを作成できます。「表 3-8. スケジュールより遅れているプロジェクトに関するレポートに含めるPM派生ユニバースオブジェクト」(46ページ)に、このプロジェクトタスクの開始および終了レポートの作成に使用するPM派生ユニバースオブジェクトと、それらのオブジェクトが存在する[新しいWeb Intelligenceドキュメント] ページの場所を示します。

表 3-8. スケジュールより遅れているプロジェクトに関するレポートに含めるPM派生ユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Project Information	Project Name	Project Name / In list / Prompt

表 3-8. スケジュールより遅れているプロジェクトに関するレポートに含めるPM派生ユニバースオブジェクト (続き)

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Project Tasks	Task Name Task Scheduled Finish Date Task Estimated Finish Date	
Project Effort		Effort for Current WorkPlan

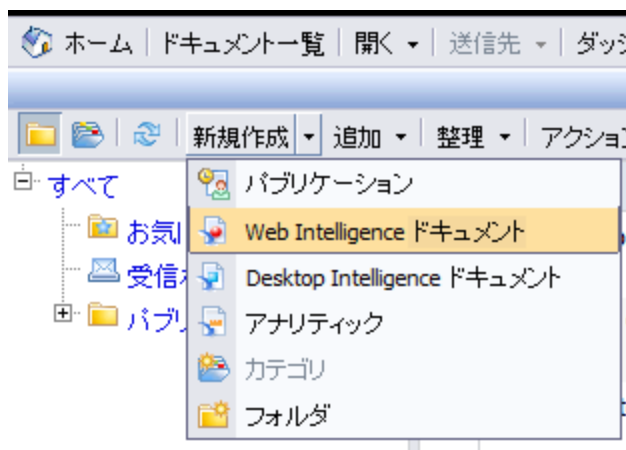
次の例では、このレポートクエリを作成および実行するのに必要な基本手順について説明します。Web Intelligenceドキュメントの作成方法の詳細については、『BusinessObjects Enterprise InfoView User's Guide』を参照してください。

スケジュールより遅れているプロジェクトタスク

どのプロジェクトの実行がスケジュールより遅れているかを示すレポートを作成するには、次の手順を実行します。

1. Webブラウザのウィンドウを開いて、InfoViewにログオンします。
2. InfoViewのホームページの **[Navigate]** セクションで、**[ドキュメント一覧]** をクリックします。

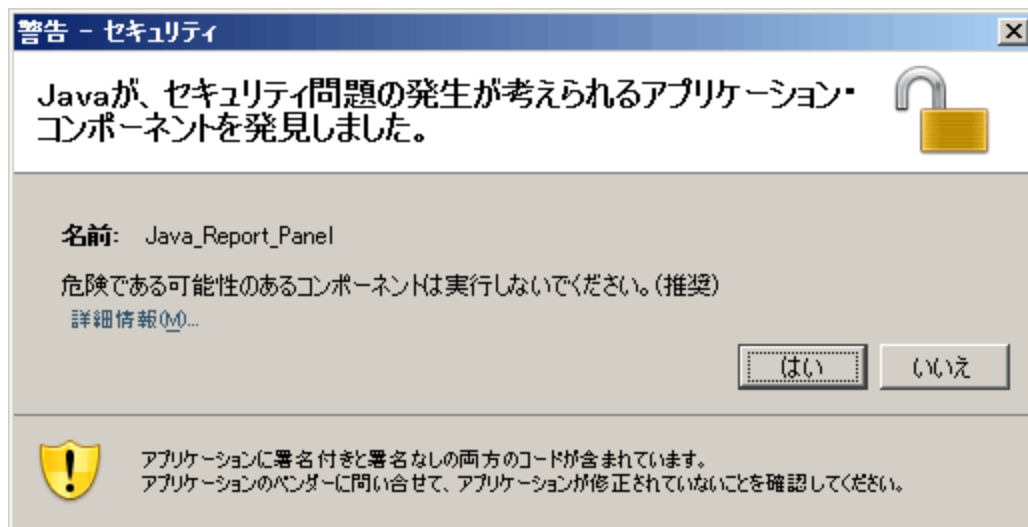
注: ドキュメント一覧に表示されるフォルダおよびオブジェクトは、ユーザがログオンしたアカウント、BusinessObjects Enterprise管理者によってユーザに付与されている権限、およびユーザとその管理者が有効にしている設定に応じて変化します。



3. [新規作成] リストで、[Web Intelligenceドキュメント] を選択します。

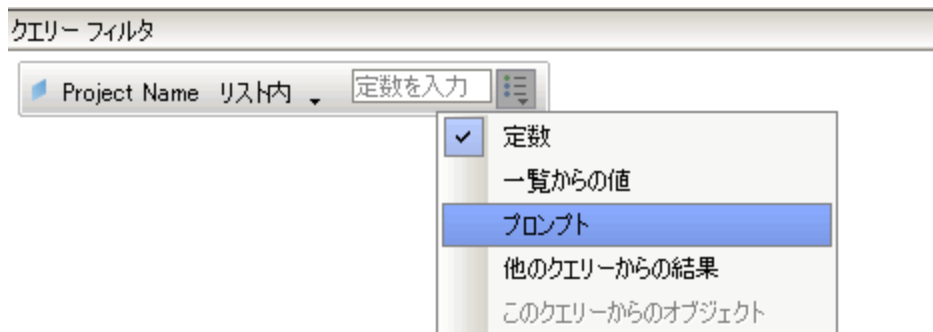


4. 使用可能なユニバースのリストで、[PM Derived Universe] を選択します。
5. [警告 - セキュリティ] ダイアログボックスが開き、Javaアプリケーションコンポーネントに関するセキュリティ上の問題が勧告され、安全でない可能性があるコンポーネントをブロックできます。[いいえ] をクリックします。



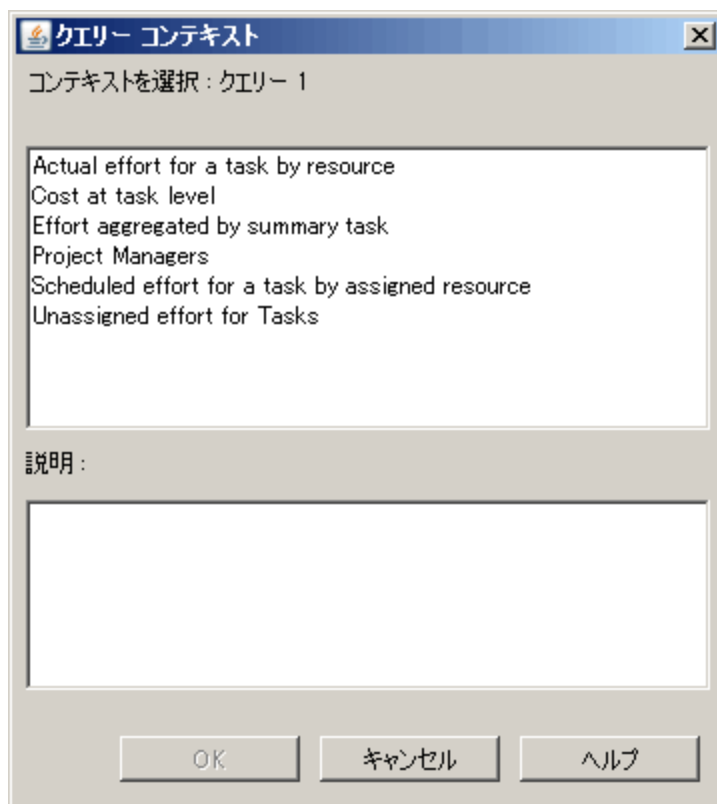
左側のペインの[データ]タブに、PM派生ユニバースで使用可能なすべてのクラスおよびオブジェクトが一覧されます。

6. **[Project Information]** クラスフォルダを展開します。
7. **[Project Name]** オブジェクトを右上の**[結果オブジェクト]** セクションにドラッグし、次に**[Project Name]** オブジェクトを右下の**[クエリーフィルタ]** セクションにドラッグします。
8. **[クエリーフィルタ]** パネルで、**[Project Name]** ボックスの右端にあるリストボタン (☰) をクリックし、**[プロンプト]** を選択します。



9. **[データ]** タブで、**[Project Tasks]** クラスフォルダを展開し、**[Task Name]**、**[Task Scheduled Finish Date]**、**[Task Estimated Finish Date]** の各オブジェクトを**[結果オブジェクト]** セクションまでドラッグします。

10. [データ] タブで、[Project Effort] クラスフォルダを展開し、[Effort for Current WorkPlan] オブジェクトを [クエリーフィルタ] セクションまでドラッグします。
11. [クエリーの実行] をクリックします。



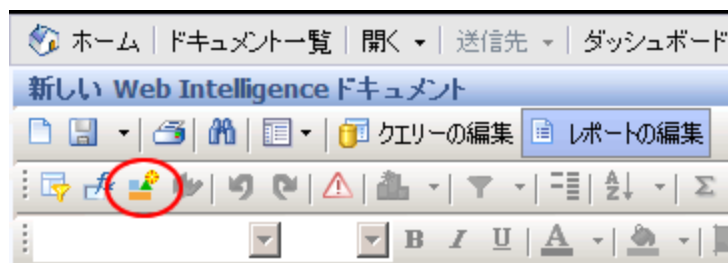
12. この例のように、アドホックレポートクエリを作成するために選択したオブジェクトのセットが複数の結合パスを通じて取得可能な場合、[クエリーコンテキスト] ダイアログボックスが表示され、クエリのコンテキストを選択するよう求められます。[Scheduled effort for a task by assigned resource] を選択し、[OK] をクリックします。

注: リストのコンテキストがレポート結果にどのように影響するかを判断するには、コンテキスト名をクリックし、[説明] ボックスに表示される内容を確認します。

HP Project Managementデータに関するレポートのコンテキストについては、「[HP Project Managementのアドホックレポートのコンテキスト](#)」(42ページ)を参照してください。

[プロンプト] ダイアログが表示されます。

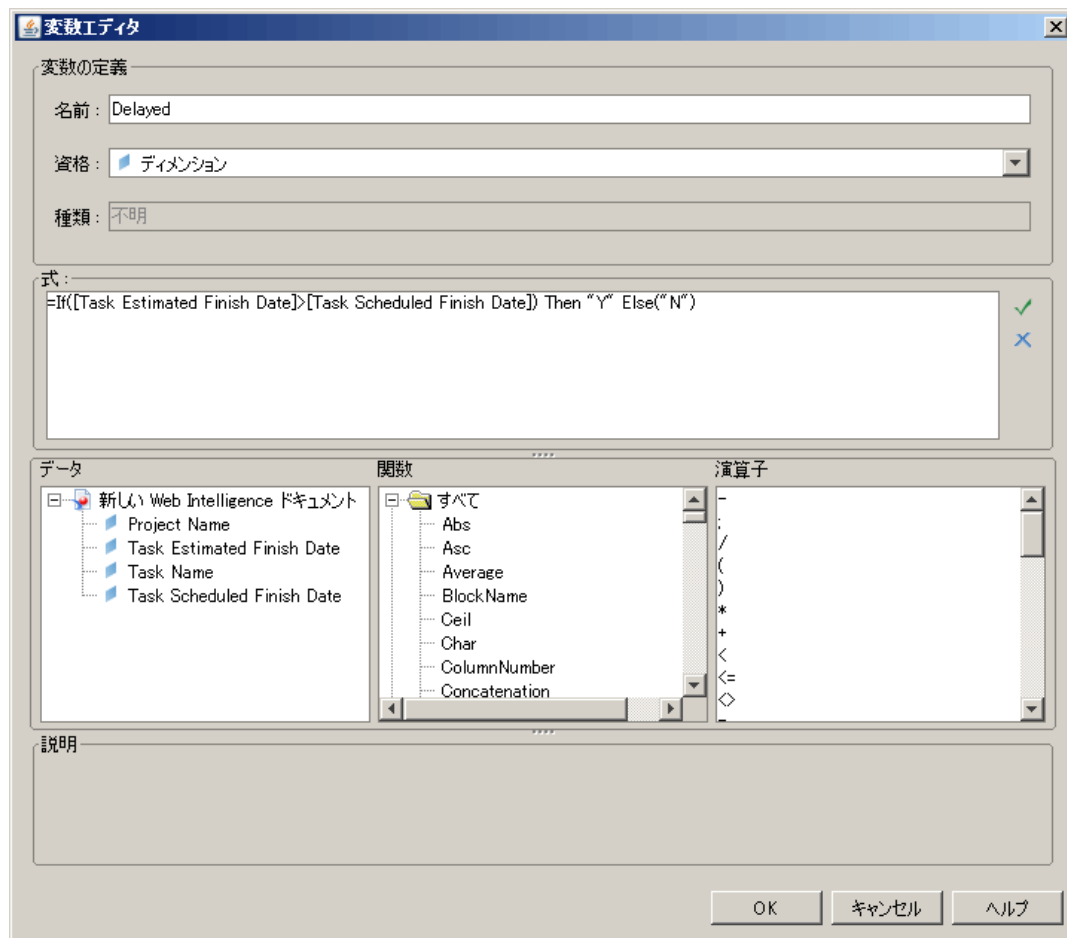
13. レポートに含めるプロジェクトを指定し、[クエリーの実行]をクリックします。
14. 「表3-16. プロジェクトのスケジュールされた工数、実績工数、見積もり残存工数を比較するレポートに含めるPM派生ユニバースオブジェクト」(64ページ)にリストされているオブジェクトをレポートクエリに追加するだけでなく、このレポートでは、どのプロジェクトタスクが遅れているかを検出する変数の作成も求められます。遅延タスク用の変数を作成するには、次の手順を実行します。
 - a. Reportingツールバーの[変数エディタ]をクリックします。



- b. [名前] ボックスに、「Delayed」と入力します。
 - c. [資格] リストで、[ディメンション] が選択された状態のままにします。

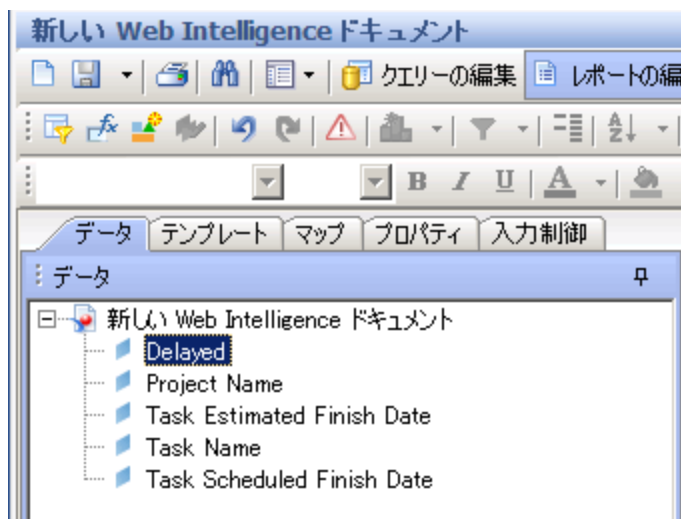
d. [式] ボックスで、次の式を追加します。

```
=If([Task Estimated Finish Date]>  
[Task Scheduled Finish Date]) Then "Y" Else("N")
```



e. [OK] をクリックします。

15. [データ] タブで、新たに [Delayed] 変数を選択します。



16. 変数を [レポート] タブまでドラッグし、[Delayed] 列を表示する場所に挿入します。
17. レポートのタイトルを指定します。

Project Tasks Running Behind Schedule				
Project Name	Task Name	Task Scheduled Finish Date	Task Estimated Finish Date	Delayed
ACME Company Intranet	Intranet	3/23/08	3/25/08	Y
ACME Company Intranet	ATG Approval	3/8/08	3/20/08	Y
ACME Company Intranet	Build Solution	3/23/08	3/23/08	N
ACME Company Intranet	Build Test Environment	3/9/08	3/9/08	N
ACME Company Intranet	Compliance Approval	3/8/08	3/8/08	N
APO - Pilot	Conduct Training Classes	3/9/08	3/22/08	Y
APO - Pilot	Design Reviews	3/8/08	3/8/08	N
APO - Pilot	Develop Detailed Design	3/12/08	3/12/08	N
APO - Pilot	Develop Solution Design Document	3/9/08	3/17/08	Y

18. ドキュメントに名前を付けて保存します。

All Effort by Project

プロジェクト別のすべての工数に関するレポートでは、選択したプロジェクトのスケジュールされた工数（アサイン済みと未アサイン）、実績工数、見積もり残存工数を表示できます。特定のプロジェクトまたは複数のプロジェクトをフィルタしなければ、レポート結果には、すべてのプロジェクトの工数情報が含まれます。

「表 3-9. プロジェクト別にグループ化したすべての工数を表示するレポート用のPM派生ユニバースオブジェクト」(54ページ)に、Effort by Projectレポートの作成に使用するPM派生ユニバースオブジェクトを示します。

表 3-9. プロジェクト別にグループ化したすべての工数を表示するレポート用のPM派生ユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Project Information	Project Name	Project Name / In list / Prompt
Project Effort	Assigned Scheduled Effort Unassigned Scheduled Effort Estimated Remaining Effort Actual Effort	Effort for Current Workplan

次の図に、このレポートのサンプル結果を示します。

All Effort by Project

Project Name	Assigned Scheduled Effort	Unassigned Scheduled Effort	Estimated Remaining Effort	Actual Effort
ACME Company Intranet		464	464	0
ACME Intranet		616	604.36	8
APO - Pilot	640	0.16	40	576
AP Web Interface		616	616	0
Barcode Asset Collection		616	616	0
Billing Systems Integration	1,640	80.16	1,600	120
Bill Pay Application		624	1,064	20
Bill Pay - QA Testing Project		1,000	1,000	0
Business Unit Integration		8	0	62

Project Effort by Task

選択したプロジェクトのタスク(サマリまたはリーフ)に関連付けられたスケジュールされた工数(アサイン済みと未アサイン)、実績工数、見積もり残存工数を表示するProject Effort by Taskレポートを作成できます。この工数情報は、サマリタスクの集計値として表示されます。レポートフィルタとしてプロジェクト名を指定しない場合、レポートには、タスクレベルのすべてのプロジェクトの工数が表示されます。

「[表 3-10. Project Effort by Taskレポート用のPM派生ユニバースオブジェクト](#)」(56ページ)に、Project Effort by Taskレポートの作成に使用するPM派生ユニバースオブジェクトを示します。

表 3-10. Project Effort by Taskレポート用のPM派生ユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Project Information	Project Name	Project Name / In list / Prompt
Project Effort	Assigned Scheduled Effort Unassigned Scheduled Effort Estimated Remaining Effort Actual Effort	Effort for Current Workplan
Project Tasks	Task Name Task Type	

注: オブジェクトをWeb Intelligenceドキュメントに追加する方法の例については、「[HP Project Managementデータに関するアドホックレポート: 例](#)」(46ページ)の手順を参照してください。

次の図に、このレポートのサンプル結果を示します。

Project Effort by Task			
Project Name	Assigned Scheduled Effort	Unassigned Scheduled Effort	Actual Effort
ACME Company Intranet		464	0
ACME Intranet		616	8
CRM One World	1,272	448.16	0
Distribution Access		616	0
eMail Order Entry		1,838	0
ERP Financial Upgrade	1,720	118	78
Neptune II	2,032	1,136	330
Intranet 2010	112	496	0
J2EE Migration	128	480	0
Marketing WebPortal V2		1,696.24	667.28

Project Effort by Resource

選択したプロジェクトの個別リソース別のタスク(サマリまたはリーフ)に関連付けられたスケジュールされた工数(アサイン済みと未アサイン)、実績工数、見積もり残存工数を表示するProject Effort by Resourceレポートを作成できます。サマリタスクの工数値は集計されません。レポートフィルタとしてプロジェクト名を指定しない場合、レポートには、タスクレベルのすべてのプロジェクトの工数が表示されます。

「表 3-11. Project Effort by Resourceレポート用のPM派生ユニバースオブジェクト」(58 ページ)に、Project Effort by Resourceレポートの作成に使用するPM派生ユニバースオブジェクトを示します。

表 3-11. Project Effort by Resourceレポート用のPM派生ユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Project Information	Project Name	Project Name / In list / Prompt
Project Effort	Assigned Scheduled Effort Unassigned Scheduled Effort Estimated Remaining Effort Actual Effort	Effort for Current Workplan
Project Tasks	Task Name Task Type	
Resources	Resource	

注: オブジェクトをWeb Intelligenceドキュメントに追加する方法の例については、「[HP Project Managementデータに関するアドホックレポート: 例](#)」(46ページ)の手順を参照してください。

所定のプロジェクトの実績工数とスケジュールされた工数の地域配布

リソースがいくつかの異なる地域に配置されているプロジェクトのマネージャは、すべての地域にわたる工数 (アサインされていないスケジュールされた工数、アサインされているスケジュールされた工数、実績工数) の配布の概要を迅速に提供するレポートを作成できます。「[表 3-12. プロジェクトの実績工数とスケジュールされた工数の地域配布に関するレポートに含めるPM派生ユニバースオブジェクト](#)」(59ページ)に、このレポートの作成に使用するPM派生ユニバースオブジェクトと、それらのオブジェクトが存在する[新しいWeb Intelligenceドキュメント] ページの場所を示します。

表 3-12. プロジェクトの実績工数とスケジュールされた工数の地域配布に関するレポートに含めるPM派生ユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Project Information	Project Name	Project Name / In list / Prompt
Region	Region Name	
Project Effort	Assigned Scheduled Effort Unassigned Scheduled Effort Actual Effort	Effort for Current WorkPlan

注: オブジェクトをWeb Intelligenceドキュメントに追加する方法の例については、「[HP Project Managementデータに関するアドホックレポート: 例](#)」(46ページ)の手順を参照してください。

次週に開始および終了するプロジェクトタスク

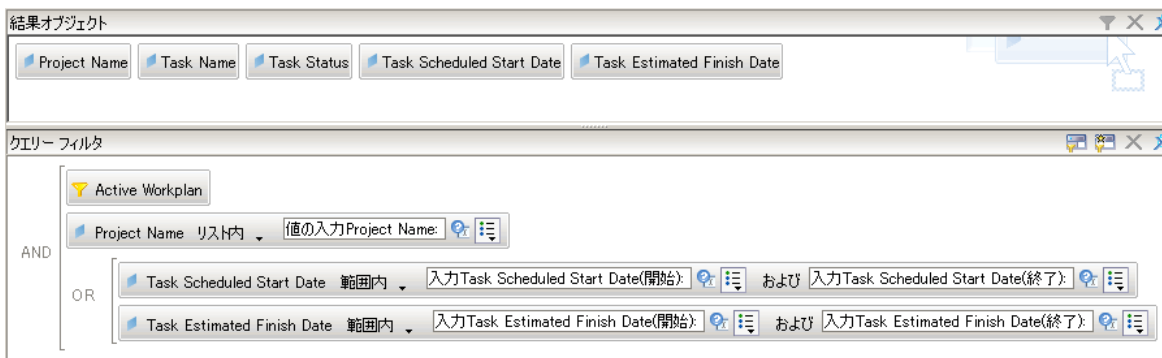
複数のプロジェクトのマネージャは、すべてのプロジェクトタスク、次週に開始または終了するようにスケジュールされているすべてのタスクのスケジュールされた開始日と終了日を表示するレポートを作成できます。プロジェクトマネージャは、これらのレポートデータを日付またはプロジェクト別にグループ化できます。「[表 3-13. 次週に開始または終了するようにスケジュールされているプロジェクトタスクに関するレポートに含めるPM派生ユニバースオブジェクト](#)」(60ページ)に、このプロジェクトタスクの開始および終了レポートの作成に使用するPM派生ユニバースオブジェクトと、それらのオブジェクトが存在する[新しいWeb Intelligenceドキュメント] ページの場所を示します。

表 3-13. 次週に開始または終了するようにスケジュールされているプロジェクトタスクに関するレポートに含めるPM派生ユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Project Information	Project Name	Project Name / In list / Prompt
Project Tasks	Task Name Task Status Task Scheduled Start Date Task Estimated Finish Date	Task Scheduled Start Date / Between / Prompt And Prompt Task Estimated Finish Date e / Between / Prompt And Prompt
Project Workplans		Active Workplan
Project Effort		Effort for Current WorkPlan

注: オブジェクトをWeb Intelligenceドキュメントに追加する方法の例については、「[HP Project Managementデータに関するアドホックレポート: 例](#)」(46ページ)の手順を参照してください。

次の図に示すように、[クエリーフィルタ] セクション内のオブジェクトをネストします。



[クエリーコンテキスト] ダイアログボックスが開き、クエリのコンテキストを選択するように求められたら、[Scheduled effort for a task by assigned resource] を選択します。

次の図に、特定のプロジェクトの次週に開始または終了するようにスケジュールされているタスクに関するレポートの結果の例を示します。

Tasks Starting and Finishing During the Next Work Week DJM Project with Financial Summary				
Project Name	Task Name	Task Status	Task Scheduled Start Date	Task Estimated Finish Date
DJM Project with Financial Summary	LEAF TASK 2.2	Ready	3/9/11	4/28/11
DJM Project with Financial Summary	LEAF TASK 2.4	Ready	3/9/11	4/28/11
DJM Project with Financial Summary	MILESTONE 1	Pending Predecessor	4/28/11	4/28/11
DJM Project with Financial Summary	SUMMARY TASK 2	Active	3/7/11	4/28/11

現在の作業計画とベースライン作業計画の属性の比較

「表3-14. 現在の作業計画とベースライン作業計画の属性を比較するレポートに含めるPM派生ユニバースオブジェクト」(61ページ)に、このレポートの作成に使用するPM派生ユニバースオブジェクトと、それらのオブジェクトが存在する[新しいWeb Intelligenceドキュメント] ページの場所を示します。

表3-14. 現在の作業計画とベースライン作業計画の属性を比較するレポートに含めるPM派生ユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Project Information	Project Name	Project Name / In list / Prompt
Project Workplan	Workplan Name Workplan Type Name	Is Active / Equal to / Constant (Y)

表 3-14. 現在の作業計画とベースライン作業計画の属性を比較するレポートに含めるPM派生ユニバースオブジェクト (続き)

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Project Header	Scheduled Duration Scheduled Finish Date Percent Complete	
Project Effort	Assigned Scheduled Effort Unassigned Scheduled Effort Estimated Remaining Effort Actual Effort	

注: オブジェクトをWeb Intelligenceドキュメントに追加する方法の例については、「[HP Project Managementデータに関するアドホックレポート: 例](#)」(46ページ)の手順を参照してください。

次の図に、現在の作業計画とベースライン作業計画の属性を比較するように設計されたレポートの結果の例を示します。

Project Name	Workplan Name	Workplan Type Name	Scheduled Duration	Scheduled Finish Date	Percent Complete	Assigned Scheduled Effort	Unassigned Scheduled Effort	Estimated Remaining Effort	Actual Effort
65 nm ASIC Alpha Tools - FY11	65 nm ASIC Alpha Tools	Workplan	343	4/14/12	15	38,511.6	89.6	21,035.6	3,920.92
65 nm ASIC Alpha Tools - FY11	Baselined On9/25/11(2)	Baseline	343	4/14/12	15	31,247.6	89.6	8,139	2,942.17

Project Status by Project Manager

プロジェクトマネージャにアサインされているプロジェクトの現在のステータスとヘルスを迅速に確認できるレポートを作成できます。「[表 3-15. プロジェクトマネージャにアサインされているプロジェクトのステータスに関するレポートのクエリに追加するPM派生ユニバースオブジェクト](#)」(63ページ)に、Project Status by Project Managerレポートの作成に使用するPM派生ユニバースオブジェクトと、それらのオブジェクトが存在する[新しいWeb Intelligenceドキュメント] ページの場所を示します。

表 3-15. プロジェクトマネージャにアサインされているプロジェクトのステータスに関するレポートのクエリに追加するPM派生ユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Project Information	Project Name	Project Name / In list / Prompt
Project Header	All Project Manager Project Status Cost Health Issue Health Schedule Health Overall Health	Project Manager / In list / Prompt

注: オブジェクトをWeb Intelligenceドキュメントに追加する方法の例については、「[HP Project Managementデータに関するアドホックレポート: 例](#)」(46ページ)の手順を参照してください。

次の図に、Project Status by Project Managerレポートの結果の例を示します。

Ross Nelson

Project Name	Project Status	Cost Health	Issue Health	Schedule Health	Overall Health
MIPSCMS11 Clean Sheet Onboarding - Q1	Active		GREEN	GREEN	GREEN
MIPSPUB10 CS – EPO Deployments	Active		GREEN	GREEN	GREEN
DCC Oracle Extranet ie Flying Machine	Cancelled				NONE
ECOMKVHFY08-Shadow IT implementations	Cancelled			NONE	NONE
MIPSHPC09 NextGen Adaptive Publishing - Editorial and	Cancelled			NONE	NONE
ECOMKSHPC08 - DSPP: RepTool migration & ASTA/DC	Complete			NONE	NONE
ECOMKVHFY08-DCC DSPP	Complete			RED	NONE
ECOMKVHFY08-DSPP funding - FY08	Complete			NONE	NONE
ECOMKVHFY08-ISV Dashboard funding - FY08	Complete			NONE	NONE
MIPSCMS10 CS - EPO PRISM Image Management Retire	Complete			NONE	NONE
MIPSPUB09 NG - hp.com Clean Sheet	Complete		GREEN	NONE	GREEN
MIPSPUB10 CS - Campaign Support	Complete			NONE	NONE
MIPSPUB10 CS - EPO Download Solution	Complete		GREEN	NONE	GREEN
MIPSPUB10 CS – EPO Product Content Integration	Complete			NONE	NONE
TSG Marketing Innovation - DSPP & ISV Dashboard	Complete	GREEN		RED	NONE
MIPSPUB10 NextGen Solution Deployment eCommerce	Estimated		GREEN		GREEN
ECOTSGCAYN08 - TSG Cayenne	Interlocked		GREEN		GREEN
ECOMKSHPC09 NextGen Adaptive Pub Portlet Construct	Obsolete		GREEN	NONE	GREEN

Total Scheduled Effort Vs Actual Effort

プロジェクトマネージャとして、担当しているプロジェクトのスケジュールされた合計工数 (アサインされている工数とアサインされていない工数を含む)、実績工数、見積もり残存工数を表示するレポートを作成できます。

「表 3-16. プロジェクトのスケジュールされた工数、実績工数、見積もり残存工数を比較するレポートに含めるPM派生ユニバースオブジェクト」(64ページ)に、このレポートを InfoViewで作成するためにWeb Intelligenceドキュメントに追加するPM派生ユニバースオブジェクトを示します。

表 3-16. プロジェクトのスケジュールされた工数、実績工数、見積もり残存工数を比較するレポートに含めるPM派生ユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Project Information	Project Name	Project Name / In list / Prompt
Project Effort	Assigned Scheduled Effort Unassigned Scheduled Effort Actual Effort Estimated Remaining Effort	Effort for Current Workplan
Project Header	Project Status	

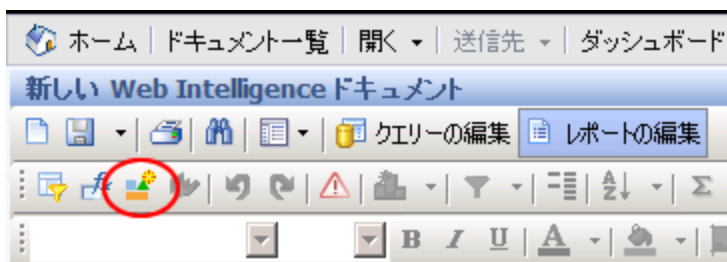
注: オブジェクトをWeb Intelligenceドキュメントに追加する方法の例については、「[HP Project Managementデータに関するアドホックレポート: 例](#)」(46ページ)の手順を参照してください。

「表 3-16. プロジェクトのスケジュールされた工数、実績工数、見積もり残存工数を比較するレポートに含めるPM派生ユニバースオブジェクト」(64ページ)にリストされているオブジェクトをレポートクエリに追加するだけでなく、このレポートでは、スケジュールされた合

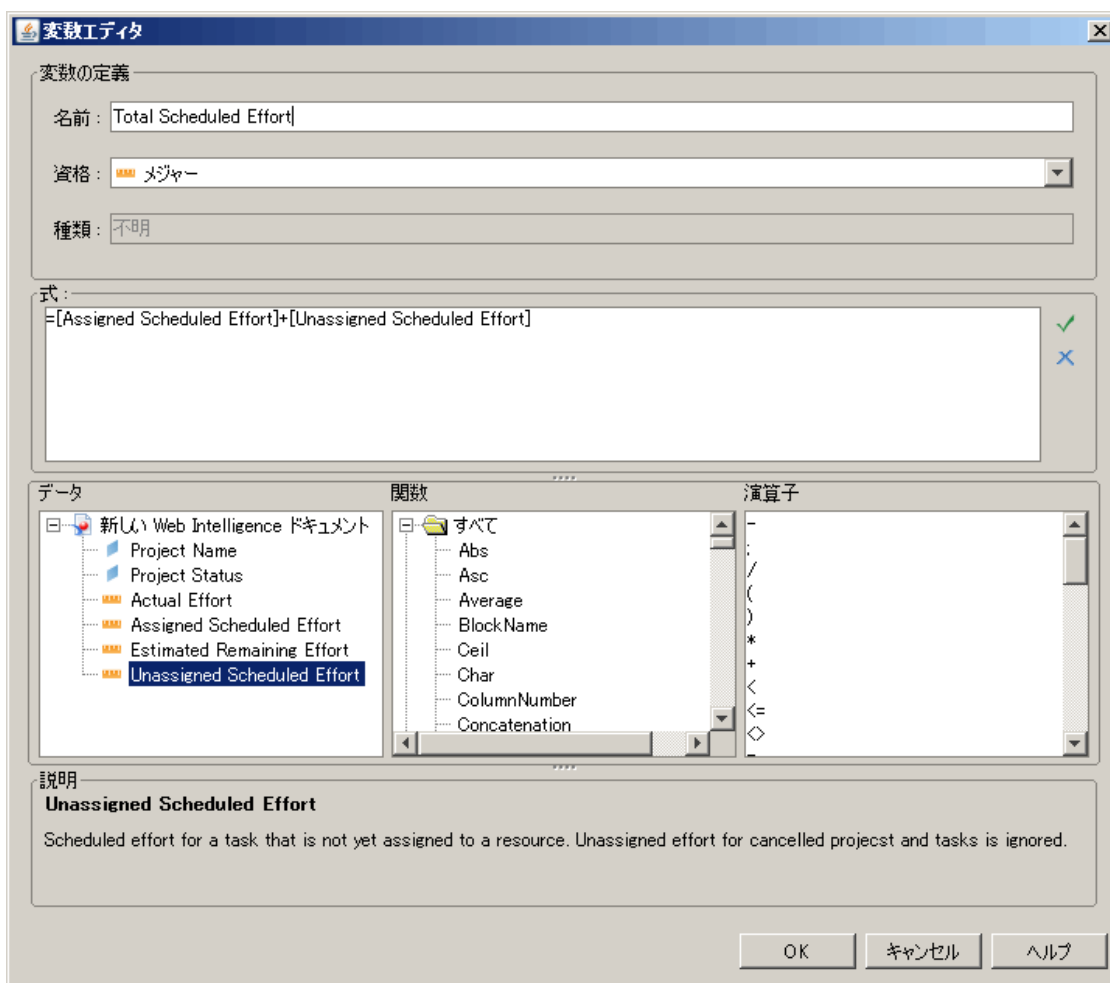
計工数 (アサインされているスケジュールされた工数とアサインされていないスケジュールされた工数の合計) を計算する変数の作成も求められます。

スケジュールされた合計工数用の変数を作成するには、次の手順を実行します。

1. すべてのオブジェクトをレポートクエリに追加したら、クエリを実行します。



2. Reportingツールバーの[変数エディタ] (📊) をクリックします。



3. [名前] ボックスに、「Total Scheduled Effort」と入力します。
4. [資格] リストから、[メジャー] を選択します。
5. [式] ボックスで、次の式を追加します。
$$=[\text{Assigned Scheduled Effort}] + [\text{Unassigned Scheduled Effort}]$$
6. [OK] をクリックします。
7. 左側のペインで、[データ] タブをクリックします。
8. 新しい [Total Scheduled Effort] オブジェクトを選択し、右側の [レポート] タブまでドラッグし、レポートの [Total Scheduled Effort] 列を表示する場所に挿入します。

次の図に、プロジェクトのスケジュールされた工数、実績工数、見積もり残存工数を比較するレポートの結果の例を示します。

Total Scheduled Effort Vs Actual Effort

Project Name	Project Status	Assigned Scheduled Effort	Unassigned Scheduled Effort	Total Scheduled Effort	Estimated Remaining Effort	Actual Effort
ACME Company Intranet	Active		464	464	464	0
ACME Intranet	Assign Project Manager		616	616	604.36	8
APO - Pilot	Construct	640	0.16	640.16	40	576
AP Web Interface	Detailed Project Definition		616	616	616	0
Barcode Asset Collection	Assign Project Manager		616	616	616	0
Billing Systems Integration	Detailed Project Definition	1,640	80.16	1,720.16	1,600	120
Bill Pay Application	Check Test Completion Status		624	624	1,064	20
Bill Pay - QA Testing Project	Define QC Profile		1,000	1,000	1,000	0
Business Unit Integration	Detailed Project Definition		8	8	0	62

HP Resource Managementのレポート

- [「本章の概要」\(68ページ\)](#)
- [「Demand Vs Capacity Report \(デマンド Vs キャパシティレポート\)」\(68ページ\)](#)
- [「HP Resource Managementのアドホックレポート」\(79ページ\)](#)

本章の概要

この章では、HP Resource ManagementのOperational Reportingについて説明します。また、HPが提供する事前設定済みのDemand Vs Capacity Reportと、HP Resource Managementデータを対象に作成できる多くのアドホックレポートの一部に関する情報を提供します。

注: 組織で複数言語のOperational Reportingを有効にしている場合、使用しているロケールに対して運用レポートデータを正しく表示するようにInfoViewを設定していることを確認してください。手順については、「[運用レポートでのBusinessObjectsの使用](#)」(20ページ)を参照してください。

Demand Vs Capacity Report (デマンドVsキャパシティレポート)

HPがOperational Reportingに提供するDemand Vs Capacity Reportは、組織内でのリソース使用を最適化するために、デマンドを確認して事前に管理する目的で設計されています。このレポートでは、PPM Centerのリソースキャパシティ(名前付きおよび名前なしのリソースプールから取得)、デマンド(コミット済み、ソフトブック済み、および未処理のデマンドで分類されたスタッフィングプロファイルから取得)、およびタイムシートから取得された実績工数を参照できます。Demand Vs Capacity Reportを使用して、地域、リソースプールレベル、またはロールごとにデータをグループ化し、さまざまなロールについてデマンドとキャパシティを比較できます。

注: キャパシティは、スタッフィングプロファイルまたはポジションにはアサインされないため、リソースキャパシティは、スタッフィングプロファイルのコンテキストではなく、リソースプールのコンテキスト内で取得されます。リソースのキャパシティは、リソースをどのポジションにどのように割り当てるのかを知らない可能性のあるリソースプールマネージャによってアサインされます。

Demand Vs Capacity Reportに示される実績工数は、タイムシートに記録されたキャンセル済みの時間を除き、リソースがタイムシートに記録したすべての時間を反映します。タ

スクに対して記録された時間が却下された場合、その実績工数はレポートから除外されます。

注: PPM CenterのTM-PM同期サービスは、タイムシートの実績をプロジェクトにロールアップします。PPM Centerシステムでこのサービスをスケジュール実行する頻度によっては、Demand Vs Capacity Reportに表示される実績工数がスタッフィングプロファイルの実績と必ずしも一致しない可能性があります。

レポートデータのグループ化

レポートに表示されるデマンド、キャパシティ、および工数の情報は、地域、リソースプール、またはロールに基づいてグループ化できます。選択したグループ化パラメータに基づいて(一度に選択できるグループ化パラメータは1つのみです)、レポートに各グループの総計値が表示されます。

「表 4-1. Demand Vs Capacity Reportでのグループに基づくデータ表示」(70ページ)に、選択したグループに基づいて、Demand Vs Capacity Reportにデータがどのように表示されるかを示します。

表 4-1. Demand Vs Capacity Reportでのグループに基づくデータ表示

選択グループ	表示データ
ロール	<p>キャパシティは、ロールレベルの合計として表示されます。デマンドは、ロールレベルでスタッフィングプロファイルごとに表示され、各ロールレベルの合計も表示されます。</p> <p>リソースがデマンドを満たすようにポジションにアサインされている場合、次のいずれかが成立します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 対応するキャパシティに関連付けられたリソースロールは、このリソースがアサインされているポジションのロールと同じです。つまり、キャパシティロールは、デマンドロールと同じです。 • 対応するキャパシティに関連付けられたリソースロールは、このリソースがアサインされているポジションのロールと異なります。つまり、キャパシティロールは、デマンドロールと同じではありません。 <p>いずれの場合でも、Demand Vs Capacity Reportには、リソースのロールに応じてキャパシティが表示され、ポジションのロールに応じてデマンドが表示されます。</p>
リソースプール	<p>キャパシティとデマンドは、両方ともロールレベルでリソースプールごとに表示されます。名前付きと名前なし両方のリソースプールに基づくキャパシティを表示できます。</p>

表 4-1. Demand Vs Capacity Reportでのグループに基づくデータ表示 (続き)

選択グループ	表示データ
地域	<p>キャパシティとデマンドは、両方ともロールレベルで地域ごとに表示されます。</p> <p>リソースプールのキャパシティは、リソースプールの地域に対して評価され、デマンドは、未処理と処理済み両方のデマンドに関して、スタッフィングプロファイルポジションのリソースプールの地域に対して評価されます。ただし、この原則には例外があり、リソースプールに関連付けられていない未処理のデマンドが存在する場合、レポートでは、スタッフィングプロファイルの地域に対して未処理のデマンドが評価されます。</p> <p>注記: スタッフィングプロファイルのポジションに対するデマンドを表示するクエリを含むアドホックのDemand Vs Capacity Reportでは、「Demand from Staffing Profile Region」コンテキストを選択すると、すべてのデマンドがスタッフィングプロファイルの地域に対して評価されます。リソースプールのリソースのキャパシティを表示するクエリを含むアドホックのDemand Vs Capacity Reportでは、すべてのキャパシティがリソースプールの地域に対して評価されます。</p>

Demand Vs Capacity Reportのデータに影響する地域カレンダー

「表 4-2. さまざまなPPM Centerエンティティのキャパシティ (時間、人日、およびFTE単位) の計算に使用されるカレンダー」(71ページ)に、Demand Vs Capacity Reportのリソースキャパシティを計算する方法に影響を与えるカレンダーを示します。

表 4-2. さまざまなPPM Centerエンティティのキャパシティ (時間、人日、およびFTE単位) の計算に使用されるカレンダー

	カレンダー	説明
A	リソース地域カレンダー	リソースの地域に関連付けられたカレンダー。

表 4-2. さまざまなPPM Centerエンティティのキャパシティ (時間、人日、およびFTE単位) の計算に使用されるカレンダー (続き)

	カレンダー	説明
B	リソースカレンダー	リソースの地域カレンダー (A) から導出される、リソース詳細ページのカレンダー。
C	リソースプールカレンダー	リソースプールの地域を介してリソースプールに関連付けられたカレンダー。
D	スタッフィングプロファイルカレンダー	スタッフィングプロファイルの地域を介してスタッフィングプロファイルに関連付けられたカレンダー。
E	スタッフィングプロファイルのデフォルトのリソースプールカレンダー	スタッフィングプロファイルのデフォルトのリソースプールに関連付けられたカレンダー。
F	ポジション (リソースプール) カレンダー	ポジションのリソースプールに関連付けられたカレンダー。

次の各項では、「表 4-2. さまざまなPPM Centerエンティティのキャパシティ (時間、人日、およびFTE単位) の計算に使用されるカレンダー」(71ページ)にリストしたカレンダーがPPM Centerエンティティにどのような影響を与えるかについて説明します。

名前付きリソースのキャパシティ

名前付きリソースをリソースプールに追加すると、そのリソースの利用可能な時間数または日数は、リソースカレンダー (B) から取得されます。FTEは、リソース地域カレンダー (A) に対して計算されます。

名前なしリソースのキャパシティ

名前なしリソースの利用可能な時間/人日またはFTEの数は、手動で入力され、FTEまたは時間への変換はリソースプールカレンダー (C) に対して計算されます。

デマンド

スタッフィングプロファイルに地域カレンダーがあり、デフォルトのリソースプールがない場合、次のようになります。

- ポジションを作成し、リソースプールをそのポジションにリンクしない場合、入力されたデマンドは、スタッフィングプロファイルカレンダー (D) に対する時間またはFTEに変換されます。
- ポジションを作成し、リソースプールをそのポジションにリンクする場合、入力されたデマンドは、ポジションのリソースプールカレンダー (F) に対する時間またはFTEに変換されます。
- ポジションのアサインを作成する場合、入力された処理済みデマンドの値は、リソースカレンダー (B) のデフォルトに設定され、時間またはFTEは、リソースの地域カレンダー (A) に対して計算されます。
- ポジションの未処理のデマンドも、ポジションのリソースプールカレンダー (F) に対して計算されます。

スタッフィングプロファイルに地域カレンダーとデフォルトのリソースプールがある場合は、次のようになります。

- スタッフィングプロファイルのデフォルトのリソースプールは、ポジション上でこのプールをデフォルトに設定するためにだけ使用されます。デマンドの計算にポジションのリソースプールが考慮されるため、これがデフォルトのプールまたは上書きされたプールであったかは問題ではありません。

注: デマンド (ポジション) と処理済みのデマンド (アサイン) 間では、デマンドがFTEによって処理される場合でも、時間数は異なるカレンダーを使用すれば変わる可能

性があります。

アサインを実行し、カレンダーを変更した場合、カレンダーの変更を反映するようにデータが遡及して変更されることはありません。

Demand Vs Capacity Reportの実行

Demand Vs Capacity Reportを実行するには、次の手順を実行します。

1. Webブラウザのウィンドウを開いて、InfoViewにログオンします。
2. InfoViewのホームページの **[Navigate]** セクションまたはヘッダパネルで、**[Document List]** をクリックします。

注: ドキュメントリストに表示されるフォルダおよびオブジェクトは、ユーザがログオンしたアカウント、BusinessObjects Enterprise管理者によってユーザに付与されている権限、およびユーザとその管理者が有効にしている設定に応じて変化します。

3. ページ左側のツリーパネルで、**[Public Folders]** フォルダを展開し、**[HP PPM Reports]** を選択します。
4. 右側のパネルで、**[Demand Vs Capacity Report]** をダブルクリックします。

[Prompts] ダイアログに、レポートクエリで使用可能なプロンプトが一覧されます。値が必要なすべてのプロンプトにデフォルト値が割り当てられていますが、これらの値は変更できます。また、一覧されているオプションプロンプトの一部または全部に値を指定できます。

注: プロンプト一覧の左側にある緑のチェックマーク (✓) は、そのプロンプトが必須であり、値が指定されていることを示します。プロンプト一覧の左側にある赤い矢印 (→) は、そのプロンプトが必須であり、レポートクエリを実行する前に値を指定する必要があることを示します。

5. データをさらに絞り込むには、レポートを実行する前に、次の表に一覧および説明さ

れているプロンプトに情報を提供します。

注: プロンプトに値を指定しない場合、レポートデータにフィルタは適用されません。

プロンプト	説明
* 必須の値	
*Primary Grouping	レポート内でデータを分類する方法を決定します。次のいずれかの値を選択します。 <ul style="list-style-type: none">■ Region■ Resource Pool■ Role
*Begin Period	レポートにデータを表示する最初の期間を決定します。 [Available Periods] リストから値を選択します。
*End Period	レポートにデータを表示する最後の期間を決定します。 [Available Periods] リストから値を選択します。

プロンプト	説明
* 必須の値	
*Time Granularity	<p>レポートに表示されるデータの時間間隔を決定します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [Year] は、期間をyyyyとして表示します。 ■ [Half Year] は、期間をh1またはh2/yyyyとして表示します。 ■ [Quarter] は、期間をquarter/yyyyとして表示します。 ■ [Month] は、期間をmm/yyyyとして表示します。 ■ [Week] は、期間をmm/dd/yyyyとして表示します。 <p>注記: 長いレポート期間を指定し、時間粒度として [Week] を選択した場合、生成されたレポートデータをMicrosoft Excelにエクスポートすると、出力されるExcelファイルのデータは、フォーマット制限の結果として切り捨てられる可能性があります。この問題を回避する唯一の方法は、Web intelligenceドキュメントをテキストファイルにエクスポートしてから、そのファイルをExcelで開くことです。この場合、ファイルフォーマットは失われます。</p>
*Time Unit	<p>レポートにキャパシティおよびデマンドデータを表示する際に使用する時間単位 (FTE、人日、または時間) を決定します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ FTE ■ Person Days ■ Hours
Resource Pool	<p>レポートに表示するリソースプールを決定します。[Resource Pool Name] リストから1つまたは複数のリソースプール名を選択します。</p>

プロンプト	説明
* 必須の値	
Region	レポートにデータを表示する地域を決定します。[Region] リストから値を選択します。
Role	レポートに表示するロールを決定します。[Role Name] リストから1つまたは複数の値を選択します。
Resource Category	InfoViewに、PPM Centerのリソースに定義されているすべてのリソースカテゴリが一覧されます。 [Resource Category] リストから、レポートに含める1つまたは複数のリソースカテゴリを選択します。

- ダイアログの一番上のリストから、プロンプトを選択します。
- InfoViewでは、ダイアログの左下にあるボックスに一部のプロンプトで使用できる値が一覧されます。選択したプロンプトに対して値が一覧されない場合は、[Refresh Values] をクリックして値を表示します。
- オプションのデータフィルタを指定したら、[Run Query] をクリックします。

Web Intelligenceによってデフォルト値のデータが取得され、レポートに結果が返されます。

Demand Vs Capacity Reportの結果

「表 4-3. Demand Vs Capacity Reportに表示される列」(77ページ)に、Demand Vs Capacity Reportに表示される列の説明を示します。

表 4-3. Demand Vs Capacity Reportに表示される列

列	説明
Grouping category	レポートに選択されたグループカテゴリを反映します。(詳細については、「*Primary Grouping」(75ページ)を参照してください)。

表 4-3. Demand Vs Capacity Report(に表示される列 (続き)

列	説明
Time Unit	レポートでキャパシティ、デマンド、および工数を示す際に使用される単位 (時間、人日、FTE) を表示します。
Resource Pool	レポートデータによって示されるリソースプールの名前と、どのリソースプールにもアサインされていないデマンドの [No Resource Pool] 行を表示します。
Role	レポートデータが表示される各リソースプール内のロールを表示します。[Role] プロンプトでフィルタを指定しなかった場合、この列には各リソースプールのすべてのロールが一覧されます。
Time period	レポートデータの期間を示す列見出しが左から右に (最初のレポート期間から始まって最後のレポート期間で終わるように) 表示されます。期間は、「*Time Granularity」(76ページ) プロンプトで選択した値に基づいてフォーマットされます。
Demand	<p>レポートに示される各リソースプールのロールごとに (およびどのリソースプールにもアサインされていないデマンドに対して)、 「*Time Unit」 (76ページ) プロンプトでの選択に基づいて表示される次の列副見出しの下に一定期間におけるデマンドの内訳を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Committed - リソースプールのリソースがコミット済みであるデマンドを表示します。 • Soft Booked - リソースプールのリソースがソフトブック済みであるデマンドを表示します。 • Unmet - 未処理のデマンドを表示します。 • Total Demand - 次を表示します。 <p>各リソースプール (およびどのリソースプールにもアサインされていないデマンド) について、これらの列ごとに合計デマンドを表示します。</p>

表 4-3. Demand Vs Capacity Report(に表示される列 (続き)

列	説明
Capacity	<p>各期間について、次のカテゴリのロール/リソースプールごとに (「*Time Unit」(76ページ)プロンプトで選択した単位に基づいて) キャパシティの内訳を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Named - 名前付きリソースのキャパシティを表示します。 • Unnamed - 名前なしリソースのキャパシティを表示します。 • Total Capacity - 名前付きおよび名前なしリソースの合計キャパシティを表示します。
Demand Vs Capacity	<p>各期間について、ロール/リソースプールごとの合計デマンドと合計キャパシティ間に差異がある場合、この列はその差異を表示します。デマンドがキャパシティを超えている場合、値は括弧内に赤いテキストで表示されます。キャパシティがデマンドと等しいか、デマンドを超えている場合、値は黒いテキストで表示されます。</p>
Actual Effort	<p>各期間について、ロール/リソースプールごとに (「*Time Unit」(76ページ)プロンプトで選択した単位に基づいて) 実績工数の内訳を表示します。</p>

HP Resource Managementのアドホックレポート

この項では、HP Resource Managementを対象に作成できる運用レポートについて説明し、それらのレポートのいくつかを作成する方法の例を示します。また、この項には、レポートで使用できるコンテキストに関する情報、アドホックレポートの作成における推奨事項、および運用レポートクエリでのPPM Centerユニバースオブジェクトの使用方法に関するガイドも含まれます。

HP Resource Managementのアドホックレポートのコンテキスト

HP Resource Managementのアドホックレポートを作成する場合、InfoViewによってレポートクエリのコンテキストを選択するよう求められることがあります。コンテキストは、複数の

ディメンションおよびファクトに関連する一意のクエリパスを作成するための、明確に定義された結合のセットで構成されます。

ディメンションの共通セットにレポートユニバースの複数のファクトおよびメジャーが関連している場合、複数のファクトと関連ディメンション間の結合は、ループに陥ります。ファクトおよび関連ディメンションごとに個別のコンテキストを指定することで、ループを排除し、共通ディメンションのセット全体で複数のファクトをクエリできます。

Operational Reportingでは、HP Resource Managementデータを対象に作成されるアドホックレポートに次のコンテキストが提供されます。

- Resource Capacity

「Resource Capacity」コンテキストを使用すると、任意の会計期間にわたるリソース、リソースプール、ロール、および組織単位全体でキャパシティ情報を取得できます。このコンテキストでは、地域はリソースプールの地域を示し、ロールはリソースのプライマリロールを、組織単位はリソースプールの組織単位を示します。

- Resource Demand on Resource Pool Region

「Resource Demand on Resource Pool Region」コンテキストを使用すると、地域に基づくリソースデマンドを (Demand Vs Capacity reportで事前設定したとおりに) 表示できます。リソースプールにアサインされたデマンドは、リソースプールの地域でのデマンドとして処理されます。リソースプールに関連付けられていないデマンドは、スタッフィングプロファイルの地域から取得されたものとして処理されます。

このコンテキストでは、地域はリソースプールの地域を示し、ロールはポジションのロールを、組織単位はスタッフィングプロファイルの組織単位を示します。

- Resource Demand from Staffing Pool Region

「Resource Demand from Staffing Pool Region」コンテキストを使用すると、ポジション、スタッフィングプロファイル、リソースプール、地域、および会計期間全体でリソースデマンドデータを取得し、デマンドのソースである (スタッフィングプロファイルに関連付けられた) 地域を確認できます。

このコンテキストでは、地域はスタッフィングプロファイルに関連付けられた地域を示し、ロールはポジションにアサインされたロールを、組織単位はスタッフィングプロファイルが属する組織単位を示します。

- Resource Effort

「Resource Effort」コンテキストを使用すると、さまざまなディメンション全体（ロール、リソースプール、スタッフリングプロファイル、地域など）で工数データを取得できます。

このコンテキストでは、地域はリソースの地域を示し、ロールはタスクのロール（タスクにロールが存在する場合）またはリソースのプライマリロールを、組織単位はリソースのサイン先のプライマリ組織単位を示します。

- Resource Pool in a region and its Org Unit

「Resource Pool in a region and its Org Unit」コンテキストを使用すると、地域のリソースプールと、そのリソースプールが属する組織単位を取得できます。

HP Resource Managementデータに関するレポートのベストプラクティス

この項では、HP Resource Managementデータを対象に作成するアドホック運用レポートから最適な結果を得るための推奨事項について説明します。

複数のビジネス目標を含むプログラムにおけるビジネス目標ごとのプログラムメジャーのグループ化

たとえば、ビジネス目標ごとにグループ化されたプログラムメジャー（Forecast、Actuals、Approvedなど）を含むアドホックレポートクエリを作成し、そのクエリ結果に（FM派生ユニバースの）Business Objectivesクラスから1つまたは複数のオブジェクトを含めるとします。複数のビジネス目標を含むプログラムに関してレポートすると、生成されるメジャーのデータに、関連するビジネス目標の数が掛けられます。この操作により、正しくないレポートデータが生成されます。

この問題を回避するには、プログラムにおける個別のビジネス目標の数をカウントするレポート変数を作成します。プログラムメジャーを表示する各アドホックレポートセルでこの変数を使用し、セルの合計をその値で割ります（Financial Summary Reportでは、このメカニズムが使用されます）。

リソースプールに複数のマネージャが含まれる場合のリソースプールメジャーのクエリ

たとえば、Resource Poolディメンションに対してCapacityやDemandなどのメジャーを含むクエリを作成し、そのクエリ結果にResource Pool Managerオブジェクトを含めるとします。複数のマネージャを含むリソースプールに関してレポートすると、生成されるメジャーのデータに、リソースプールマネージャの数が掛けられます。この操作により、正しくないレポートデータが生成されます。

この問題を回避するには、2つの別個のレポートクエリを作成します。1つのクエリは、メジャーを含めずに、リソースプールのディメンション (または必要に応じてほかのディメンションオブジェクト) に関する情報を取得するように設計します。もう1つのクエリは、メジャーを取得するように設計します。

データ計算に対するカレンダー設定変更の影響

カレンダー設定を変更する場合、その変更が関連タイムシートにも反映されない限り、FTE単位で表示される実績工数データと、影響を受ける時間範囲内の人日データは、自動的に再計算されません。

複数のマネージャを含むプロジェクトのクエリ

プロジェクトマネージャに基づいてプロジェクトをクエリする際に、クエリにフィルタ条件を作成する場合は注意してください。プロジェクトに複数のマネージャがアサインされている場合、そのクエリによって、フィルタに指定されたリソース名に基づいて管理されているすべてのプロジェクトが返されることを確認します (そのリソースが、プロジェクトにアサインされている唯一のマネージャであるか、アサインされている複数のマネージャのうち1人であるかは問いません)。Project Managerオブジェクトにクエリフィルタを作成する場合、パターン一致操作を選択し、プロジェクトマネージャのリストから選択した名前の最初と最後にパーセント文字 (%) を追加します。

デマンド、キャパシティ、および工数データのFTE単位での表示

デマンド、キャパシティ、および工数は、システムカレンダー設定に所定期間の就業日の合計日数がゼロであると示されている場合、フルタイム従業員 (FTE) 単位で計算できません。たとえば、所定の週のそれぞれの日がシャットダウン期間の非就業日として設定されていると、その週のデマンド、キャパシティ、および工数データは、FTEがゼロとして表示されます。ただし、時間の値は、ゼロにならない可能性があります。この問題が発生するのは、たとえば、シャットダウン期間にリソースが作業した場合です。カレンダーに就業日数がゼロと示されていても、キャパシティまたは工数はゼロにならない可能性があります。

この間違いを回避するには、レポート結果のデマンド、キャパシティ、または工数データにFTEがゼロとして表示された場合に、同じメジャーの値 (時間単位) を確認します。ゼロ以外の値は、カレンダー設定に問題があることを示しており、その場合、時間単位で返されているデータの方が信頼できる表示単位です (事前設定されたDemand Vs Capacity Reportでは、このメカニズムを使用して、一定期間の就業日数がゼロであると計算された場合にFTE単位でデマンド、キャパシティ、および工数データを表示するか、または「--」として表示するかを決定します)。

リソースマネージャ階層に最上位レベルマネージャが含まれない場合のリソースに関するレポート

PPM Centerデータベースでは、リソースマネージャ階層が存在するが、最上位レベルマネージャがその階層にアサインされていない場合、ループが発生します。リソースデータを含めるように設計されたレポートの結果から、すべてのリソースが除外されます。この問題の発生を回避するには、最上位レベルマネージャがリソースマネージャ階層にアサインされていることを確認します。

大規模データベースに対するクエリ

デフォルトでは、クエリは実行後10分でタイムアウトします。大容量のデータを取得するクエリフィルタを選択した場合、そのクエリはタイムアウトし、レポート結果が返されない可能性があります。この問題の発生を回避するには、次のいずれか1つ、または両方を実行します。

- [Universe Parameters] ダイアログの[Controls] タブで、実行時間の制限値を増やすようにユニバースパラメータを変更します。
- より小規模なデータセットを取得するようにクエリフィルタを変更します。

リソースの過剰割り当ての計算

リソースの過剰割り当てに関するレポートでは、クエリ結果にProject Nameオブジェクトだけでなく、Staffing Profile Nameオブジェクトを含めるようにします。この原則が特に重要となるのは、リソースが複数のスタッフィングプロファイルにアサインされている場合（その一部は独立したスタッフィングプロファイルである可能性もあります）、または組織単位のスタッフィングプロファイルが存在し、それがプロジェクトに関連していない場合です。

Staffing Profile Nameオブジェクトを含めずにProject Nameオブジェクトのみを追加すると、プロジェクトスタッフィングプロファイル以外のリソースに対するアサインが結果から除外され、過剰割り当てが正確に反映されない可能性があります。

ポジションのロールとそのポジションにアサインされたリソースのロールの比較

ポジションのロールと、そのポジションにアサインされたリソースの実際のロールを比較するクエリを作成する場合、次の操作を実行する必要があります。

- ポジションのロールのRole Nameオブジェクト (Rolesクラス) を選択します。
- リソースのロールのPrimary Roleオブジェクト (Resourceクラス) を選択します。
- 「[Resource Demand from Staffing Pool Region](#)」(80ページ)または「[Resource Demand on Resource Pool Region](#)」(80ページ)コンテキストを選択します。

HP Resource Managementのアドホックレポートの作成

PPM Centerに付属するRM派生ユニバースには、HP Resource Managementデータを対象にユーザが独自の運用レポートを作成できるクラスとオブジェクトが含まれます。以下に示すのは、HP Resource Managementデータを対象に作成できるアドホックレポートのごく一部です。

- 「プロジェクトにアサインされているリソース」(86ページ)
- 「リソースプールのすべてのリソース」(93ページ)
- 「プロジェクトのベースラインデマンドとアクティブなスタッフィングプロファイルデマンドの比較」(96ページ)
- 「デマンド、キャパシティ、および実績工数のレポート (プライマリ組織単位ごとにグループ化)」(97ページ)
- 「合計デマンドとキャパシティの比較 (追加のリソースプールデータ付き)」(99ページ)
- 「地域ごとのリソースプール」(100ページ)
- 「リソースカテゴリごとのすべてのリソース」(102ページ)
- 「スタッフィングプロファイルごとのリソースおよびロールに関するすべてのアサイン (すべての工数を表示)」(102ページ)
- 「リソースのスタッフィングプロファイルの詳細」(104ページ)

この項では、これらのレポートのうちの1つを作成する手順と、HP Resource Managementを対象に作成できる他のアドホックレポートについて説明します。

HP Resource Managementデータに関するアドホックレポートの作成: 例

さまざまなリソースプールのリソースをプロジェクト全体に配布する方法を把握する必要のあるリソースプールマネージャは、この情報を提供するレポートを迅速に作成できます。「表 4-4. PPM Centerのリソースプールのリソースに関するレポートに含めるRMユニバースオブジェクト」(86ページ)に、このレポートの作成に必要なRMユニバースオブジェクトと、それらのオブジェクトが存在する [新しいWeb Intelligenceドキュメント] ページの場所を示します。

表 4-4. PPM Centerのリソースプールのリソースに関するレポートに含めるRMユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Project Information	Project Name	Project Name / In list / Prompt
Resources	Resource Name	
Resource Pools	Resource Pool Name Resource Pool Managers	
Roles	Role Name	

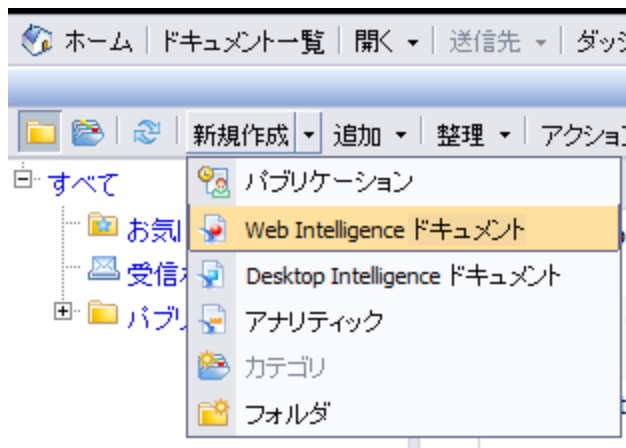
次の例では、このレポートクエリを作成および実行するのに必要な基本手順について説明します。Web Intelligenceドキュメントの作成方法の詳細については、『BusinessObjects Enterprise InfoView User's Guide』を参照してください。

プロジェクトにアサインされているリソース

プロジェクトにアサインされているリソースプールおよびリソースを表示するレポートを作成するには、次の手順を実行します。

1. Webブラウザのウィンドウを開いて、InfoViewにログオンします。
2. InfoViewのホームページの **[Navigate]** セクションで、**[ドキュメント一覧]** をクリックします。

注: ドキュメント一覧に表示されるフォルダおよびオブジェクトは、ユーザがログオンしたアカウント、BusinessObjects Enterprise管理者によってユーザに付与されている権限、およびユーザとその管理者が有効にしている設定に応じて変化します。

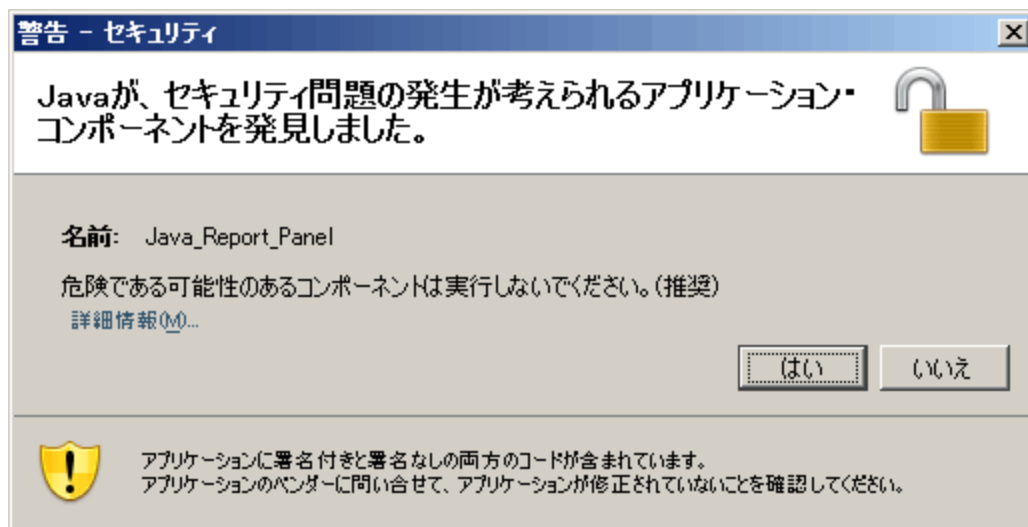


3. [新規作成] リストで、[Web Intelligenceドキュメント] を選択します。



4. 使用可能なユニバースのリストで、[RM Derived Universe] を選択します。

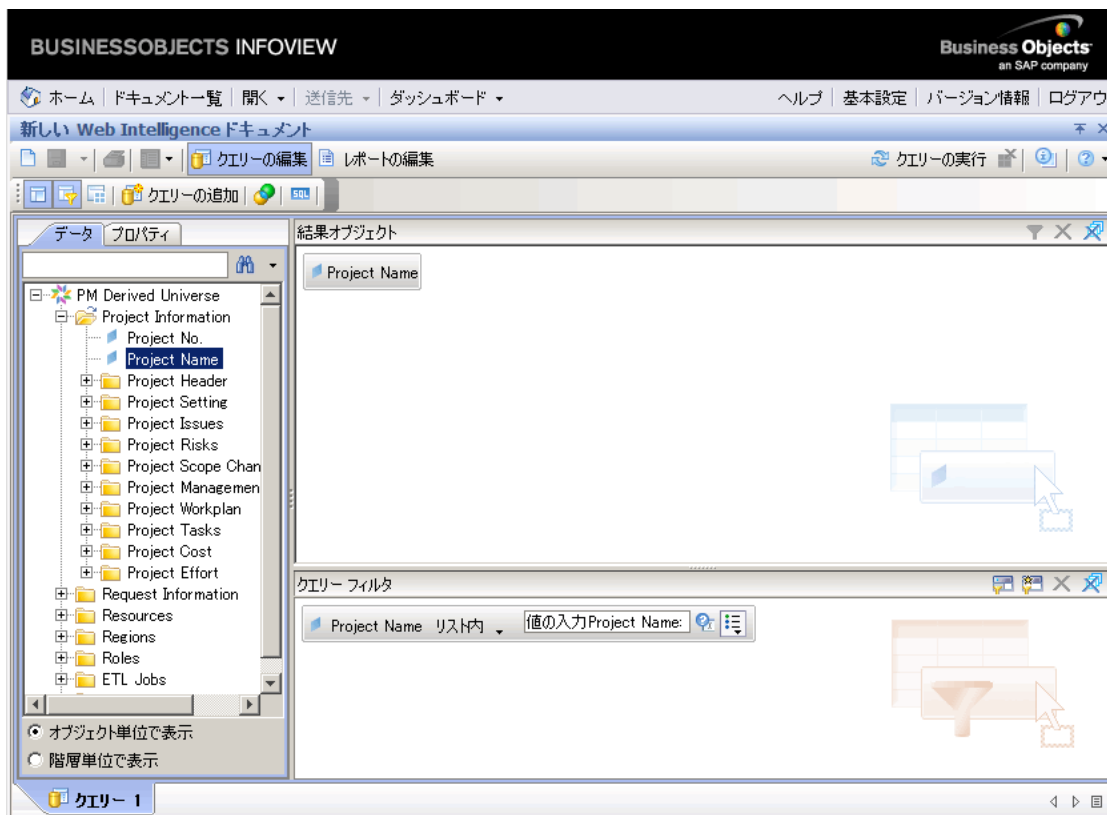
5. [警告 - セキュリティ] ダイアログボックスが開き、Javaアプリケーションコンポーネントに関するセキュリティ上の問題が勧告され、安全でない可能性があるコンポーネントをブロックできます。[いいえ] をクリックします。



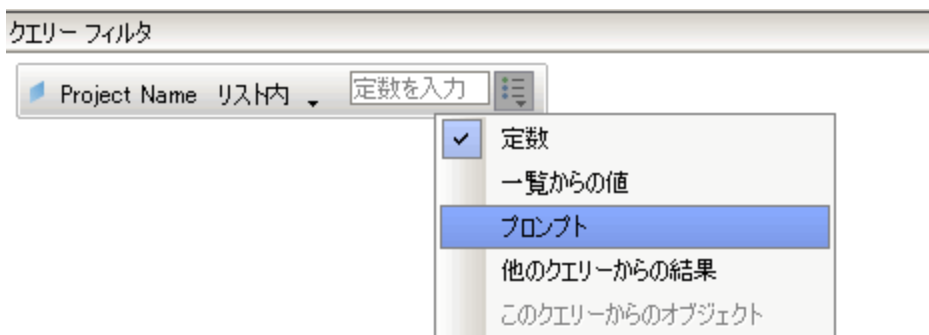
左側のペインの[データ] タブに、RM派生ユニバースで使用可能なすべてのクラスおよびオブジェクトが一覧されます。

6. [Project Information] クラスフォルダを展開します。

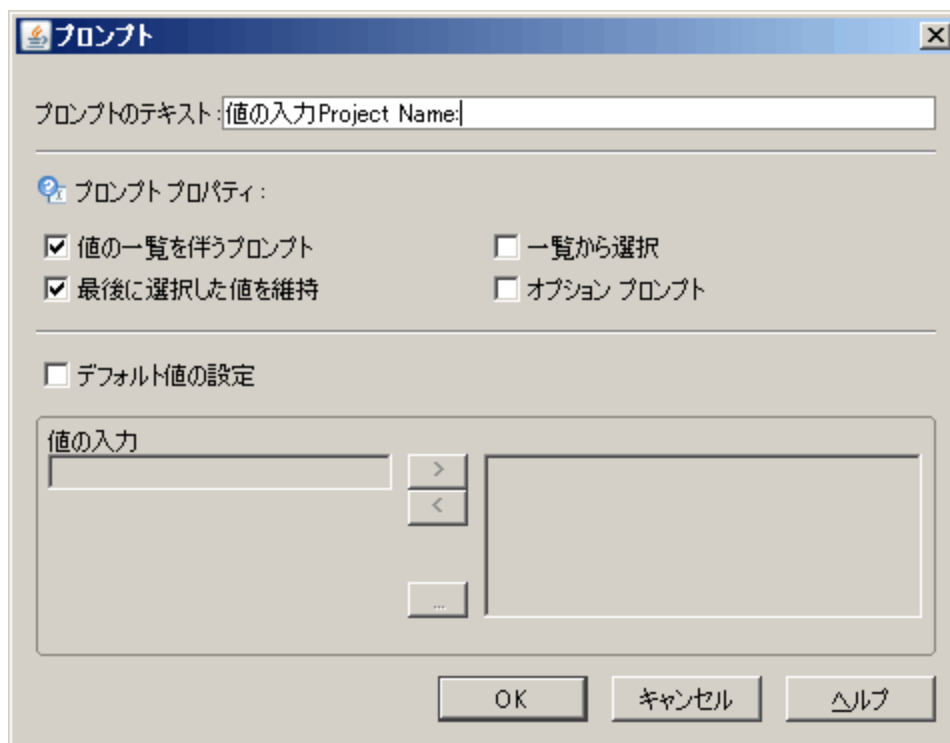
7. [Project Name] オブジェクトを右上の[結果オブジェクト] セクションにドラッグし、次に [Project Name] オブジェクトを右下の[クエリーフィルタ] セクションにドラッグします。



8. [クエリーフィルタ] パネルで、[Project Name] ボックスの右端にあるリストボタン (☰) をクリックし、[プロンプト] を選択します。

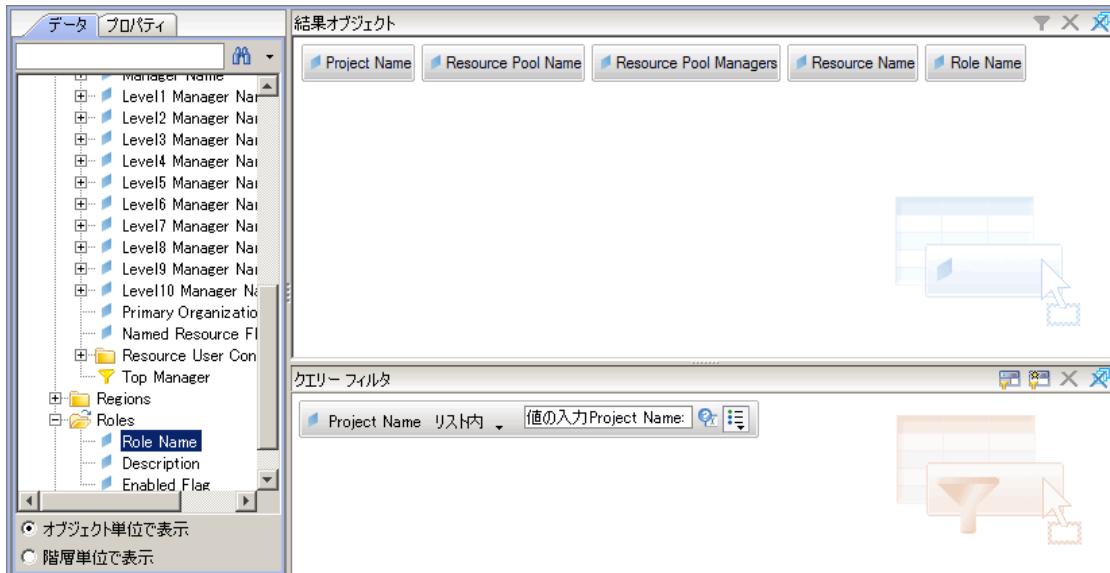


9. [クエリーフィルタ] パネルで、[プロンプトプロパティ] ボタン (?) をクリックします。



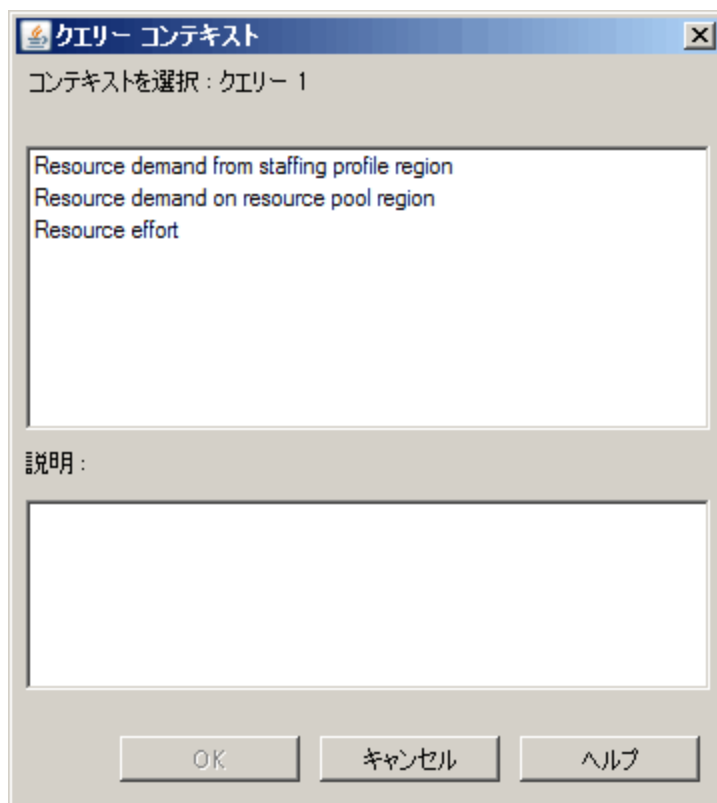
10. [プロンプト] ダイアログボックスの [プロンプトプロパティ] セクションで、[一覧から選択] および [オプションプロンプト] チェックボックスを選択します。
11. [OK] をクリックします。
12. [Resource Pools] クラスフォルダを展開し、[Resource Pool Name] および [Resource Pool Managers] オブジェクトを [結果オブジェクト] セクションにドラッグします。
13. [Resources] クラスフォルダを展開し、[Resource Name] オブジェクトを [結果オブジェクト] セクションにドラッグします。

14. **[Roles]** クラスフォルダを展開し、**[Role Name]** オブジェクトを**[結果オブジェクト]** セクションにドラッグします。



15. **[クエリーの実行]** をクリックします。

[クエリーコンテキスト] ダイアログが表示されます。



16. この例のように、アドホックレポートクエリを作成するために選択したオブジェクトのセットが複数の結合パスを通じて取得可能な場合、InfoViewでは、クエリのコンテキストを選択するよう求められます (コンテキストによって結合パスが定義されます)。
[Resource demand on resource pool region] コンテキストを選択し、**[OK]** をクリックします。

注: リストのコンテキストがレポート結果にどのように影響するかを判断するには、コンテキスト名をクリックし、**[説明]** ボックスに表示される内容を確認します。

[プロンプト] ダイアログが表示されます。

17. レポートに含めるプロジェクトを指定し、**[クエリーの実行]** をクリックします。

InfoViewによってレポートが実行され、プロジェクトにアサインされているリソースおよびリソースプールが一覧されます。

18. レポートのタイトルを指定します。

19. ドキュメントに名前を付けて保存します。

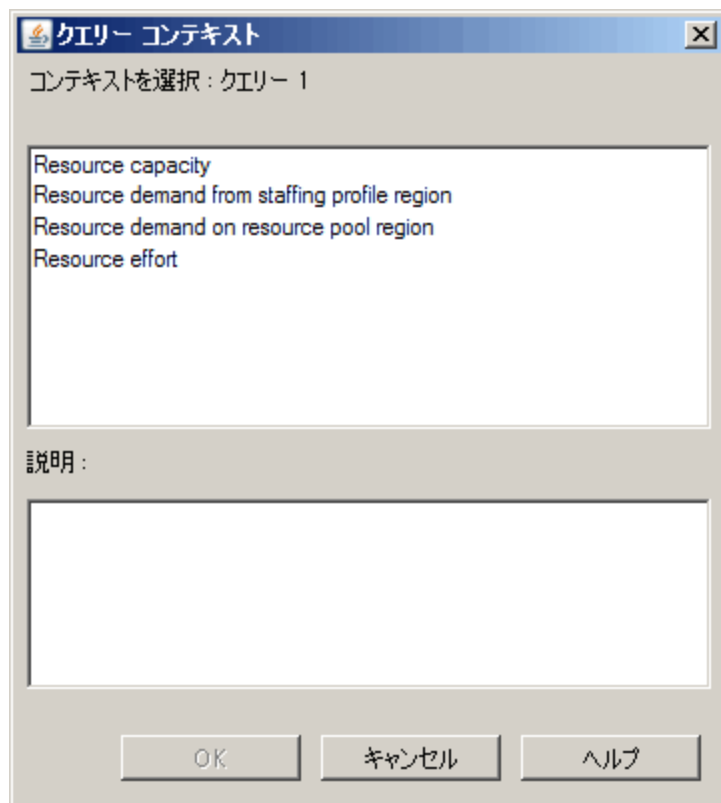
リソースプールのすべてのリソース

リソースプールにアサインされているすべてのリソースを一覧する単純なレポートを作成できます。「[表 4-5. リソースプールのすべてのリソースを一覧するレポートに含めるRMユニバースオブジェクト](#)」(93ページ)に、このレポートの作成に使用するRMユニバースオブジェクトと、それらのオブジェクトが存在する [新しいWeb Intelligenceドキュメント] ページの場所を示します。

表 4-5. リソースプールのすべてのリソースを一覧するレポートに含めるRMユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Resources	Resource Name	
Resource Pools	Resource Pool Name	Resource Pool Name

この場合、アドホックレポートクエリを作成するために選択したオブジェクトのセットが複数の結合パスを通じて取得可能です。クエリを実行すると、InfoViewでは、クエリのコンテキストを選択するよう求められます。



[Resource demand on resource pool region] コンテキストを選択します。

次の条件が成立する場合、リソースプールにアサインされているリソースは、このレポートにのみ表示されます。

- リソースにキャパシティデータが含まれる場合。このレポートのクエリを実行する場合、クエリで使用するコンテキストを選択する必要があります。レポートクエリに「Resource capacity」コンテキストを適用します。

注: 「resource capacity」クエリコンテキスト内では、リソースプール、地域、ロール、組織単位、および会計期間全体にわたるリソースキャパシティデータがレポートに表示されます。「resource capacity」コンテキストでは、リソースプールマネージャの観点に基づいたデータを表示できます。

- リソースの開始日 (リソース開始日) および (または) リソースの終了日 (リソース終了

日) が、レポートスキーマに読み込まれているHP Resource Managementデータの開始日と終了日の間に存在する場合。

プロジェクトのベースラインデマンドとアクティブなスタッフィングプロファイルデマンドの比較

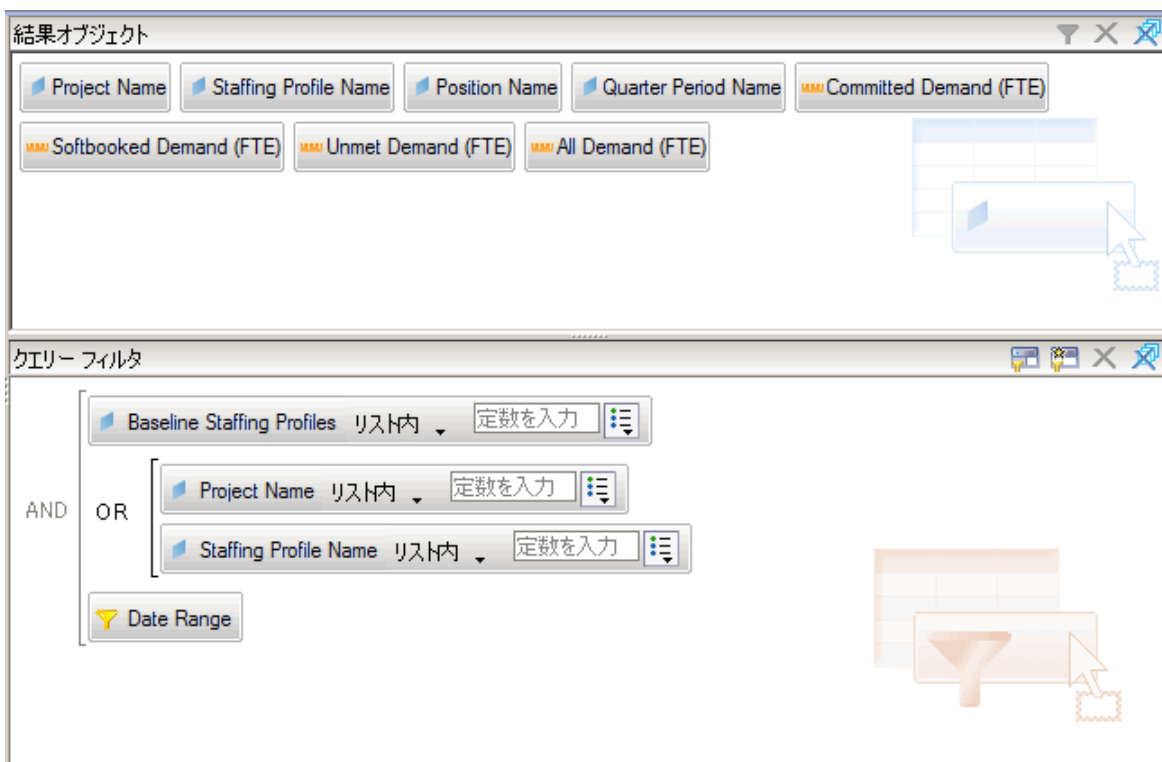
特定のプロジェクトのアクティブなスタッフィングプロファイルとベースラインスタッフィングプロファイルを比較できるレポートを作成できます。「表 4-6. プロジェクトのベースラインデマンドとアクティブなスタッフィングプロファイルデマンドの比較に使用するレポート用のRMユニバースオブジェクト」(96ページ)に、このレポートを作成するためにWeb Intelligenceドキュメントに追加するRMユニバースオブジェクトを示します。

表 4-6. プロジェクトのベースラインデマンドとアクティブなスタッフィングプロファイルデマンドの比較に使用するレポート用のRMユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Project Information	Project Name	Project Name
Staffing Profiles	Staffing Profile Name	Baseline Staffing Profile Staffing Profile Name
Staffing Profiles > Positions (サブクラス)	Position Name	
Fiscal Periods	Quarter Period Name	Date Range/Begin Period、End Period、Time Granularity
Resource Demand > Demand (FTE)	Committed Demand (FTE) Softbooked Demand (FTE) Unmet Demand (FTE) All Demand (FTE)	

「図 4-1. プロジェクトのベースラインデマンドとアクティブなスタッフィングプロファイルデマンドを比較するアドホックレポートのクエリフィルタ」(97ページ)のようにクエリフィルタを設定します。

図 4-1. プロジェクトのベースラインデマンドとアクティブなスタッフィングプロファイルデマンドを比較するアドホックレポートのクエリフィルタ



InfoViewでこれらのオブジェクトをWeb Intelligenceドキュメントに追加する方法の例については、「[HP Resource Managementデータに関するアドホックレポートの作成: 例](#)」(85ページ)を参照してください。

注意: 会計年が1月以外の月から始まり、レポートクエリで四半期、半年、または年の時間粒度を指定する場合、開始期間の月がそれぞれその会計四半期、半年、または年で始まっていることを確認してください。この設定を行わないと、無効な結果が返されます。

デマンド、キャパシティ、および実績工数のレポート (プライマリ組織単位ごとにグループ化)

リソースが属するプライマリ組織単位ごとにグループ化された、リソースのデマンド、キャパシティ、および実績工数データを表示するレポートを作成できます。「[表 4-7. プライマリ組織単位ごとにグループ化されたリソースのデマンド、キャパシティ、および実績工数](#)」

データの表示に使用するレポート用のRMユニバースオブジェクト」(98ページ)に、このレポートの作成に使用するRMユニバースオブジェクトを示します。

表 4-7. プライマリ組織単位ごとにグループ化されたリソースのデマンド、キャパシティ、および実績工数データの表示に使用するレポート用のRMユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Resources	Primary Organization Unit	Primary Organization Unit / Prompt
Fiscal Periods	Month Period Name	Date Range
Resource Pools	Resource Pool Name	
Staffing Profiles	Staffing Profile Name	
Roles	Role Name	
Resource Capacity > Capacity (Hours) サブクラス	All Capacity (Hours)	
Resource Demand		Exclude Demand from Baseline Staffing Profile Exclude Obsolete Demand from Proposal
Resource Demand > Demand (Hours) サブクラス	All Demand (Hours)	
Resource Effort	Effort (Hours)	

注: フィルタ条件で特定のプライマリ組織単位を選択すると、名前なしリソースはその組織単位にも属していないため、名前なしキャパシティのデータは結果から除外されます。フィルタ条件で特定のプライマリ組織単位を選択しなければ、レポートに

はすべての名前なしキャパシティが表示されます。

オブジェクトをWeb Intelligenceドキュメントに追加する方法の例については、「[HP Resource Managementデータに関するアドホックレポートの作成: 例](#)」(85ページ)の手順を参照してください。

合計デマンドとキャパシティの比較 (追加のリソースプールデータ付き)

リソースプールマネージャは、詳細なリソースプール情報付きでリソースプールのデマンドとキャパシティを比較するレポートを作成できます。「[表 4-8. デマンド、キャパシティ、および実績工数に関するレポート \(プライマリ組織単位ごとにグループ化されたデータ付き\) に含めるRMユニバースオブジェクト](#)」(99ページ)に、このレポートの作成に使用するRMユニバースオブジェクトと、それらのオブジェクトが存在する [新しいWeb Intelligenceドキュメント] ページの場所を示します。

表 4-8. デマンド、キャパシティ、および実績工数に関するレポート (プライマリ組織単位ごとにグループ化されたデータ付き) に含めるRMユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Resource Pools	Resource Pool Name Resource Pool Managers Parent Resource Pool Parent Resource Pool Name1	Resource Pool Name
Fiscal Periods	Year Period Name	Date Range
Roles	Role Name	
Resources	Resource Name	

表 4-8. デマンド、キャパシティ、および実績工数に関するレポート (プライマリ組織単位ごとにグループ化されたデータ付き) に含めるRMユニバースオブジェクト (続き)

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Resource Capacity > Capacity (FTE)	All Capacity (FTE) Named Capacity (FTE) Unnamed Capacity (FTE)	
Resource Demand > Demand (FTE)	All Demand (FTE) Unmet Demand (FTE) Committed Demand (FTE) Softbooked Demand (FTE)	

オブジェクトをWeb Intelligenceドキュメントに追加する方法の例については、「[HP Resource Managementデータに関するアドホックレポートの作成: 例](#)」(85ページ)の手順を参照してください。

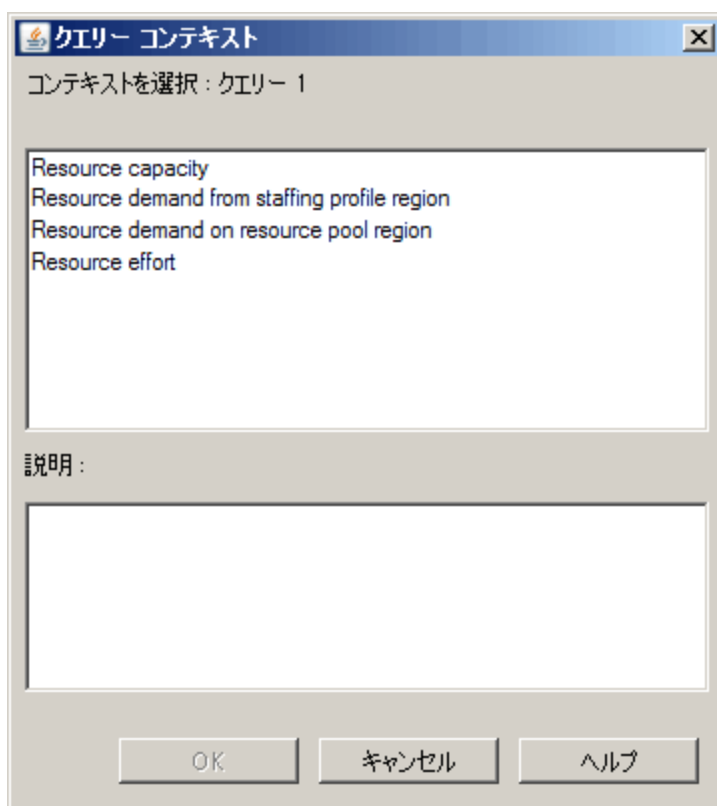
地域ごとのリソースプール

どのリソースプールがどの地域に関連付けられているかを確認できるレポートを作成できます。「[表 4-9. 地域ごとにグループ化されたリソースプールに関するレポートに含めるRMユニバースオブジェクト](#)」(101ページ)に、このレポートの作成に使用するRM派生ユニバースオブジェクトと、それらのオブジェクトが存在するInfoViewの場所を示します。

表 4-9. 地域ごとにグループ化されたリソースプールに関するレポートに含めるRMユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Resource Pools	Resource Pool Name Resource Pool Managers	
Regions	Region Name	Region Name / In list / Prompt
Roles	Role Name	

リソースにキャパシティデータが含まれる場合、リソースプールにアサインされているリソースは、このレポートにのみ表示されます。クエリを実行すると、InfoViewでは、クエリのコンテキストを選択するよう求められます。



[Resource capacity] コンテキストを選択します。

リソースカテゴリごとのすべてのリソース

プロジェクトのスタッフィングに使用されるリソースプールおよびリソースをリストするレポートを作成できます。「[表 4-10. どのリソースカテゴリのどのリソースがPPM Centerプロジェクトにアサインされているかに関するレポートに含めるRMユニバースオブジェクト](#)」(102ページ)に、このレポートの作成に使用するRMユニバースオブジェクトと、それらのオブジェクトが存在するInfoViewの場所を示します。

表 4-10. どのリソースカテゴリのどのリソースがPPM Centerプロジェクトにアサインされているかに関するレポートに含めるRMユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Resources	Resource Category Primary Organization Unit Resource Name Primary Role	Resource Category/Prompt
Resource Pool Name	Resource Pools	

このレポートクエリを実行すると、InfoViewでは、レポートのコンテキストを選択するよう求められます。**[Resource capacity]**を選択します。

HP Resource Managementのアドホックレポートを作成および実行する方法の例については、「[HP Resource Managementデータに関するアドホックレポートの作成: 例](#)」(85ページ)を参照してください。

スタッフィングプロファイルごとのリソースおよびルールに関するすべてのアサイン (すべての工数を表示)

スタッフィングプロファイルにアサインされているリソース (およびルール)、これらのリソースが記録した工数、および各スタッフィングプロファイルがリソースにリクエストしたデマンドを表示するレポートを作成できます。リソースマネージャまたはプロジェクトマネージャは、このレ

レポートを使用して、リソースが実行した実績工数と、スタッフィングプロファイルが当初リクエストした工数を比較できます。「表 4-11. どのリソースがどのスタッフィングプロファイルにアサインされているかと、リソースが記録した工数に関するレポートに含めるRMユニバースオブジェクト」(103ページ)に、このレポートの作成に使用するRMユニバースオブジェクトと、それらのオブジェクトが存在する[新しいWeb Intelligenceドキュメント] ページの場所を示します。

表 4-11. どのリソースがどのスタッフィングプロファイルにアサインされているかと、リソースが記録した工数に関するレポートに含めるRMユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Staffing Profiles	Staffing Profile Name	
Resources	Resource Name User Name	
Resource Demand		Exclude Obsolete Demand from Proposal
Resource Demand > Demand (Hours)	All Demand (Hours)	
Resource Effort	Effort (Hours)	
Fiscal Periods	<Period> Name	Date Range
Roles	Role Name	
Project Information	Project Name	
Request Information	Source Entity Type Request ID	

このレポートは、リソースが記録した実績工数のみを表示するように変更できます。ただし、そのように変更する場合、クエリにデマンド情報が含まれないと、クエリに指定した期

間内に時間を記録しなかったリソースは、レポート結果から除外されることに注意してください。つまり、スタッフィングプロファイルにアサインされているリソースのすべてを表示することはできません。

注: 実績工数は、プロジェクトまたは(スタッフィングプロファイルに関連付けられた) HP Portfolio Managementリクエストに対して時間が記録されている場合にのみスタッフィングプロファイルレベルに関連付けられますが、ポジションレベルには関連付けられません。つまり、アドホッククエリを実行する場合、実績工数はスタッフィングプロファイル属性にのみ関連付けることが可能で、ポジション属性には関連付けることができません。

リソースのスタッフィングプロファイルの詳細

リソースのスタッフィングプロファイルの詳細を表示するレポートを作成できます。このレポートには、リソースが、その開始日と終了日、リクエストされたロール、組織単位、リソースプール、マネージャ、および各リソースが組織内で担当するプライマリロールとともに一覧されます。「表 4-12. どのリソースプールのどのリソースがPPM Centerプロジェクトにアサインされているかに関するレポートに含めるRMユニバースオブジェクト」(104ページ)に、このレポートの作成に使用するRMユニバースオブジェクトと、それらのオブジェクトが存在する[新しいWeb Intelligenceドキュメント] ページの場所を示します。

表 4-12. どのリソースプールのどのリソースがPPM Centerプロジェクトにアサインされているかに関するレポートに含めるRMユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Staffing Profiles	Staffing Profile Name Start Date Finish Date	Staffing Profile Name/Prompt
Roles	Role Name	
Resources	Primary Organization Unit Manager Name Resource Name	

表 4-12. どのリソースプールのどのリソースがPPM Centerプロジェクトにアサインされているかに関するレポートに含めるRMユニバースオブジェクト (続き)

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Resource Pools	Resource Pool Name	

このレポートクエリを実行すると、レポートのコンテキストを選択するよう求められます。このレポートでは、[Resource demand on resource pool region]を選択します。

オブジェクトを新規Web Intelligenceドキュメントに追加する方法の詳細については、「[HP Resource Managementデータに関するアドホックレポートの作成: 例](#)」(85ページ)の手順を参照してください。

HP Time Managementのレポート

この章では、HP Time ManagementのOperational Reportingについて説明します。また、HPが提供する事前設定済みのTime Sheet Compliance reportと、HP Time Managementデータを対象に作成できる多くのアドホックレポートの一部に関する情報を提供します。

Time Sheet Compliance Report (タイムシートコンプライアンスレポート)

HPでは、Operational ReportingソリューションでHP Time ManagementにTime Sheet Compliance Reportを提供しています。このレポートでは、組織全体にわたり時間入力のコンプライアンスを継続的に監視し、コンプライアンスに違反している組織単位およびリソースを特定できます。冗長なデータを細かく調べることなく、会社全体の時間コンプライアンスを監視できます。サマリデータによって、管理チェーン、組織単位、またはリソースプールのコンテキスト内における時間コンプライアンスの概要が提供されます。

タイムシートコンプライアンスレポートには、記録済み、送信済み(または未送信)、定時に承認済み(または未承認)のタイムシートの合計数に加え、指定の期間におけるコンプライアンスのトレンドが表示されます。追加情報が必要な場合は、ドリルダウン機能

を使用して、管理チェーン、組織単位、およびリソースプールの各レベルで時間コンプライアンスの詳細を確認できます。

この項では、タイムシートコンプライアンスレポートクエリの必須およびオプションのプロンプトと、表示されるレポート結果について説明します。

注: HP Time Managementデータに関してレポートするために新規 Web Intelligence レポートドキュメントを作成する方法の詳細については、「[HP Time Managementのアドホックレポート](#)」(115ページ)を参照してください。

タイムシートコンプライアンスレポートクエリの情報

「[図 5-1. タイムシートコンプライアンスレポートの \[プロンプト\] ダイアログ](#)」(107ページ)は、タイムシートコンプライアンスレポートの [プロンプト] ダイアログを示しています。「[表 5-1. タイムシートコンプライアンスレポートクエリのプロンプト](#)」(107ページ)に、クエリに指定する情報の説明を示します。

図 5-1. タイムシートコンプライアンスレポートの[プロンプト] ダイアログ

プロンプト

次の各プロンプトのプロンプト値を選択または入力します。

- ✓ Period Range Beginning Date: 2013/05/09
- ✓ Period Range Ending Date: 2013/05/10
- 値の入力Time Sheet Status:

値の最新表示

Time Sheet Status

- * In Rework
- Pending Approval
- Unsubmitted

値の入力Time Sheet Status:

前回更新日時: 2013年4月27日 12:35:57:GMT-06:00

検索パターンの

表 5-1. タイムシートコンプライアンスレポートクエリのプロンプト

プロンプト	説明
* 必須の値	
*Period Range Beginning Date	<p>レポートに表示されるデータの日付間隔の開始日を決定します。</p> <p>期間の終了日が期間範囲の開始日と終了日の間にある場合、その期間のデータがレポートに含まれます。</p>

表 5-1. タイムシートコンプライアンスレポートクエリのプロンプト (続き)

プロンプト	説明
* 必須の値 *Period Range Ending Date	レポートに表示されるデータの日付間隔の終了日を決定します。 期間の終了日が期間範囲の開始日と終了日の間にある場合、その期間のデータがレポートに含まれます。
*Time Sheet Line Status(es)	レポートに、明細ステータスとは関係なくすべてのタイムシート明細のデータを表示するか、特定のステータスを持つタイムシート明細のデータのみを表示するかを決定します。 次のいずれかの値を選択します。 <ul style="list-style-type: none">• * (デフォルト)• Unsubmitted• Submitted• Approved• Rejected• Frozen• Closed

表 5-1. タイムシートコンプライアンスレポートクエリのプロンプト (続き)

プロンプト	説明
<p>* 必須の値</p> <p>*Time Sheet Status(es)</p>	<p>レポートに、明細ステータスとは関係なくすべてのタイムシートのデータを表示するか、特定のステータスを持つタイムシートのデータのみを表示するかを決定します。</p> <p>次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • * (デフォルト) • Unsubmitted • Pending Approval • In Rework • Approved • Frozen • Closed • Missing <p>注記: [Missing] は、運用レポートにおいてPPM Centerタイムシートの有効なステータスではありませんが、これは割り当てられたステータスのないタイムシートを表します。</p>
<p>* Tolerance for Approval (days)</p>	<p>期間の終了日からの経過日数であり、この日数の経過後はタイムシートをコンプライアンス準拠として承認できません。</p>
<p>* Tolerance for Submission (days)</p>	<p>期間の終了日からの経過日数であり、この日数の経過後はタイムシートをコンプライアンス準拠として送信できません。</p>

表 5-1. タイムシートコンプライアンスレポートクエリのプロンプト (続き)

プロンプト	説明
* 必須の値	
* Top Org Unit	選択された組織単位に基づいてレポートデータをフィルタします。レポートでは、階層内でこの組織単位より下位のすべてのデータが返されます。
Request Type Name(s)	(オプション) 1つまたは複数の選択されたリクエストタイプに基づいてレポートデータをフィルタします。
Project Name(s)	(オプション) 1つまたは複数の選択されたプロジェクトに基づいてレポートデータをフィルタします。
Location Code(s)	(オプション) 1つまたは複数の選択された場所に基づいてレポートデータをフィルタします。
Resource Category(s)	(オプション) 1つまたは複数の選択されたリソースカテゴリに基づいてレポートデータをフィルタします。
Department(s)	(オプション) 1つまたは複数の選択された部署に基づいてレポートデータをフィルタします。
Company(s)	(オプション) 1つまたは複数の選択された会社に基づいてレポートデータをフィルタします。
Charge Code(s)	(オプション) 選択された手数料コードに基づいてレポートデータをフィルタします。

注意: Time Sheet Compliance Reportには、リソースが現在属しているリソースプールのタイムシートが含まれます。これは、タイムシートが今後または過去の期間を対象としており、リソースがその期間において異なるリソースプールに関連付けられている場合でも同様です。

Time Sheet Compliance Reportの結果

以下の項では、さまざまなレポートタブに表示されるTime Sheet Compliance Reportの結果について説明します。

注: 以前にパフォーマンスを向上する目的で監査イベントテーブルからタイムシートデータを削除した場合、そのデータはレポートで使用できず、Time Sheet Compliance Reportの結果にも含まれません。

[Direct Manager] タブ

[Direct Manager] タブには、マネージャ階層とリソースカテゴリごとにグループ化された送信および承認コンプライアンスデータが表示されます。レポートのマネージャ階層は、最上位から3つ下のレベルまで表示されます。レポートの生成に使用されるクエリには、最大10の階層レベルが含まれます。これは、必要に応じてデータをフィルタする場合に役立ちます。

「[表 5-2. Time Sheet Compliance Reportの \[Direct Manager\] タブの列](#)」(111ページ)に、Time Sheet Compliance Reportの [Direct Manager] タブに表示される列の説明を示します。

表 5-2. Time Sheet Compliance Reportの [Direct Manager] タブの列

列見出し	説明
Manager Hierarchy - Level 1	管理階層の最上位レベルマネージャ
Manager Hierarchy - Level 2	管理階層の最上位から2番目のレベルのマネージャ
Manager Hierarchy - Level 3	管理階層の最上位から3番目のレベルのマネージャ
Resource - Direct Manager	リソースの直属 マネージャまたは最下位レベルマネージャ
Resource - Category	リソースが属するカテゴリ
Time Sheet Compliance - Expected Total Time Sheets	コンプライアンスのために送信する必要のあるタイムシートの数
Submissions - Total	送信されたタイムシートの合計数

表 5-2. Time Sheet Compliance Reportの [Direct Manager] タブの列 (続き)

列見出し	説明
Submissions - Compliant	コンプライアンスに準拠した送信済みのタイムシートの合計数
Submissions - % Compliance	コンプライアンスに準拠した送信済みのタイムシートの合計パーセント
Approvals - Total	承認された送信済みのタイムシートの合計数
Approvals - Compliant	承認コンプライアンスに準拠したタイムシートの合計数
Approvals - % Compliance	承認コンプライアンスのパーセント

特定のリソースマネージャの詳細情報を参照するには、ハイパーリンクが設定されたマネージャ名をクリックしてください。リソース情報レポートが新規Webブラウザウィンドウとして開かれ、そこにマネージャの名前、部署、場所、カテゴリ、会社、ロール名、および直属マネージャが表示されます。

[Org Unit] タブ

[Org Unit] タブには、組織単位階層とリソースカテゴリに基づいてグループ化された送信および承認コンプライアンスデータが表示されます。レポートの組織単位階層は、最上位から3つ下のレベルまで表示されます。レポートの生成に使用されるクエリには、最大10の階層レベルが含まれます。これは、必要に応じてデータをフィルタする場合に役立ちます。

「[表 5-3. Time sheet Compliance Reportの \[Org Unit\] タブの列](#)」(112ページ)に、Time Sheet Compliance Reportの [Org Unit] タブに表示される列の説明を示します。

表 5-3. Time sheet Compliance Reportの [Org Unit] タブの列

列見出し	説明
Org Unit Hierarchy - Level 1	組織単位階層の最上位の組織単位

表 5-3. Time sheet Compliance Reportの [Org Unit] タブの列 (続き)

列見出し	説明
Org Unit Hierarchy - Level 2	組織単位階層の最上位から2番目の組織単位
Org Unit Hierarchy - Level 3	組織単位階層の最上位から3番目の組織単位
Resource - Direct Manager	リソースの直属 マネージャまたは最下位レベルマネージャ
Resource - Category	リソースが属するカテゴリ
Time Sheet Compliance - Expected Total Time Sheets	コンプライアンスのために送信する必要のあるタイムシートの数
Submissions - Total	送信されたタイムシートの合計数
Submissions - Compliant	コンプライアンスに準拠した送信済みのタイムシートの合計数
Submissions - % Compliance	送信コンプライアンスのパーセント
Approvals - Total	承認されたタイムシートの合計数
Approvals - Compliant	承認コンプライアンスに準拠したタイムシートの合計数
Approvals - % Compliance	承認コンプライアンスのパーセント

[Org Unit] タブには、組織単位と、各組織単位の3つのレベルのグループ合計が管理階層の最上位から表示されます。特定の組織単位の詳細情報を参照するには、ハイパーリンクが設定された組織単位名をクリックしてください。組織単位情報レポートが新規 Webブラウザウィンドウとして開かれ、そこに組織単位の名前、部署、場所、カテゴリ、および組織単位マネージャのIDが表示されます。

[Resource Pool] タブ

[Resource Pool] タブには、リソースプール階層に基づいてグループ化された送信および承認コンプライアンスデータが表示されます。レポートのリソースプール階層は、最上位から3つ下のレベルまで表示されます。レポートの生成に使用されるクエリには、最大10の階層レベルが含まれます。これは、必要に応じてデータをフィルタする場合に役立ちます。

「表 5-4. Time Sheet Compliance Reportの [Resource Pool] タブの列」(114ページ)に、Time Sheet Compliance Reportの [Resource Pool] タブに表示される列の説明を示します。

表 5-4. Time Sheet Compliance Reportの [Resource Pool] タブの列

列見出し	説明
Resource Pool Hierarchy - Level 1	リソースプール階層の最上位のリソースプール
Resource Pool Hierarchy - Level 2	リソースプール階層の最上位から2番目のリソースプール
Resource Pool Hierarchy - Level 3	リソースプール階層の最上位から3番目のリソースプール
Resource - Resource Pool	リソースが属するリソースプール
Resource - Category	リソースが属するカテゴリ
Time Sheet Compliance - Expected Total Time Sheets	コンプライアンスのために送信する必要のあるタイムシートの数
Submissions - Total	送信されたタイムシートの合計数
Submissions - Compliant	コンプライアンスに準拠した送信済みのタイムシートの合計数
Submissions - % Compliance	送信コンプライアンスのパーセント

表 5-4. Time Sheet Compliance Reportの [Resource Pool] タブの列 (続き)

列見出し	説明
Approvals - Total	承認されたタイムシートの合計数
Approvals - Compliant	承認コンプライアンスに準拠したタイムシートの合計数
Approvals - % Compliance	承認コンプライアンスのパーセント

リソースのマネージャに関する追加情報を含むレポートを参照するには、ハイパーリンクが設定されたマネージャ名をクリックしてください。リソース情報レポートが新規ブラウザウィンドウとして開かれ、そこにマネージャの名前、リソースカテゴリ、場所、部署、会社、直属マネージャ、ロール、および電子メールアドレスが表示されます。

複数のリソースプールに属しているリソースのタイムシートは、リソースプールごとにカウントされます。

注意: Time Sheet Compliance Reportには、リソースが現在属しているリソースプールのタイムシートが含まれます。これは、タイムシートが今後または過去の期間を対象としており、リソースがその期間において異なるリソースプールに関連付けられている場合でも同様です。その結果、Time Sheet Compliance Reportから一部のリソースプールが除外される可能性があります。たとえば、リソースが過去に異なるリソースプールにアサインされていた場合、そのリソースプールはTime Sheet Compliance Reportに含まれません。

HP Time Managementのアドホックレポート

以下の項では、HP Time Managementを対象に作成できる運用レポートについて説明し、それらのレポートのいくつかを作成する方法の例を示します。また、以下の項には、レポートで使用できるコンテキストに関する情報と、運用レポートクエリでのPPM Centerユニバースオブジェクトの使用方法に関するガイドも含まれます。

HP Time Managementのアドホックレポートのコンテキスト

HP Resource Managementのアドホックレポートを作成する場合、InfoViewによってレポートクエリのコンテキストを選択するよう求められることがあります。コンテキストは、複数のディメンションおよびファクトに関連する一意のクエリパスを作成するための、明確に定義された結合のセットで構成されます。

ディメンションの共通セットにレポートユニバースの複数のファクトおよびメジャーが関連している場合、複数のファクトと関連ディメンション間の結合は、ループに陥ります。ファクトおよび関連ディメンションごとに個別のコンテキストを指定することで、ループを排除し、共通ディメンションのセット全体で複数のファクトをクエリできます。

Operational Reportingでは、HP Time Managementデータを対象に作成されるアドホックレポートに次のコンテキストが提供されます。

- 「Time Sheet Compliance」コンテキスト

「Time Sheet Compliance」コンテキストでは、Required Time Sheets、Compliant Submissions、Compliant Approvals、Total Submissions、Total Approvals、Submission Percent、Approval Percentなどのコンプライアンスメジャーをクエリできます。このコンテキストでは、リソースプールがコンプライアンスメジャーのリソーステーブルを通じて結合されます。

注: 欠落したタイムシートには実績が存在しないため、リソースプールは、コンプライアンスメジャーのリソーステーブルを通じて結合されます。リソースプールの正しいコンプライアンスメジャーを取得するため、リソーステーブルとの結合が使用されます。

- 「Time Sheet Actuals」コンテキスト

「Time Sheet Actuals」コンテキストでは、Total EffortやTotal Costなどの実績メジャーをクエリできます。このコンテキストでは、リソースプールがタイムシート実績の実績ファクトテーブルと直接結合されます。

HP Time Managementデータに関するレポートのベストプラクティス

この項では、HP Time Managementデータを対象に作成するアドホック運用レポートから最適な結果を得るための推奨事項について説明します。

複数の作業項目タイプに関するレポート

Time Sheet Linesクラスの単一の作業項目タイプオブジェクト (Project、Request、Miscellaneousオブジェクトなど) が含まれるレポートを生成する場合、レポート結果にはその特定の作業項目タイプの数値のみが含まれます。複数の特定の作業項目タイプオブジェクトが含まれるレポートを生成すると、データは返されません。たとえば、ProjectオブジェクトとRequestオブジェクトの両方が含まれるレポートを作成および実行する場合、タイムシート明細では両方のタイプの作業項目に対して時間が記録されないため、データは返されません。異なる作業項目タイプの結果を参照するには、Project、Request、Miscellaneousなどの個別オブジェクトの代わりに、Work Item TypeやWork Item Type Nameオブジェクトを使用する必要があります。

メジャーを要約した結果の不正確なデータ表示の回避

TM派生ユニバースのメジャーは、タイムシートレベルで定義されます。つまり、タイムシート明細レベルのデータを表示するレポートを作成し、その後、(レポートクエリからではなく) レポート表示からタイムシート明細の属性を削除すると、BusinessObjectsではメジャーが要約 (縮小) されます。

メジャーの要約の結果、不正確なレポートが生成され、クエリで指定されたデータとは異なるデータが表示されます。このような状況でレポートを作成するには、表示に必要な属性を列選択から削除し、クエリでそれらの属性が使用されないようにしてください。

コンプライアンスメジャーに関するレポート

会計期間のコンプライアンスメジャーに関しては、レポートできません。コンプライアンスメジャーは、HP Time Managementの期間でのみサポートされます。

ルールおよび地域

ルールと地域は、両方ともHP Time Managementのどのメジャーでもサポートされません。

値およびパーセントの集計

パーセントは集計できないため、集計機能は、Submission PercentおよびApproval Percentメジャーには適用されません。クエリにSubmission PercentおよびApproval Percentオブジェクトを含めると、BusinessObjectsでは、より上位レベルの値がレポートで集計されません。たとえば、組織、マネージャ、および送信パーセントをクエリすると、組織レベルでは集計コンプライアンスパーセントが表示されません。異なるレベルの集計値を表示する場合、Compliant SubmissionsおよびRequired Timesheetsオブジェクトを使用し、レポートでパーセントを計算する必要があります (この使用方法の詳細については、HP提供によるTime Sheet Compliance Reportを参照してください)。

フィルタを使用したレポート出力の制限

BusinessObjectsでは固定数の行のみが分析されるため (デフォルトは5000)、必ず適切なフィルタを使用してレポート出力を制限してください。

ポジションのルールとそのポジションにアサインされたリソースの ルールの比較

ポジションのルールと、そのポジションにアサインされたリソースの実際のルールを比較するクエリを作成する場合、次の操作を実行する必要があります。

- ポジションのルールのRole Nameオブジェクト (Rolesクラス) を選択します。
- リソースのルールのPrimary Roleオブジェクト (Resourcesクラス) を選択します。
- 「Resource Demand from Staffing Pool Region」コンテキストまたは「Resource Demand on Resource Pool Region」コンテキストを選択します。

大規模データベースに対するクエリ

デフォルトでは、クエリは実行後10分でタイムアウトします。大容量のデータを取得するクエリフィルタを選択した場合、そのクエリはタイムアウトし、レポート結果が返されない可能性があります。この問題の発生を回避するには、次のいずれか1つ、または両方を実行します。

- [Universe Parameters] ダイアログの[Controls] タブで、実行時間の制限値を増やすようにユニバースパラメータを変更します。
- より小規模なデータセットを取得するようにクエリフィルタを変更します。

HP Time Managementのアドホックレポートの作成

PPM Centerに付属するTM派生ユニバースには、HP Time Managementデータを対象にユーザが独自の運用レポートを作成できるクラスとオブジェクトが含まれます。以下に示すのは、HP Time Managementデータを対象に作成できるアドホックレポートのごく一部です。

- [「未済タイムシート」\(120ページ\)](#)
- [「遅延タイムシート送信のトレンド」\(126ページ\)](#)
- [「タイムシート処理のトレンド」\(127ページ\)](#)
- [「プロジェクトに記録された請求可能時間のトラッキング」\(128ページ\)](#)
- [「リソースの進行中作業」\(129ページ\)](#)

注: 以前にパフォーマンスを向上する目的で監査イベントテーブルからタイムシートデータを削除した場合、そのデータはレポートで使用できず、HP Time Managementデータに関するアドホックレポートにも含まれません。

HP Time Managementデータに関するアドホックレポートの例

この項では、HP Time Managementデータに関するレポートのクエリを作成するための詳細な手順について説明します。

未済タイムシート

タイムシートを送信していないリソースを知る必要のある製品マネージャは、どのリソースが、どのプロジェクトマネージャに対して作業しており、所定の期間にタイムシートを送信していないかを確認できるレポートを作成できます。この単純なテーブル形式のレポートには、所定の時間範囲における期間ごとの遅延送信の数が表示されます。日付は、リソースのマネージャの名前に基づいてグループ化されます。

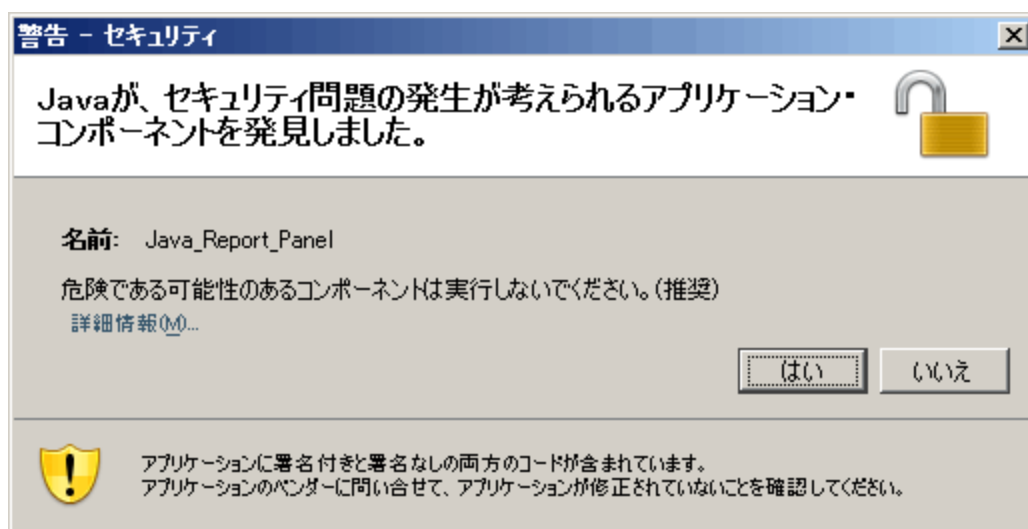
注: 次の例では、このレポートクエリを作成および実行するのに必要な基本手順について説明します。Web Intelligenceドキュメントの作成方法の詳細については、『BusinessObjects Enterprise InfoView User's Guide』を参照してください。

現在の期間でタイムシートをまだ記録していないリソースを表示するレポートを作成するには、次の手順を実行します。

1. InfoViewにログインします。
2. InfoViewのホームページの **[Navigate]** セクションで、**[ドキュメント一覧]** をクリックします。
3. **[新規作成]** メニューで、**[Web Intelligenceドキュメント]** を選択します。

BUSINESSOBJECTS INFOVIEW		Business Objects an SAP company	
ホーム ドキュメント一覧 開く 送信先 ダッシュボード		ヘルプ 基本設定 バージョン情報 ログアウト	
Web Intelligenceドキュメント - 新規ドキュメント			
Universe	Description	Owner	Folder
Activity		Administrator	
eFashion	eFashion retail Data Warehouse created 14 Oct 1998, updated 3 April 2002. 89,000+ row fact table. Version 6.0	Administrator	
eFashion	eFashion retail Data Warehouse dated 14 Oct 2007. 89,000+ row fact table. Version 13	Administrator	/webi universes
FM Derived Universe	HP PPM Financial Management Universe. Version 9.12	Administrator	/WEBI

4. 使用可能なユニバースのリストで、[TM Derived Universe] を選択します。
5. [警告 - セキュリティ] ダイアログボックスが開き、Javaアプリケーションコンポーネントに関するセキュリティ上の問題が勧告され、安全でない可能性があるコンポーネントをブロックできます。[いいえ] をクリックします。

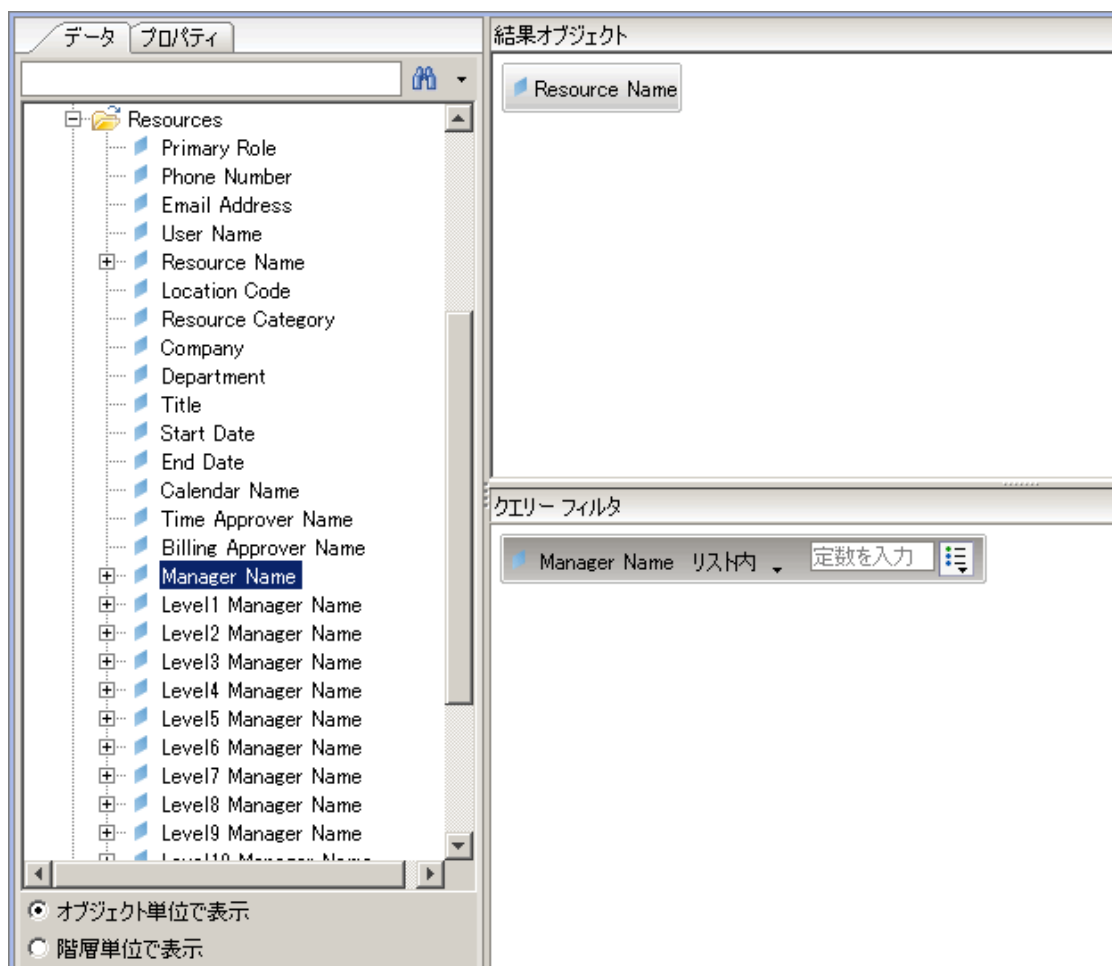


左側のペインの[データ]タブに、TM派生ユニバースで使用可能なすべてのクラスおよびオブジェクトが一覧されます。

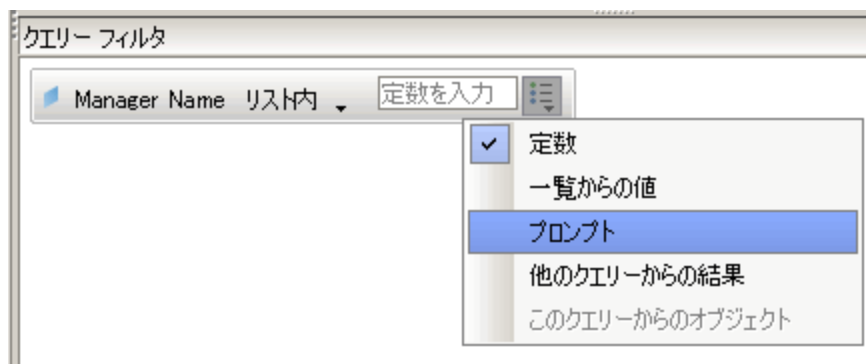
注: ドキュメント一覧に表示されるフォルダおよびオブジェクトは、ユーザがログオンしたアカウント、BusinessObjects Enterprise管理者によってユーザに付与されている権限、およびユーザとその管理者が有効にしている設定に応じて変化します。

6. [Resources] クラスフォルダを展開します。

7. **[Resource Name]** オブジェクトを **[Resources]** クラスフォルダから右上の**[結果オブジェクト]** パネルにドラッグします。
8. **[Manager Name]** オブジェクトを **[Resources]** クラスフォルダから右下の**[クエリーフィルタ]** パネルにドラッグします。



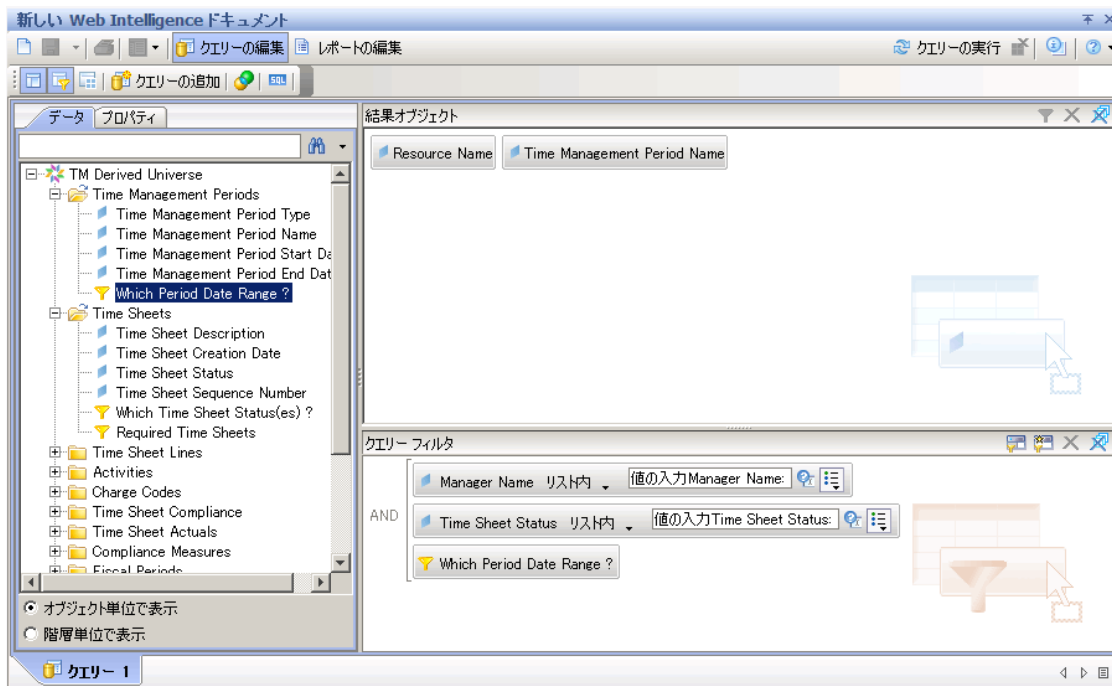
9. **[クエリーフィルタ]** パネルで、**[Manager Name]** ボックスのリストボタン (右端) をクリックし、リストから**[プロンプト]** を選択します。



10. [データ] タブ (左側のパネル) で、[Time Sheets] クラスフォルダを展開します。
11. [Time Sheet Status] オブジェクトを [Time Sheet] クラスフォルダから [クエリーフィルタ] パネルにドラッグします。
12. [クエリーフィルタ] パネルの [Time Sheet Status] ボックスで、リストボタンをクリックし、[プロンプト] を選択します。
13. [データ] タブで、[Time Management Periods] フォルダを展開します。
14. [Time Management Period Name] オブジェクトを [Time Management Periods] クラスフォルダから [結果オブジェクト] パネルにドラッグします。
15. [Which Period Date Range?] オブジェクトを [Time Management Periods] クラスフォルダから [クエリーフィルタ] パネルにドラッグします。

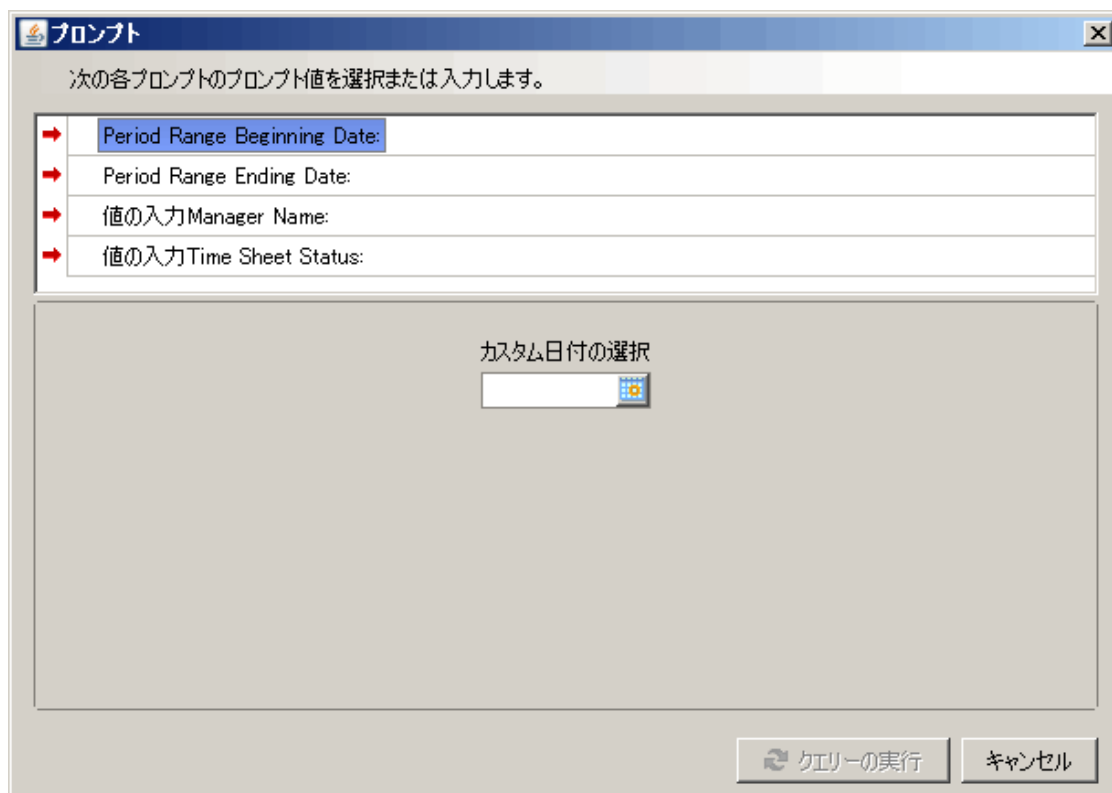
Operational Reportingユーザーガイド

第3章: 運用レポートでのBusinessObjectsの使用



16. [新しいWeb Intelligenceドキュメント] ページの右上の[クエリーの実行]をクリックします。

[プロンプト] ダイアログが表示されます。



17. 次のようにレポートの日付範囲を指定します。
 - a. **[Period Range Beginning Date]** をクリックし、**[カスタム日付の選択]** 複数選択コントロールを使用してレポートデータの開始日を選択します。
 - b. **[Period Range Ending Date]** をクリックし、**[カスタム日付の選択]** 複数選択コントロールを使用してレポートデータの終了日を選択します。
18. 次のように1つまたは複数のマネージャの名前を選択します。
 - a. **[値の入力 Manager Name]** をクリックします。
 - b. **[Manager Name]** リストで、1つまたは複数のマネージャの名前を選択し、右向き矢印をクリックして選択項目を右側のボックスに追加します。
19. **[値の入力 Manager Name]** をクリックし、タイムシートステータスのリストから次の値を

選択します。

- **Unsubmitted**

- **In Rework**

20. [プロンプト] ダイアログの一番下の[クエリーの実行]をクリックします。

InfoViewによってレポートが実行され、リソース名と、そのリソースがまだタイムシートを送信していない期間の名前が一覧されます。

21. レポート結果ページで、[Report Title]をダブルクリックし、有効になったテキストボックスにレポートの名前を入力します。その後、[Enter]を押します。

22. ツールバーの[保存] () をクリックします。

23. ドキュメントに名前を付けて保存します。

HP Time Managementデータに関する追加のアドホックレポート

以下の項では、HP Time Managementの運用レポートを作成するために構築できる追加クエリについて説明します。

遅延タイムシート送信のトレンド

リソースを管理しているユーザと、そのリソースが属するチーム、組織単位、または部署に基づいて遅延タイムシート送信のトレンドを表示できるレポートを作成できます。「[表 5-5. 遅延タイムシート送信のトレンドに関するレポートに含めるTM派生ユニバースオブジェクト](#)」(127ページ)に、このレポートに使用するTM派生ユニバースオブジェクト、それらのオブジェクトが存在するInfoViewの場所、クエリフィルタの設定方法を示します。

表 5-5. 遅延タイムシート送信のトレンドに関するレポートに含めるTM派生ユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Compliance Measures	<ul style="list-style-type: none"> Compliant Submission Submission Percent Total Submissions 	
Resources	<ul style="list-style-type: none"> User Name Manager Name Primary Organization Unit Department 	<ul style="list-style-type: none"> Manager Name/equal to Primary Organization Unit / equal to Department/equal to
Time Management Periods	Which Period Date Range?	Which Period Date Range?

これらのオブジェクトを新規 Web Intelligenceドキュメントに追加する方法の例については、「[HP Time Managementデータに関するアドホックレポートの例](#)」(120ページ)を参照してください。

Web Intelligenceドキュメントの作成後、レポートを実行して結果を確認します。このレポートは、実績や期間データなどの追加情報で拡張できます。また、異なる形式で結果を表示するため、リソース名、部署、マネージャ、または組織単位に基づいてデータをグループ化できます。必要なすべてのデータをレポートに含め、適切に編成したら、そのレポートをExcelまたはPDF形式で保存できます。

タイムシート処理のトレンド

HP Time Managementを担当するPPM Centerのプロジェクトマネージャは、タイムシート処理のトレンドを検出できるレポートを作成できます。このレポートを設定することで、次の項目間の差異を表示できます。

- タイムシート送信とタイムシート承認 (グループ単位)。
- レポート期間の終了とタイムシート承認 (グループ単位)。
- タイムシート再作業とタイムシート承認 (グループ単位)。
- レポート期間の終了とレポート期間のクローズ (グループ単位)

グループに基づいて、却下されたタイムシート (再作業が必要なタイムシート) の数や、タイムシートを複数回却下されたリソースなどを表示するタイムシート却下レートに関するレポートも作成できます。

TM派生ユニバースオブジェクトを新規 Web Intelligenceドキュメントに追加する方法の例については、「[HP Time Managementデータに関するアドホックレポートの例](#)」(120ページ)を参照してください。

プロジェクトに記録された請求可能時間のトラッキング

コンサルタントが記録する請求可能時間を監視する必要がある担当プロジェクトマネージャは、所定の期間にプロジェクトに記録された請求可能時間を表示する、アクティビティコードと手数料コードを含むレポートを作成できます。「[表 5-6. 請求可能時間に関するレポートに含めるTM派生ユニバースオブジェクト](#)」(128ページ)に、このレポートに使用するTM派生ユニバースオブジェクト、それらのオブジェクトが存在するInfoViewの場所、クエリフィルタの設定方法を示します。

表 5-6. 請求可能時間に関するレポートに含めるTM派生ユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Time Sheet Lines	項目名 Item Set Name	
Resources	User Name Manager Name	Manager Name/Equal to

表 5-6. 請求可能時間に関するレポートに含めるTM派生ユニバースオブジェクト (続き)

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Time Management Periods	Time Management Period Name	Which Period Date Range?
Time Sheet Actuals	Total Effort (Hrs)	

生成されるレポートには、リソースが時間および実績工数を記録しているすべての作業項目が表示されます。

TM派生ユニバースオブジェクトを新規Web Intelligenceドキュメントに追加する方法の例については、「[HP Time Managementデータに関するアドホックレポートの例](#)」(120ページ)を参照してください。

リソースの進行中作業

直属の部下がそれぞれ現在行っている作業を知る必要のあるリソースマネージャは、指定した期間においてリソースが関与したこと(プロジェクト、リクエスト、休暇など)を表示するレポートを作成できます。「[表 5-7. リソースの進行中作業に関するレポートに含めるTM派生ユニバースオブジェクト](#)」(129ページ)に、このレポートに使用するTM派生ユニバースオブジェクト、それらのオブジェクトが存在するInfoViewの場所、クエリフィルタの設定方法を示します。

表 5-7. リソースの進行中作業に関するレポートに含めるTM派生ユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Time Sheet Lines	<ul style="list-style-type: none"> Item Name Item Set Name 	
Resources	<ul style="list-style-type: none"> User Name Manager Name 	Manager Name/Equal to

表 5-7. リソースの進行中作業に関するレポートに含めるTM派生ユニバースオブジェクト (続き)

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Time Management Periods	Time Management Period Name	Which Period Date Range?
Time Sheet Actuals	Total Effort (Hrs)	

生成されるレポートには、リソースが時間および実績工数を記録しているすべての作業項目が表示されます。レポートクエリには、リクエストタイプやパッケージなどの追加情報を含めることができます。

HP Time Managementレポートのクエリを作成する際に考慮する必要のある問題

この項では、データに関する運用レポートのクエリを作成する際に考慮する必要のある問題について説明します。この項には、HP Time Managementに関するレポートで使用されるTM派生ユニバースのクラスおよびオブジェクトに対する複数の参照が含まれます。

HP Financial Managementのレポート

- [「本章の概要」\(131ページ\)](#)
- [「Financial Summary Report \(財務サマリレポート\)」\(132ページ\)](#)
- [「HP Financial Managementのアドホックレポート」\(136ページ\)](#)

本章の概要

この章では、HP Resource ManagementのOperational Reportingについて説明します。また、HPが提供する事前設定済みのFinancial Summary Reportと、HP Financial Managementデータを対象に作成できる多くのアドホックレポートの一部に関する情報を提供します。

注: 組織で複数言語のOperational Reportingを有効にしている場合、使用しているロケールに対して運用レポートデータを正しく表示するようにInfoViewを設定していることを確認してください。手順については、[「運用レポートでのBusinessObjectsの使用」\(20ページ\)](#)を参照してください。

Financial Summary Report (財務サマリレポート)

HPがOperational Reportingに提供するFinancial Management Reportを使用して、進行中の工数を監視し、財務予測のために使用できる情報を生成できます。PPM Centerによって、財務マネージャが今後のシナリオを予測できるポートフォリオシナリオが提供されます。これらのシナリオは、Financial Management Reportを使用して相互に、および進行中の工数を対象として直接比較できます。

HP PPM Financial Summary Reportには、予算の計画値と実績値の比較が、その予算関連のすべての属性とともに表示されます。予算情報は、地域、ビジネス目標、または予算タイプ(予算が作成されているエンティティ)に基づいてグループ化できます。

予算値は、費用タイプまたは人件費タイプに基づいて分析できます。予算コストは、フィルタ基準に基づいて、PPM Centerシステムで定義された現地通貨またはその他の通貨で表示可能です。

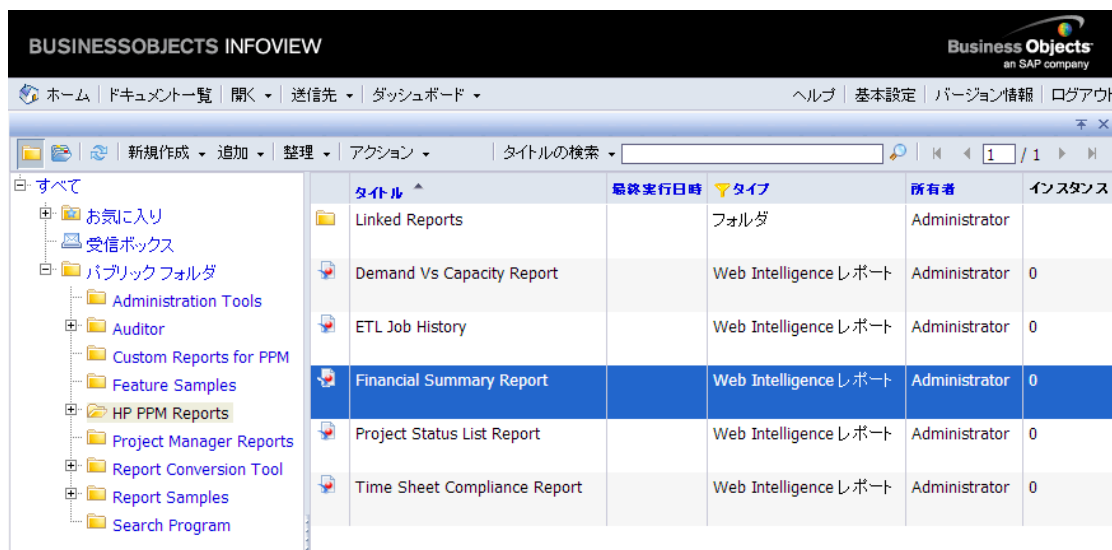
Financial Summary Reportの実行

Financial Summary Reportを実行するには、次の手順を実行します。

1. Webブラウザのウィンドウを開いて、InfoViewにログオンします。
2. InfoViewのホームページの **[Navigate]** セクションまたはヘッダパネルで、**[Document List]** をクリックします。

注: ドキュメントリストに表示されるフォルダおよびオブジェクトは、ユーザがログオンしたアカウント、BusinessObjects Enterprise管理者によってユーザに付与されている権限、およびユーザとその管理者が有効にしている設定に応じて変化します。

3. ページ左側のツリーパネルで、**[Public Folders]** フォルダを展開し、**[HP PPM Reports]** を選択します。



4. 右側のパネルで、**[Financial Summary Report]** をダブルクリックします。

[Prompts] ダイアログに、レポートクエリで使用可能なプロンプトが一覧されます。値が必要なすべてのプロンプトにデフォルト値が割り当てられていますが、これらの値は変更できます。また、一覧されているオプションプロンプトの一部または全部に値を指定できます。

注: プロンプト一覧の左側にある緑のチェックマーク (✓) は、そのプロンプトに1つの値が指定されていることを示します。プロンプト一覧の左側にある赤い矢印 (→) は、そのプロンプトが必須であり、レポートクエリを実行する前に値を指定する必要があることを示します。

5. データをさらに絞り込むには、レポートを実行する前に、次の表に一覧および説明されているプロンプトに情報を提供します。

注: プロンプトに値を指定しない場合、レポートデータにフィルタは適用されません。

プロンプト	説明
* 必須	
*Begin Period	PPM Centerで設定されているすべての会計期間のリストから、レポートに含めるデータの開始期間を選択します。
*End Period	PPM Centerで設定されているすべての会計期間のリストから、レポートに含めるデータの終了期間を選択します。
*Multiply Factor	係数のリストから、次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none">■ 1■ 1,000■ 1,000,000
*Primary Group By	レポートのデータのプライマリグループを決定します。次のいずれかの値を選択します。 <ul style="list-style-type: none">■ Region■ Financial Summary Type■ Business Unit■ Business Objective
*Report Currency	リストから次のいずれかを選択して、財務サマリに関連付けられた通貨がPPM Centerのデフォルト通貨(ベース)または現地通貨に基づくように設定します。 <ul style="list-style-type: none">■ Base■ Local

プロンプト	説明
* 必須	
*Secondary Group By	<p>レポートのデータのセカンダリグループカテゴリを決定します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Expense Type ■ Labor Type
*Time Granularity	<p>レポートに表示されるデータの時間間隔を決定します。次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ [Year] は、期間をyyyyとして表示します。 ■ [Half Year] は、期間をh1またはh2/yyyyとして表示します。 ■ [Quarter] は、期間をquarter/yyyyとして表示します。 ■ [Month] は、期間をmm/yyyyとして表示します。 ■ [Week] は、期間をmm/dd/yyyyとして表示します。
Business Objective Name	<p>レポートに含めるビジネス目標を指定するため、HP Financial Managementのビジネス目標のリストから名前を選択します。</p>
Business Unit	<p>レポートに含めるビジネスユニットを指定するため、HP Financial Managementに設定されているビジネスユニットのリストから名前を選択します。</p>
Financial Summary Name	<p>レポートに含める財務サマリを指定するため、HP Financial Managementの財務サマリのリストから名前を選択します。</p>

プロンプト	説明
* 必須	
Financial Summary Type	レポートに含める財務サマリタイプを指定するため、財務サマリタイプのリストから次の値を1つまたは複数選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ■ Project ■ Proposal ■ Asset ■ Org_Unit ■ Program
Region Name	レポートに含める地域を指定するため、PPM Centerに設定されている地域のリストから名前を選択します。

6. ダイアログの一番上のリストから、プロンプトを選択します。
7. InfoViewでは、ダイアログの左下にあるボックスに一部のプロンプトで使用できる値が一覧されます。選択したプロンプトに対して値が一覧されない場合は、[**Refresh Values**]をクリックして値を表示します。
8. オプションのデータフィルタを指定したら、[**Run Query**]をクリックします。

Web Intelligenceによってデフォルト値のデータが取得され、レポートに結果が返されます。

HP Financial Managementのアドホックレポート

PPM Centerに付属するFM派生ユニバースには、HP Financial Managementデータを対象にユーザが独自の運用レポートを作成するのに使用できるクラスとオブジェクトが含まれます。この項では、HP Financial Managementのアドホックレポートで使用可能なコンテキスト、HP Financial Managementデータに関するレポートを作成する際のベストプラクティ

ス、およびHP Financial Managementを対象に作成可能な多くのアドホックレポートのうちの1つについて説明します。

HP Financial Managementのアドホックレポートのコンテキスト

HP Resource Managementのアドホックレポートを作成する場合、InfoViewによってレポートクエリのコンテキストを選択するよう求められることがあります。コンテキストは、複数のディメンションおよびファクトに関連する一意のクエリパスを作成するための、明確に定義された結合のセットで構成されます。

ディメンションの共通セットにレポートユニバースの複数のファクトおよびメジャーが関連している場合、複数のファクトと関連ディメンション間の結合は、ループに陥ります。ファクトおよび関連ディメンションごとに個別のコンテキストを指定することで、ループを排除し、共通ディメンションのセット全体で複数のファクトをクエリできます。

Operational Reportingでは、HP Financial Managementデータを対象に作成されるアドホックレポートに次のコンテキストが提供されます。

- 「FA for Program」コンテキスト

「FA for Program」コンテキストを使用すると、プログラムの予測および実績データを含むクエリを作成できます。このコンテキストには、提案およびプロジェクトのみを対象とする予測と実績が含まれます（資産は含まれません）。

プログラムの予測および実績データは、月単位で格納されます。「FA for Programs」コンテキストを選択した場合、必ず [Date range] または [Yearly Date Range] フィルタを選択して、所定期間のデータをクエリしてください。

- 「Approved for Programs」コンテキスト

「Approved for Programs」コンテキストでは、プログラムの予測コスト、実績コスト、および承認コストを含むレポートクエリを作成できます。提案、プロジェクト、資産、および組織単位の承認コストは含まれません。

プログラムの予測コスト、実績コスト、および承認コストデータは、年単位で格納されます。「Approved for Programs」コンテキストを選択した場合、必ず [Yearly Date Range] フィルタを選択して、所定期間のデータをクエリしてください。

- 「FA for Proposal/Project/Asset」コンテキスト

「FA for Proposal/Project/Asset」コンテキストでは、提案、プロジェクト、および資産の予測と実績を含むレポートクエリを作成できます。プログラムと組織単位の予測および実績データは含まれません。

提案、プロジェクト、資産の予測および実績データは、月単位で格納されます。「FA for Proposal/Project/Asset」コンテキストを選択した場合、必ず [Date range] または [Yearly Date Range] フィルタを選択して、所定期間のデータをクエリしてください。

- 「Approved for Proposal/Project/Asset」コンテキスト

「Approved for Proposal/Project/Asset」コンテキストでは、提案、プロジェクト、および資産の承認コストデータを含むレポートクエリを作成できます。プログラムと組織単位の承認コストデータは含まれません。

提案、プロジェクト、および資産の承認コストデータは、年単位で格納されます。「Approved for Proposal/Project/Asset」コンテキストを選択した場合、必ず [Yearly Date Range] フィルタを選択して、所定期間のデータをクエリしてください。

- 「Approved for Org Units」コンテキスト

「Approved for Org Units」コンテキストでは、組織単位のコスト、実績コスト、および承認コストデータを含むレポートクエリを作成できます。プログラム、提案、プロジェクト、および資産の承認コストデータは含まれません。

組織単位のコスト、実績コスト、および承認コストデータは、年単位で格納されます。「Approved for Org Units」コンテキストを選択した場合、必ず [Yearly Date Range] フィルタを選択して、所定期間のデータをクエリしてください。

HP Financial Managementデータに関するレポートのベストプラクティス

この項では、HP Financial Managementデータを対象に作成するアドホック運用レポートから最適な結果を得るための推奨事項について説明します。

プログラムが複数のビジネス目標を含む場合のビジネス目標ごとのプログラムメジャーのグループ化

たとえば、ビジネス目標ごとにグループ化されたプログラムメジャー (Forecast、Actuals、Approvedなど) を含むアドホックレポートクエリを作成し、そのクエリ結果に (FM派生ユニバースの) Business Objectivesクラスから1つまたは複数のオブジェクトを含めるとします。複数のビジネス目標を含むプログラムに関してレポートすると、生成されるメジャーのデータに、関連するビジネス目標の数が掛けられます。この操作により、正しくないレポートデータが生成されます。

この問題を回避するには、プログラムにおける個別のビジネス目標の数をカウントするレポート変数を作成します。プログラムメジャーを表示する各アドホックレポートセルでこの変数を使用し、セルの合計をその値で割ります (Financial Summary Reportでは、このメカニズムが使用されます)。

大規模データベースに対するクエリ

デフォルトでは、クエリは実行後10分でタイムアウトします。大容量のデータを取得するクエリフィルタを選択した場合、そのクエリはタイムアウトし、レポート結果が返されない可能性があります。この問題の発生を回避するには、次のいずれか1つ、または両方を実行します。

- [Universe Parameters] ダイアログの [Controls] タブで、実行時間の制限値を増やすようにユニバースパラメータを変更します。
- より小規模なデータセットを取得するようにクエリフィルタを変更します。

Financial Summary Reportでの年次粒度の選択

時間粒度として年を選択し、Financial Summary Reportを実行する場合、会計年の開始月を開始期間として、会計年の終了月を終了期間として指定する必要があります。このように設定しないと、ForecastおよびActualsメジャーの年次値が間違ったものになります。

プログラムの財務サマリの無効化

HP Program Managementでは、プログラムに関連付けられた財務サマリを無効にできません (詳細については、『HP Program Managementユーザーガイド』を参照してください)。HP Financial Managementデータの通常の増分更新時に、プログラムの財務サマリデータは、レポートデータベースに転送されます。Financial Summary Reportの結果には、財務サマリデータは含まれませんが、HP Financial Managementのアドホックレポートの結果には、このデータが含まれます。

財務サマリが無効化されているプログラムをフィルタで除外するには、InfoViewでレポートクエリを作成する際に次のいずれかの操作を実行します。

- **[Financial Summary: Enabled]** フィルタ (FM派生ユニバース、Financial Summaryクラス) を [クエリーフィルタ] パネルに追加します。

または、次の手順を実行します。

1. **[Financial Summary Enabled]** オブジェクト (FM派生ユニバース、Financial Summaryクラス) を [クエリーフィルタ] パネルに追加します。
2. [クエリーフィルタ] パネルで、**[Financial Summary Enabled]** ボックスのリストボタン (右端) をクリックし、リストから [プロンプト] を選択します。
3. レポートを実行し、**[Financial Summary Enabled]** の値を求められたら、「Y」を入力します。

ポジションのロールとそのポジションにアサインされたリソースのロールの比較

ポジションのロールと、そのポジションにアサインされたリソースの実際のロールを比較するクエリを作成する場合、次の操作を実行する必要があります。

- ポジションのロールのRole Nameオブジェクト (Rolesクラス) を選択します。
- リソースのロールのPrimary Roleオブジェクト (Resourceクラス) を選択します。

- 「Resource Demand from Staffing Pool Region」コンテキストまたは「Resource Demand on Resource Pool Region」コンテキストを選択します。

HP Financial Managementのアドホックレポートの作成

PPM Centerに付属するFM派生ユニバースには、HP Financial Managementデータを対象にユーザが独自の運用レポートを作成するのに使用できるクラスとオブジェクトが含まれます。以下に示すのは、HP Financial Managementデータを対象に作成できるアドホックレポートの例です。

- [「プログラムごとの資産、提案、およびプロジェクトの例」\(141ページ\)](#)
- [「予算超過のプロジェクト、提案、資産、およびプログラム\(日付別\)」\(144ページ\)](#)
- [「プログラムのライフサイクルエンティティとサブプログラム」\(146ページ\)](#)
- [「組織単位の承認された予算情報\(地域別\)」\(149ページ\)](#)
- [「プログラム、組織単位、およびライフサイクルエンティティの財務データ\(ユーザデータフィールドのデータを含む\)」\(149ページ\)](#)

プログラムごとの資産、提案、およびプロジェクトの例

プログラムマネージャは、プログラムに関連付けられたすべての資産、提案、およびプロジェクトを表示するレポートを作成できます。「[表 6-1. プログラムに関連付けられている資産、提案、およびプロジェクトに関するレポートに含めるFMユニバースオブジェクト](#)」(141ページ)に、このレポートの作成に使用するFM派生ユニバースオブジェクトと、それらのオブジェクトが存在するInfoViewの場所を示します。

表 6-1. プログラムに関連付けられている資産、提案、およびプロジェクトに関するレポートに含めるFMユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/ フィルタタイプ
Fiscal Periods	Year Period Name	Date Range

表 6-1. プログラムに関連付けられている資産、提案、およびプロジェクトに関するレポートに含めるFMユニバースオブジェクト (続き)

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/ フィルタタイプ
Financial Summary > Approved Budget	Approved Base	
Financial Summary > Forecast & Actuals > Costs	Forecast Base Actual Base	

表 6-1. プログラムに関連付けられている資産、提案、およびプロジェクトに関するレポートに含めるFMユニバースオブジェクト (続き)

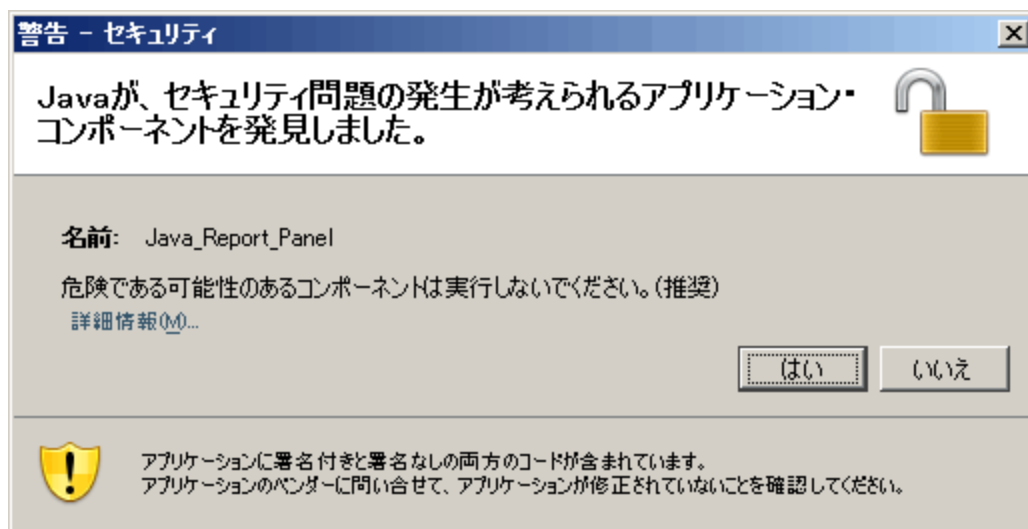
オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/ フィルタタイプ
Proposals, Projects and Assets (Lifecycle Entities)	Parent Program Name Financial Summary Name Source Entity Type Request ID Request Status Request Type Name Active Workflow Step Name Application Business Objective Name Business Unit Department Entity Asset Class Entity Project Class Entity Region Priority Source Entity Health Source Entity Name Workflow Name	Parent Program Name

予算超過のプロジェクト、提案、資産、およびプログラム(日付別)

所定の日付で承認または予測された予算を超過するプロジェクト、提案、資産、およびプログラムを表示するレポートのクエリを作成できます。InfoViewでこのクエリを作成する前に、最初にUniverse Designerを使用して、FM派生ユニバース内に新しいオブジェクトを作成する必要があります。

所定の日付で承認または予測された予算を超過するプロジェクト、提案、資産、およびプログラムに関するレポートを作成するには、次の手順を実行します。

1. Universe DesignerでFM派生ユニバースを開きます。
2. [警告 - セキュリティ] ダイアログボックスが開き、Javaアプリケーションコンポーネントに関するセキュリティ上の問題が勧告され、安全でない可能性があるコンポーネントをブロックできます。[いいえ]をクリックします。



3. [Classes and Objects] パネルで、[Costs] フォルダ ([Financial Summary] > [Forecast & Actuals] > [Costs]) を右クリックし、[Object] を選択します。
4. [Edit Properties] ダイアログボックスで、オブジェクトに "Percentage Filter" という名前を付け、次のステートメントを [Select] セクションに追加します。

CASE

```
WHEN (@Select(Costs\Forecast Base) IS NOT NULL AND @Select
```



```
(Costs\Forecast Base)!=0) THEN
@Select(Costs\Actual Base) / @Select(Costs\Forecast Base) *
100
END
```

5. selectステートメントの構文エラーを解析し、FM派生ユニバースを保存およびエクスポートします。
6. InfoViewにログオンし、新しいWeb Intelligenceレポートクエリを作成します。

次の表に、このレポートに使用するFM派生ユニバースオブジェクト、それらのオブジェクトが存在するInfoViewの場所、クエリフィルタの設定方法を示します。

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Proposals, Projects and Assets (Lifecycle Entities)	Entity Name Request Id Financial Summary Name Entity Type	
Financial Summary > Forecast & Actuals > Lines	Expense Type Code Labor Type Code Category Name	Expense Type Code / In list / Capital
Fiscal Periods	Month Period Name (またはその他の粒度)	Date Range
Financial Summary > Forecast & Actuals > Costs	<ul style="list-style-type: none"> ■ Forecast Base ■ Actual Base ■ Forecasted vs. Actual (%) ■ Percentage Filter 	<ul style="list-style-type: none"> ■ Percentage Filter / Greater than / Constant (100) ■ Exclude Snapshot & FD

プログラムのライフサイクルエンティティとサブプログラム

プログラムに関連付けられているライフサイクルエンティティとサブプログラムをリストするレポートを作成できます。「表 6-2. 特定のプログラムに関連付けられているライフサイクルエンティティとサブプログラムに関するレポートに含めるFMユニバースオブジェクト」(147ページ)に、このレポートに使用するFM派生ユニバースオブジェクト、それらのオブジェクトが存在するInfoViewの場所、クエリフィルタの設定方法を示します。

表 6-2. 特定のプログラムに関連付けられているライフサイクルエンティティとサブプログラムに関するレポートに含めるFMユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Proposals, Projects and Assets (Lifecycle Entities)	Parent Program Name Financial Summary Name Entity Type Request Id Request Status Request Type Name Active Workflow Step Name Application Business Objective Name Business Unit Department Asset Class Project Class Region Priority Entity Health Entity Name Workflow Name	Parent Program Name / In list / Prompt
Request Information	Entity Type	
Fiscal Periods	Year Period Name	Yearly Date Range

表 6-2. 特定のプログラムに関連付けられているライフサイクルエンティティとサブプログラムに関するレポートに含めるFMユニバースオブジェクト (続き)

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
Financial Summary > Approved Budget	Approved Base Forecast Base Actual Base	

組織単位の承認された予算情報 (地域別)

地域に基づき、PPM Centerで定義された組織単位の承認された予算情報を表示するレポートを作成できます。「[表 6-3. 組織単位の承認された予算情報 \(地域別\) に関するレポートのクエリを追加するFMユニバースオブジェクト](#)」(149ページ)に、このレポートに使用するFM派生ユニバースオブジェクト、それらのオブジェクトが存在するInfoViewの場所、クエリフィルタの設定方法を示します。

表 6-3. 組織単位の承認された予算情報 (地域別) に関するレポートのクエリを追加するFMユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子/フィルタタイプ
承認された予算	Approved Base Direct Parent Name Financial Summary Type	Financial Summary Type / Equal to / Value from list > ORGANIZATION UNIT
Regions	Region Name	Region Name / In list / Prompt

プログラム、組織単位、およびライフサイクルエンティティの財務データ(ユーザデータフィールドのデータを含む)

プログラム、組織単位、およびライフサイクルエンティティの財務データ (PPM Centerで設定したユーザデータフィールドのデータを含む) を表示するレポートを作成できます。「[表 6-4. プログラム、組織単位、およびLCEの財務情報に関するレポートのクエリを追加するFMユニバースオブジェクト](#)」(150ページ)に、このレポートに使用するFM派生ユニバースオブジェクト、それらのオブジェクトが存在するInfoViewの場所、クエリフィルタの設定方法を示します。

注: PPM Centerフォームに存在するカスタマイズされたユーザデータフィールドをアドホックレポートに追加する方法については、「[アドホック運用レポートへのカスタマイズされたPPM Centerデータフィールドの追加](#)」(156ページ)を参照してください。

表 6-4. プログラム、組織単位、およびLCEの財務情報に関するレポートのクエリを追加するFMユニバースオブジェクト

オブジェクトクラス	結果オブジェクト	クエリフィルタ/演算子 フィルタタイプ
Financial Summary > Approved Budget	<ul style="list-style-type: none"> Actual Base Direct Parent Name Financial Summary Type Forecast Base 	
<p>レポートする特定のディメンションに応じて、次のいずれか:</p> <ul style="list-style-type: none"> Forecast & Actual > Forecast & Actual User Configured Data > Line Level User Configured Data (または Section Level User Configured Data) Programs > Programs User Configured Data Proposal, Project, Asset > Proposal, Project, Asset & Other Requests User Configured Data 	Visible User Data (1つまたは複数)	Visible User Data /Equal to / Value(s) from list

レポートポートレット

- 「[Operational Reportingポートレットの概要](#)」(151ページ)
- 「[PPM Dashboardページへの運用レポートポートレットの追加](#)」(153ページ)

Operational Reportingポートレットの概要

HPには、PPM Dashboardページから運用レポートにアクセスできる、2つのPPM Centerポートレット (運用レポートポートレットと運用レポートリストポートレット) が用意されています。本章では、レポートポートレット、およびこれらのポートレットをPPM Dashboard内のプライベートページに追加する方法について説明します。

運用レポートリストポートレット

運用レポートリストポートレットには、HPがOperational Reportingで提供する事前設定済みの各運用レポートへのリンクが用意されています。レポートへのリンクをクリックしてInfoViewにログオンすると、リンクされているすべてのレポートと選択したレポートに関連付けられているドリルダウン機能にアクセスできます。

デフォルトでは、運用レポートリストポートレットは、HP Financial Management、HP Project Management、HP Resource Management、HP Time Managementの各データに関するHP提供による運用レポートをリストします。管理者がこれらのポートレットにアドホックレポートを追加した場合、運用レポートリストポートレットからこれらのレポートにもアクセスできます。「[図 7-1. PPM Dashboardページ上の運用レポートリストポートレット](#)」(151ページ)に、PPM Dashboardページに表示される運用レポートリストポートレットを示します。

図 7-1. PPM Dashboardページ上の運用レポートリストポートレット

hp Project and Portfolio Management Center ユーザ: Admin User | サインアウト

ダッシュボード ▼ 開く ▼ 検索 ▼ 作成 ▼ マイリンク ▼ 履歴 ▼ ★

ダッシュボード - Key Status Information > ダッシュボード - Operational Reports > ポートレット プリファレンスの編集: 運用レポート リスト > ダッシュボード - Operational Reports

Operational Reports リセット サイクル エクスポート 追加 パーソナライズ

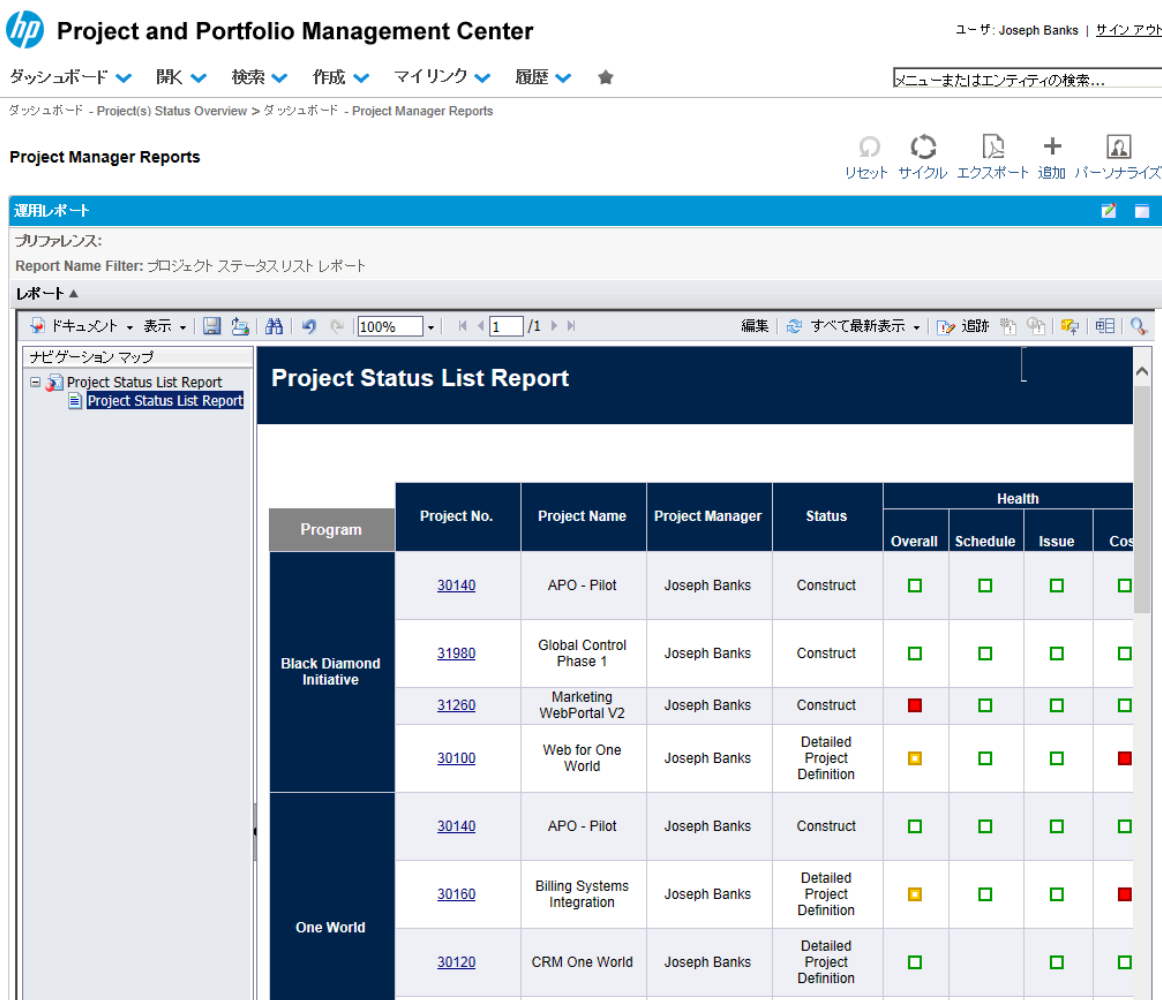
運用レポートリスト
プリファレンス:
Report Name
Estimated_Efforts_test
Demand Vs Capacity Report
Time Sheet Compliance Report
Project Status List Report
Financial Summary Report
Excelにエクスポート

1 - 5 / 5を表示

運用レポートポートレット

運用レポートポートレットは、選択したレポート名に基づいてHP提供による運用レポートを表示します。表示するアドホックレポートの名前を選択してポートレットプリファレンスを編集し、InfoViewにログオンすると、選択したレポートにアクセスできます。次の図に、PPM Dashboardページに表示されるプロジェクトステータスリストレポートを示します。

図 7-2. PPM Dashboardページ上の運用レポートポートレット



運用レポートポートレットのセキュリティ

InfoViewからレポートを表示するのに必要な権限がある場合、PPM Dashboardページからのレポートポートレットで同じレポートを表示できます。

PPM Dashboardページへの運用レポートポートレットの追加

システムのパフォーマンスを最適化するために、HPでは、運用レポートポートレットを、Operational Reporting以外のカテゴリに属しているポートレットをまだ表示していないPPM Dashboardページに追加することを強くお勧めします。

PPM DashboardページにOperational Reportingポートレットを追加するには、次の手順を実行します。


1. PPM Centerの標準インターフェースから、レポートポートレットを追加するPPM Dashboardページに移動 (または作成) します。



2. [ポートレットの追加] ボタンをクリックします。



3. [ポートレットの追加] ウィンドウの[カテゴリ] リストから、[Operational Reporting (運用レポート)]を選択します。

 Project and Portfolio Management Center

ポートレットの追加

追加するポートレットの検索

カテゴリ: 運用レポート ▼

ポートレット名:

追加するポートレットの選択 2 結果

<input type="checkbox"/>	ポートレット名	カテゴリ	説明	ヘルプ
<input checked="" type="checkbox"/>	運用レポート	運用レポート	選択したレポート名に基づいて、HP 提供の運用レポートを表示します。	
<input checked="" type="checkbox"/>	運用レポート リスト	運用レポート	HP 提供の各運用レポートへのリンクを表示します。	

4. 1つまたは両方のチェックボックスを選択し、[追加]をクリックします。
5. PPM Dashboardページに運用レポートポートレットを追加した場合は、次のように表示するポートレットのレポートを選択します。
 - a. [運用レポート] ボックスで、[ポートレットプリファレンスの編集] アイコンをクリックします。

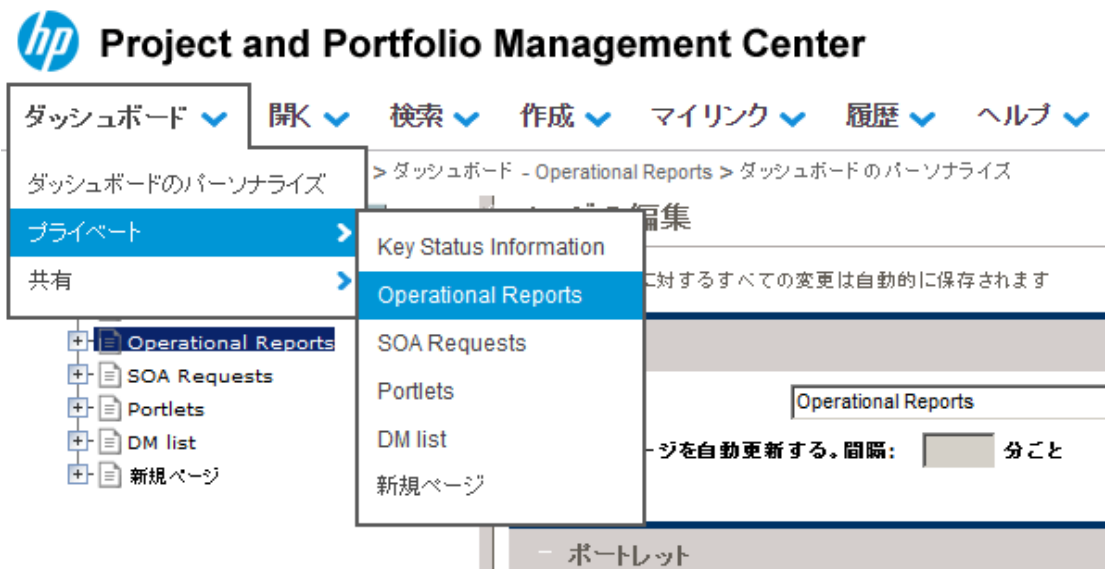


[プリファレンスの編集] ページが開きます。



- b. [レポート名フィルタ] リストから、ポータルレットに表示するレポートの名前を選択します。
 - c. [保存] をクリックします。
6. ブラウザとしてInternet Explorerを使用する場合は、次の手順を実行します。
- a. Internet Explorerブラウザのウィンドウから、[ツール] > [インターネットオプション] を選択します。
 - b. [セキュリティ] タブをクリックし、[セキュリティ設定を表示または変更するゾーンを選択してください] ボックスで、[信頼済みサイト] をクリックします。

- c. [サイト] をクリックします。
 - d. [信頼済みサイト] ダイアログボックスで、BusinessObjectsサーバのベースURLを追加します。
7. [ダッシュボード] メニューから、レポートポートレットを含むPPM Dashboardページに移動します。



アドホック運用レポートへのカスタマイズされたPPM Centerデータフィールドの追加

- 「[運用レポートへのユーザデータフィールドの追加](#)」(156ページ)
- 「[運用レポートの保存および共有](#)」(160ページ)

運用レポートへのユーザデータフィールドの追加

この章では、Operational Reporting内のPPM Centerフォームに存在するカスタマイズされたユーザデータフィールドを公開し、レポートに追加する方法について説明します。また、

InfoViewで作成したレポートを保存および共有する方法についても説明します。

フィールドを追加するには、最初にPPM Centerのユーザデータフィールドを表すようにユニバースユーザデータオブジェクトを編集し、次にそのユーザデータフィールドをInfoViewでアドホックレポートに追加します。以下の項では、これらのタスクの手順について説明します。

注: PPM Centerユニバースのユーザデータオブジェクトの詳細については、『Data Model Guide』を参照してください。

カスタムパラメータをレポートに追加する方法については、『Operational Reporting Administrator’s Guide』を参照してください。

ユーザデータフィールドを表すためのユーザデータオブジェクトの編集

PPM Centerに存在するユーザデータフィールドを表すようにユーザデータオブジェクトを編集するには、次の手順を実行します。

1. Universe Designerにログオンし、レポート対象のPPM Centerモジュールに関連付けられたユニバースを開きます。
2. [Universe] パネル(左側のパネル)で、ユーザデータフィールドが定義されているPPM Centerエンティティのユーザ設定データオブジェクトが含まれるサブクラスに移動します。
3. PPM Centerのユーザデータフィールドに対応する[Visible User Data] オブジェクトをダブルクリックします。たとえば、ユーザデータフィールドがPPM Centerのリクエストに対して定義されており、そのユーザデータの修飾子がUSER_DATA3である場合、Universe Designerの[Universe] ペインで、[Request User Configured Data] サブクラスに移動し、[Visible User Data3] をダブルクリックします。

[Edit Properties of Visible User Data<N>] ダイアログで、[Definition] タブが表示されます。

4. [名前] ボックスで、既存の値をPPM Centerで定義されているユーザデータフィールドの名前で置き換えます。
5. [OK] をクリックしてファイルを保存します。
6. 運用レポートに含める追加ユーザデータフィールドごとに、手順2から手順4を繰り返します。
7. 次のように、変更したユニバースをBusinessObjectsリポジトリに保存します。

- a. [File] > [Export] をクリックします。

[Export Universe] ダイアログが表示されます。

- b. [Domain] ボックスに表示されていないフォルダにユニバースをエクスポートするには、[Browse] をクリックし、別のドメインを検索して選択します。

- c. [Group] ボックスで、エクスポートされたユニバースにアクセスする必要がある1つまたは複数のグループを選択します ([Universes] リストでは、変更されたユニバースがデフォルトで選択されます)。

Universe Designerに、エクスポート操作を確認するメッセージが表示されます。

これで、ユーザは、InfoViewで変更されたユニバースオブジェクトにアクセスできます。

8. InfoViewにログオンし、ユーザデータフィールドを追加するWeb Intelligenceレポートドキュメントを開きます。
9. [プロンプト] ダイアログで、必要なプロンプトの値を選択し、[クエリーの実行] をクリックします。
10. InfoViewツールバーの [Edit] をクリックします。
11. Web Intelligenceツールバーの [Edit Query] をクリックします。

[Universe] ペインの [データ] タブに、変更およびエクスポートしたユニバースのすべてのオブジェクトが一覧されます。

- a. レポートクエリフィルタとしてユーザデータフィールドのユーザ設定オブジェクトを追加し、プロンプトプロパティを設定するには、次の手順を実行します。

- b. [データ] タブで、オブジェクトを選択して右側の [クエリーフィルタ] セクションにドラッグアンドドロップします。このオブジェクトは、ほかのプロンプトとともに [プロンプト] ダイアログに一覧されます。
- c. プロンプトのクエリ演算子を変更するには、演算子のリストから任意の演算子を選択します。
- d. [クエリーフィルタ] セクションのプロンプトオブジェクトで、[プロンプトプロパティ] をクリックします。

[プロンプト] ダイアログが表示されます。
- e. プロンプトのプロパティを設定し、[OK] をクリックします。

12. レポート結果ページで、レポート内の適切な場所にフィールドをドラッグします。

ユーザデータフィールドを含めるためのアドホックレポートの編集

ユーザデータフィールドを含めるためにアドホックレポートを編集するには、次の手順を実行します。

1. InfoViewにログオンし、レポートのWeb Intelligenceドキュメントを開きます。
2. スタッフィングプロファイル明細のユーザデータフィールド用の新規フィルタを追加し、レポートクエリに含めます。
3. スタッフィングプロファイル明細のユーザデータフィールド用の新規表示列を追加し、レポートに含めます。
4. スタッフィングプロファイル明細のユーザデータフィールド用の新規グループ化メカニズムを追加し、レポートに含めます。
5. リソースプールのユーザデータフィールド用の新規フィルタを追加し、レポートクエリに含めます。
6. リソースプールのユーザデータフィールド用の新規表示列を追加し、レポートに含めます。

7. リソースプールのユーザデータフィールド用の新規グループ化メカニズムを追加し、レポートに含めます。
8. レポートクエリを実行します。

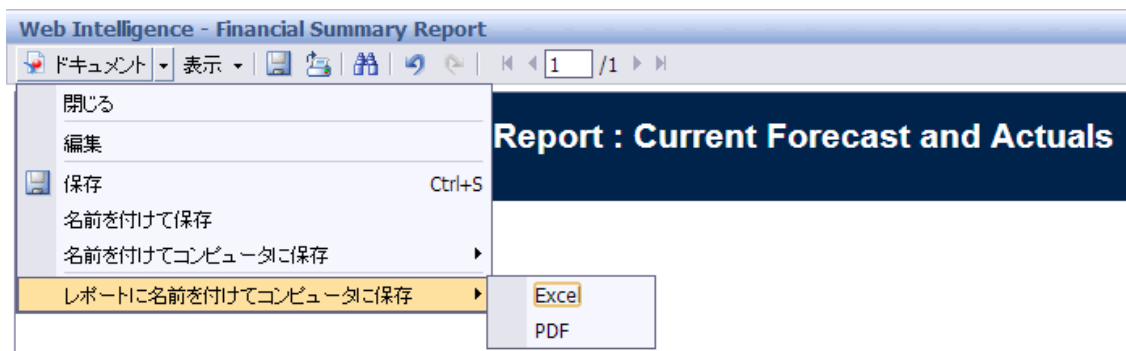
運用レポートの保存および共有

レポート閲覧者がInfoViewを使用している場合、運用レポートを公開ドキュメントとして保存し、利害関係者に直接送信できます。また、指定した日時に自動的にリフレッシュおよび配布するように、ドキュメントをスケジュールできます。InfoViewを使用していない閲覧者とレポートを共有する場合、受取人が表示および印刷できる電子メール添付ファイルとしてMicrosoft Excel、PDF、およびWeb Intelligenceドキュメントの形式でレポートを送信できます。InfoViewでは、次の形式のファイルとしてレポート (Web Intelligenceドキュメント) を保存できます。

- Excelスプレッドシート
- PDFファイル
- CSV (カンマ区切り値) ファイル

レポートの結果をExcelスプレッドシートまたはPDFファイルとしてコンピュータに保存するには、次の手順を実行します。

- **[Document]** > **[Save report to my computer as]** を選択し、次に **[Excel]** または **[PDF]** を選択します。



Excelスプレッドシートとしてレポートを保存する際の制限事項

BusinessObjectsでは、独自の内部ライブラリを使用してExcelドキュメントを生成します(ローカルにインストールされているExcelのバージョンは無関係です)。これらの内部ライブラリでは、行および列に関してExcel 2003と同じ制限を持つドキュメントが作成されません。エクスポートされたレポート結果の表示に使用するExcelのバージョンにかかわらず、データは失われます。

回避策

Excelスプレッドシートにエクスポートされるレポート結果に適用される制限を回避するには、レポートをtxt形式で保存してから、そのテキストドキュメントをExcel 2007にインポートしてください。ただし、この場合、結果のデータはすべて保持されますが、フォーマットは失われます。

ドキュメントのフィードバックを送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールで[ドキュメント制作チームまでご連絡](#)ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

Feedback on Operational Reporting User's Guide (Project and Portfolio Management Center Content Pack 2.0)

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信]をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、HPSW-BTO-PPM-SHIE@hp.com宛にお送りください。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。